

松山東雲女子大学
人文科学部 心理子ども学科
卒業研究抄録
2022年度

		ページNo
指導教員	岡部 祐子	1
指導教員	鏡原 崇史	2
指導教員	影浦 紀子	3
指導教員	小池 美知子	4
指導教員	小西 敏雄	5
指導教員	西村 浩子	6
指導教員	増本 達彦	7
指導教員	門田・リングK	8
指導教員	河原 理	9
指導教員	蔵前 知美	10
指導教員	友川 礼	11
指導教員	政本 香	12
指導教員	森 日出樹	13
指導教員	安田 孝	14
指導教員	安田 光良	15
指導教員	善本 裕子	16

氏 名	鯨本あかり	学籍番号	J019011	ゼミ No.	1
テーマ	幼児の食べる楽しさの援助について				
<u>1. 研究の動機</u> 私は、幼少の頃から食に対して興味・関心があり、与えられるものは好き嫌いなく喜んで食べてきた。しかし、実習を経験する中で、食の細い子どもや好き嫌いのある子どもが多くおり、楽しいはずの食事の時間が苦痛をもたらす時間となっている子どもが少なくないことを知った。これについて、飽食や過保護、個食（孤食）といった時代背景からくるものなのか、普遍的に好き嫌いは一定数あるものなのか、また、好き嫌いは直せたり防いだりすることができるのかという疑問が生じた。心身の発達が著しい幼児にとって、食事の時間は楽しく、幸せな時間となってほしいと感じたことから、本テーマについて研究を行うこととした。 <u>2. 研究方法</u> 第 1 章では、幼児の好き嫌いや幼児の食を取り巻く環境について文献を整理し、幼児を取り巻く食の課題や、幼児期の好き嫌いについて検討した。第 2 章では、保育実践事例より、昼食時の子どもの様子や、子どもと保育者との関わりについて観察・記録を行い、分析した。第 3 章では、保育者に対し、幼児にとって望ましい食事の在り方、楽しく食事できるための保育者の関わり方や食事環境、園での取り組みについてインタビュー調査を行い、整理・分析した。これらの結論を踏まえて、本論文のまとめとし、終章によってこれらの総括を行い、総合的な考察をした。 <u>3. 結論</u> 幼児の食の嗜好は、乳幼児期から始まっていることが多く、親の食嗜好も関係していることが分かった。また、子どもが食事づくりに積極的に参加することは、食への興味・関心を深めることへ繋がると考えられる。調査を行った認定こども園では、子ども達が食材に興味・関心を持つことができるように、実際に野菜や米を育て、収穫するといった活動に取り組んでいた。この活動を通して、ただ育てるだけではなく、種蒔きから収穫といった一連の流れを経験することで、目の前の食物の来歴を知り、より食事を美味しく頂けるということが期待できる。 この研究を通して、食の嗜好が幼児期より始まることから、共に暮らす大人からの影響が大きいことや、好き嫌い自体に注目するよりも、園での栽培・調理など楽しく興味深い体験を増やしていくことが重要であると考えた。幼児の食事の時間が楽しく、幸せな時間となるためには、嫌いな物を無理に食べさせるのではなく、大切な食物を「いただく」という食事の場の雰囲気大切にすることや、周りの子ども達や保育者等の援助が重要であることが明らかとなった。現在の子どもの食の問題と向き合いながら保育実践者として、幼児にとっての食について今後も、学び考えていきたい。					

氏 名	島袋麻希	学籍番号	J019018	ゼミ No.	1
テーマ	清涼飲料水が幼児に与える影響について				

1.研究の動機

私は、スポーツをしていることから、一瞬で喉を潤すことのできる清涼飲料水が好きである。しかし、幼いころは両親の「体に悪い」という考えから、自由に飲むことができなかった。中学、高校でも顧問から禁止されていたが、自由に購入できる年齢になったため、部活終わりに飲む機会が増えていった。この時に飲んだ清涼飲料水は、身体の熱や疲労感を軽減してくれたように感じた。この経験から、清涼飲料水は、身体に悪影響を及ぼすだけのものとはいえないと考えるようになった。幼児期の子どもと清涼飲料水について調べてみたところ、その多くの文献が子どもの健康を害するものとして取り上げている。しかし、子どもの視点からは、また違った見方ができる。実習期間中に保育参観があり、子どもたちが保護者と別れることに寂しい表情を浮かべつつグッと堪える子ども、泣いてしまったがバイバイできた子ども、教師はみんなに「頑張ったね」と声を掛けた。保育参観の終了後には、頑張った子どもたちにご褒美としてジュースを配るというサプライズがあった。子どもたちは一瞬にして笑顔になり、喜んで飲んでいった。こうした自身の経験や実習での経験を踏まえ、本テーマについて研究を行うこととした。

2.研究方法

第1章では、清涼飲料水の定義を定めるとともに、清涼飲料水と幼児についての文献調査を行い幼児への影響について、研究動向について明らかにする。第2章では、本学の保育士・幼稚園教諭の養成課程に在籍する大学生（以下保育）、栄養士を目指す短期大学生（以下食栄）を対象にアンケート調査を実施する。これらの結果を分析し、運動系部活動経験者与其他、また専攻別での幼児に清涼飲料水を与えることへの考えについて比較・検討を行う。これらを踏まえたうえで総合考察を行うこととした。

3. 結論

文献調査からは、予測した通り、清涼飲料水は子どもの体に害を及ぼすという報告が多数を占めた。特に歯科医師による報告では、子どもにとってなんら利益のない飲み物として捉えられていることがわかった。アンケート調査では、保育3年生（55）名、食栄2年生の学生（61）名に対し行った。保育55名中48名（87.27%）、食栄61名中28名（45.90%）の回答が得られた。回答によると、清涼飲料水を飲み始めた時期は保育、食栄ともに「物心がつく前」という回答が半数を占めていた。また、自身の子どもに与えるかどうか、という問いについて食栄と保育では有意差はなかったという結果となった。

今回、アンケート調査を実施するうえで、設問作成の難しさに直面した。イメージした問いがうまく伝わらず、思ったようなデータが取れなかった。しかしながら、疑問から仮説を立て、何らかの形で検証をしていくという経験は、自身にとって有益だった。今後も継続して探求心を磨いていきたいと思う。

氏 名	田原萌乃佳	学籍番号	J019019	ゼミ No.	1
テーマ	動植物を介在した保育について				
1. 研究の動機 筆者が幼少期の頃、よく妹や友だちと家の周りに生えていた雑草や花を使って、ままごとをするなどして遊んだ。また、通っていた幼稚園では、うさぎや亀の世話をした。このように自然や植物が豊かな環境に囲まれて育ち、存分に楽しみながら日々を過ごしていた。そして、大学入学後には、実習で子どもたちが動植物と触れ合い、楽しんでいる姿を目にしてきた。そこでの子どもたちは、ただ楽しんでいるだけではなく、命に触れ、興味をもち、子どもなりに考えながら触れ合う様子が見られた。動植物と触れ合う実体験は、子どもたちにとって、他では得られない学びが得られるのではないかと考えるようになった。 このような経験から、子どもにとっての動植物を介在した保育を検討し、動植物との触れ合いを通して、命の重要性をどう伝えるかについて考察したい。 2. 研究方法 第 1 章は、幼稚園教育要領（2018）や保育所保育指針（2018）の保育観をもとに、飼育と栽培の定義について検討し、自然と触れ合うことの意味について考察した。第 2 章は、子どもが動植物に触れている実践事例を記録・分析し、考察を行うことで、育まれる資質・能力について再確認した。第 3 章は、保育者にインタビューを行い、実践における環境構成の工夫や保育者の援助について明らかにした。これらをもとに、終章は総合考察を行い、動植物を介在した保育の意義について検討した。 3. 結論 本研究では、五感が鋭敏な幼児期に動植物に触れることの意義について再度確認した。動植物には命があるということを、子どもたちは動植物との触れ合いから体験的に理解し、そのような経験に寄り添う保育者の声掛けや援助の重要性も改めて確認することができた。子どもが生活や遊びの中で、身近な自然や植物、また動物にも触れ合うことを通して、他では得られない豊かな心情、生命尊重の気持ちが涵養されるのではないかと推察された。 保育実践事例では、子どもたちが実際に動植物に触れ、感触や匂いを確かめる姿が実際に見られた。また、虫が死んでしまった虫のお墓を作ろうという姿も見られた。しかし、年齢によって命に対する理解には差があることがうかがえ、触れ合う姿も、年齢が高いほど生命尊重の気持ちが高まっていることが推察された。このことから、保育者はまず、動植物と安心して触れ合える環境と機会を十分に保障すること、そのうえで、出会った出来事に対して最も適切で丁寧な援助を行うことが重要であると示唆された。					

氏 名	本宮 亜美	学籍番号	j 019031	ゼミNo.	1
テーマ	保育実践におけるスキンシップの意義について				

1. 研究の動機

私は、気が小さく人の気持ちが気になる性格である。そのような私は、先生や友人からの励ましの言葉に添えられたスキンシップによって心が安定し、気持ちが落ち着いたことが多々あった。この経験から、スキンシップは、相手との信頼関係ができている場合には、人の心に届く励ましや安心感、癒しとなるのではないだろうかと考えようになった。また、認定こども園でアルバイトをする中で、特に年齢の低い子どもたちはスキンシップをともなう関わりによって、より安心して過ごしていることがうかがえた。これらは、ごくあたりまえの光景のように見えるが、子どもにとって保育者に抱っこを求めること、また保育者が子どもと手をつないだり、頭をなでたりすることには、深い意味や効果があるのではないだろうか。これらのことから、スキンシップをともなう関わりが、子どもと保育者にどのような影響を与えているのかを明らかにし、保育実践におけるスキンシップの意義や効果について検討していきたいと考え、本研究のテーマとした。

2. 研究方法

第1章では、スキンシップの意義や効果について文献から考察した。第2章では、保育実践におけるスキンシップに焦点を当てた乳児と幼児の事例を記録し、分析と考察を行った。第3章では、スキンシップについて保育者へのインタビュー調査を行い、その回答から分析と考察をした。これらをふまえて、総合考察を行った。

3. 結論

文献から、肌に心地よい感覚を得ることでオキシトシンが分泌され、スキンシップを受ける側行う側の双方に良い影響をあたえているということ等がわかった。保育実践の事例からは、保育者はスキンシップの内容を、場面や子どもの姿によって変化させながら、肌をふれあわせて子どもの気持ちをしっかりと受け止めて関わっているということを再確認することができた。そして、触れたときの子どもの表情や反応からは、保育者の子どもに向けた思いや願いが、確かに伝わっていることが推察された。さらに、保育者へのインタビュー調査では、スキンシップをあえてしないときは、子どもに「大丈夫だよ」のような表情を向けて、子どもの気持ちを受け止めるようにしたり、そっとそばに行き、見守っているという保育者の場面に応じた援助も学び得た。また、スキンシップを行う側の保育者にとっても、子どもが返す反応から子ども理解や関わりの手ごたえを感じ取れるという効果もうかがえた。

筆者は、2023年度より保育者になるうえで、本研究で学び得たことを大切にしながら子どもたちと関わり、温かなスキンシップを通して、一人ひとりの子どもに寄り添っていきたいと考えている。

氏 名	山本 奈稚	学籍番号	J 019038	ゼミNo.	1
テーマ	子どもの自発的な活動としての遊びを支える援助について				

1.研究の動機

これまでの実習での遊びの場面において、身の回りの環境と関わりながら、自発的に遊ぶ子どもの姿が見られる一方で、明確な遊びが見つからない子どもや、遊びが続かない子どもの姿が見られた。こうした子どもの様子から、園での遊びにおいて、自発的な活動の実現が容易ではないことがうかがえた。また、地域社会においても、都市化や少子化によって、友達や身近な自然物に触れた遊びの減少や、公園内でのボール遊びの禁止による制限等、子どもがのびのびと遊べる空間が減少している。これらの現状を踏まえると、園での遊びの場は、子どものやりたいことが十分に発揮され、魅力あふれる楽しい所になることが望まれる。そのためには、保育者による子どもの遊びの見取りや、やってみたいと思える環境を作ること、そしてその環境と子どもをつなげる援助が重要であると考えた。これらを踏まえて、本テーマについて研究を行うこととした。

2.研究方法

第1章では、保育者のインタビュー調査を行い、自発的な活動としての遊びを支える保育者の援助や具体的な環境構成についてまとめ分析した。第2章では、自発的な遊びが見られた事例を記録し、子どもの遊びの中で保育者や環境にどう関わり自発的な遊びへと発展したのか、また保育者は、子どもの姿をどのように見取り、どのような願いで援助や環境を工夫したのかの2つの視点から分析・検討を行った。これらの結果を踏まえて本論文のまとめとし、終章によってこれらの総括を行い、総合的な考察をした。

3 結論

自発的な遊びを実現させるためには、子どもが何に興味・関心を寄せているのか、どのようなタイミングで、どのような援助が必要か、遊びを通して何が育って欲しいか等の明確な意図を持ちながら、その子どもに合わせた援助を行っていることが分かった。これらを踏まえながら、先を見据えてイメージしながら遊びに繋げることができる声掛け、やってみたい気持ちを誘発させた子どもの心が動かされるしかけ作り、直接体験ができる環境づくりを行っていることが分かった。そのためには、それまでの子どもの育ちや遊びの文脈を把握した上で、子どもの願いを知ること、環境への理解と多様な援助の引き出しが重要であることが示唆された。

本研究を通して、子どもの取り巻く遊びの環境は依然として厳しく、保育施設で遊びを保障していくことの重要性が高まっていることが明らかとなった。また、保育者になるにあたり、自身にどのような保育の力が必要なのかを捉えることができた。実践においても、この思いを抱きながら、継続研究したいと考えている。

氏 名	佐伯咲菜恵	学籍番号	J019501	ゼミ№	1
テーマ	加配保育者の存在意義について				

1. 研究の動機

今まで体験してきた実習の中で、クラスの中での加配保育者の存在に気付き興味を持ったことが本研究の動機である。かねてから特別支援教育には興味があり、インクルーシブ保育の概念を知ることによって、加配保育者のあり方について関心を抱くようになった。加配保育者とは、障害のある子どもや特別な支援を必要とする子どもを含むクラスに対して、法定基準に基づいて算定される保育者定数に上乗せして配置される保育者である。加配保育士の存在は、特別な支援を必要とする子どもの園生活に大きな影響を与えると考える。

人権の観点から考えても、人はこの世に生を与えられて生かされている限り、平等にありのままを受け入れられて教育や保育を受ける権利があると考えている。そして、このインクルーシブの概念が浸透・実現すれば「障がい」と捉えられているものも「らしさ」「個性」と受け止められる時が来るのではないだろうか。

私は、保育士、幼稚園教諭になることを目指している。その中で大切にしたいことは、このインクルーシブの概念を重視した保育である。今後、保育をするうえで、特別な支援が必要な子どもたちにどのような保育がふさわしいのか、加配保育者の存在意義に焦点を当てて本研究を進めてみたいと考えている。

2. 研究方法

先行研究として、近年の加配保育士に関する研究動向を概観した（櫻井）論文を読みとくことを試みた。そのうえで、第 1 章では、インクルーシブ保育の実践、加配保育者について文科省が作成した視聴覚教材を視聴し、支援を要する子どもの育ちを、ラーニング・ストーリーの「子どもが肯定的にみえるようになるための 5 つの視点」（大宮、2010）を用いて分析し考察を行った。第 2 章では、自然な形でのインクルーシブ保育を実践している保育施設の保育者らに対し、インタビュー調査を行い、子どもの理解、保育者の関りやそれぞれの保育感について整理・分析し、加配保育者の在り方やインクルーシブ保育について検討した。

3. 結論

調査から、インクルーシブ保育の実践において、特別な支援を必要とする子どもを特別扱いするのではなく、集団の中で、特別な支援を必要とする子どもも、そうでない子どもも、安心した空間で過ごしていけるような環境づくりが最も重要であることが分かった。加配保育者の存在は、その環境をつくりだすために不可欠な人的環境であると考ええる。また、加配保育者が力を発揮するためには、担任保育者と細やかにつながりあい話し合える関係性が求められる。ひとつづきの支援がかなってこそ、すべての子どもが安心できる環境を創り出すと考える。

氏 名	尾崎萌音	学籍番号	J019007	ゼミ No.	2
テーマ	障害者アートに対する評価について - 製作者の情報が作品に与える影響 -				

1.問題と目的

近年、厚生労働省の政策により障害者アートへの支援が広がり、人材の育成や支援センターの配置が行われている（厚生労働省、2016）。こうして障害者アートが推進される中、「アールブリュット」という言葉を用いた展示や活動が進められている。しかし本来は文化や社会の主流から離れて制作する人々の表現形式であるこの言葉を障害者アートに用いることで、アールブリュットの本来の活動に対する評価を歪めてしまうと問題視されている（関、2018）。作者が障害者であるという情報が作品の評価にどのように影響しているのか、加茂川（2015）の研究では、特別支援学校の生徒の作品であるという情報により、作品の印象が好転することが明らかになった。そこで本研究では、芸術家の作品の場合でも作者が障害者であるという情報が作品の印象を好転するのかを明らかにする。

2.方法

[対象]私立大学に通う女子大学生 70 名（障害者であるという情報を提示する群 38 名、提示しない群 32 名）

[手続き]加茂川（2015）が作成した評価シートを用いる。内容は「不思議な魅力がある」「色の構成」など計 7 項目と、回答理由の記述も求める「購入」を加え 8 項目で調査を行った。統計解析には HAD を用いて対応のない t 検定を行い、作品の評価を比較した。記述回答の分析には kj 法（川喜多、1970）を用いた。

3.結果

「不思議な魅力がある」「製作者の努力が伝わってくる」「色の種類」「作品性が高いと感じる」「購入」の項目では有意な差が認められた（ $ps<.05$ ）。しかし適当さや幼稚さ、色の構成の項目では有意な差が認められなかった。また、記述回答において障害者であるという情報が含まれることで作品を批判する回答が少なくなり、評価の基準も低下することが示された。

4.考察

評価に有意な差が認められた項目は、作品の評価において障害者であるという情報が影響する一方、適当さ、幼稚さ、色の構成についての評価には障害者であるという情報が関係しないということが明らかになった。本研究で障害者であるという情報が少なくとも作品の評価に影響を与えているということが明らかになったことで、障害者アートを広めていく際の教訓として今後に生かされたいと考える。

氏 名	河野波瑠奈	学籍番号	J019012	ゼミ No.	2
テーマ	スポーツをしている女子大学生の月経に対する意識について				

1. 目的

近年、女性アスリートを取り巻くスポーツ環境整備が十分ではないことが明らかになっている（土肥、2017）。能瀬ら（2015）がトップアスリートを対象に調査を行ったところ、全体の 91.0%が月経周期とコンディションの変化を自覚していることが示されていることから、月経によるコンディションの変化に対する事前対策が求められている。事前対策として、栄養摂取量を増加させ、トレーニング量を低減させることが挙げられる（鯉川ら、2016）。しかし、この方法は、試合に向けて練習量を減らしたり、体重調整の必要があることから、女性アスリートやコーチからは受け入れられていない（鯉川ら、2016）。

そこで、本研究では監督やコーチから月経に関して理解を得られているか否か、また、理解を得られていない場合はその理由を明らかにし女性アスリートにも監督やコーチにも良い対策を考えていく。また、アスリート自身は月経に対する受け入れ方に問題はないのか明らかにする。

2. 方法

私立大学生のスポーツをしている学生 20 名としていない学生 31 名を対象とし、グーグルフォームにて「PMS 症状はあるか」や「監督やコーチ等は月経に対する理解があるか」等を自由記述や 4 件法を用いて月経に対する考え方の調査を行った。

3. 結果

PMS 症状について、 t 検定を行った結果、怒りの平均に対して、条件間で有意義な差が見られた ($t(34.54) = 2.32, p=.02$)。また、疲れの平均に対して、条件間で有意義な差が見られた ($t(30.87) = 2.14, p=.04$)。そして、体重増加の平均に対して、条件間で有意義な差が見られた ($t(24.17) = 3.08, p=.01$)。監督、コーチ等の月経に関する理解については、理解があると回答した学生、理解がないと回答した学生ともに 40%であった。

4. 考察

本研究で無月経にならないための予防策について「妊娠」といった間違った知識を持っている学生がいることが明らかになった。この結果は、講演会や授業等で予防策について話されないことが原因であると考えられる。また、監督やコーチの月経に関する理解については、異性の顧問やコーチには理解してもらえないことや言いづらいといった回答が得られ、同性の顧問やコーチは比較的理解が得られるとともに話やすいといった結果が得られた。顧問やコーチだけでなく学生自身にも課題があることが明らかとなった。

氏 名	小松 葵	学籍番号	J019014	ゼミ No.	2
テーマ	LD（学習障害）が暮らしやすい社会とは				

1. 目的

LD（学習障害）は、聞く、話す、読む、書く、計算することが困難とされている。しかし、基本的には全般的な知的発達に遅れはない。LD（学習障害）は、日常生活に影響があるが周りからは気づかれにくいため、LD（学習障害）を診断された人だけでなく、家族も日常における誤解と偏見に悩んでいる。誤解や偏見を無くすために告知をする方法もあるが、告知にもメリット、デメリットがあり告知をするか迷っている方もいる。そこで本研究では、私立大学に通う女子大生を対象に LD（学習障害）の障害特性や困難、どんなイメージなのかを明らかにし、LD（学習障害）の子どもや家族が日常における誤解や偏見がなく暮らしやすい社会に寄与することを目的とする。

2. 方法

私立大学に通う女子大学生 70 人を対象とした。対象となった学生は、特別支援について学んだことがなく施設実習前の 1 年生、特別支援について学んだことがあり、施設実習後の 4 年生であった。LD（学習障害）の特性やイメージ、告知について全 13 個の質問を用意しアンケート作成し実施した。

3. 結果

障害者のイメージについては、対応のない t 検定を行った。「かわいそう」4 年生 2.64、1 年生 2.5。「心優しい」4 年生 3.53、1 年生 3.62 と有意な差は認められなかった。だが、「暴力的」だけは 4 年生 2.33、1 年生 1.68 と有意な差が認められた。LD（学習障害）の特性や情報交換については、4 年生は 75% が知っており、1 年生は 79% が知らなかった。情報交換は両学年あまりできていない人が多かった。告知については、保護者に伝える場合、両学年「保護者の理解をどこまで得られるか不安である」という回答が多かった。子どもに伝える場合、1 年生は「積極的に検討する」4 年生は「保護者の理解をどこまで得られるか不安である」という回答が多かった。

4. 考察

障害者のイメージは有意な差が見られた「暴力的」は、障害者と関わり、実習をしていく中でちょっとした行動が暴力的な行動だと判断し、平均が高くなってしまったのではないかと考える。1 年生、4 年生関係なく、障害者へのイメージは変わらないことが明らかになった。告知は実習を通して子どもたちと関わりを持つことで、告知をすることへの考え方が変わってくるということが明らかになった。告知後のサポートについては自分たちが求めるサポートがされるのか不安をもっていることが明らかになった。LD（学習障害）のイメージは個人の回答では、関わったことで気づく「聞く」・「話す」の困難を選択している学生が少ないことが明らかになった。結婚以外の困難は「就職」「就学」「人との関わり」が困難と感じていることが明らかになった。

氏 名	千葉 万尋	学籍番号	J019021	ゼミ No.	2
テーマ	学生が選ぶブックスタート赤ちゃん絵本の特徴				

1.問題と目的

ブックスタートとは、0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動である。選書方法は自治体によって異なるが、大きく分けると広報にてタイトルのみ、表紙のみ、実際に内容を知ることができる読み聞かせ会の実施等、選書方法は3種類存在する。横山（2006）は、「幼児は保育者が過去に読んだ絵本を読みたがる」と述べており、保育者が選んだ絵本の読み聞かせが子どもの読書意欲を引き出すと言えよう。しかし、これから保育者となってゆく世代の大学生はタイトル、表紙、内容のどの項目を重視して絵本を選書するかは明らかにされていない。さらに一般大学生と保育学生では選書する絵本に違いは見られるかの比較も行われていない。そこで、本研究では一般学生と保育学生を対象として、学生の種類によって選書基準や選書絵本に違いは見られるのか、仮説を立て、明らかにする。

2.研究方法

【対象】女子大学生 40 名（一般大学生 20 名、保育学生 20 名）を対象とした。

【手続き】アンケートを用いて、質問紙調査を行った。一般学生と保育学生のブックスタートにおける認知・理解度の違いを明らかにするため、認知度の項目は「はい」「いいえ」の2段階評価、理解度の項目は5段階評価にて t 検定を用いて比較した。自由記述については、KH Coder Ver.3.0.0.（樋口、2014）を用いてテキストマイニングを行い、共起ネットワークを作成した。選書絵本については各項目ごとに比較した。

3. 結果

ブックスタートの認知・理解度については一般学生は認知度 0%、理解度（ $M=1.050$ 、 $SD=0.224$ ）に対し、保育学生は認知度 50%、理解度（ $M=2.300$ 、 $SD=1.380$ ）であったことから、保育学生の方が高かった。子どもの育ちへの願いについて両者ともに「挨拶」「友達関係」を重視していた。さらに、選書絵本について、タイトルの人気度については学生の種類によって大きく異なっていたが、表紙、内容、総合的な人気度については少しの差はあるものの、同じ絵本を選ぶ傾向にあった。しかし、一般学生はタイトル、保育学生は内容の人気度と総合的に選書する絵本の人気度が類似していた。

4. 考察

これらの結果から、「一般学生はタイトルを見て選書すること」「保育学生は内容を見て選書すること」が明らかとなった。一般学生がタイトルを選書基準にすることは、第一印象が要因として挙げることができよう。さらに、保育学生は子どもの育ちへの願いに沿った内容の絵本を選書することが明らかとなった。また、保育学生においても前回の実験の印象の積み重ねから選書をする傾向が見られ、学生の種類を問わず「第一印象」は選書における要因の一つであることが示された。

氏 名	長尾 真理菜	学籍番号	J019024	ゼミ No.	2
テーマ	文字なし絵本が想像力や表現力に与える影響				

1. 問題と目的

数ある絵本のジャンルの中で、絵だけで構成されているため、自由な読み方を行うことができる「文字なし絵本」というものがある。この絵本を読み手は、登場人物と周りの事物を関連させ、動きを中心に捉えているとされている（金澤・山本 2016）。

先行研究では、1冊の絵本を使用し、短大生と小学生間で比較した分析しか行われていないため、文字なし絵本において複数の絵本かつ、同じ年齢層での捉え方や表現力の差は明らかにされていない。そこで本研究では、文字なし絵本が想像力や表現力などにどういった影響を与えているのかについて明らかにする。また、絵本のその後の展開を考えることは、想像力や表現力が関連しているのかを明らかにする。

2. 方法

【対象】私立大学に通う女子学生 56 名（認定絵本士の資格を取得している学生 20 名、取得していない学生 36 名）

【使用した絵本】それぞれの絵本で文字ありとなしを用意した。

・ストーリー性の低い絵本（絵が中心） ・ストーリー性の高い絵本（文字が中心）

【方法】

・場面説明：絵本の 1 ページごとを見て説明文を自由記述。

・作話課題：絵本の最後のページに続く話を考えて自由記述。

その後、テキストマイニングを行い、抽出語の出現頻度を算出し、絵本士学生と一般学生間で比較した。

3. 結果

場面説明では、名詞が多く使用され、文字ありより文字なし、一般学生より絵本士学生が総抽出語数が多いことが示された。作話課題においても、場面説明よりは少ないが、名詞が多く使用され、一般学生より絵本士学生が総抽出語数が多いことが示された。

4. 考察

本研究より、文字なし絵本が想像力や表現力などに直結的に影響を与えているということが明らかになった。場面説明から、文字なし絵本は、全てを自分の解釈で捉えて自由に想像でき、会話を重視して想像や表現ができるものであるといえる。作話課題から、文字ありは、ストーリーが分かった上で想像できるもの、文字なしは、物語とその後の展開の両方を自分の解釈で捉えて自由に想像できるものであり、文字なし絵本の方が想像力・表現力を高めることができると考える。

以上のことにより、文字なし絵本は、自分の世界観で楽しく、想像力や表現力を高めることができるため、もっと身近なものとして取り入れていくべきである。

氏 名	宮野清音	学籍番号	J019033	ゼミ No.	2
テーマ	歌声から連想される外見的情報について				

1.問題と目的

コンテンツ制作支援システムの普及や発展により、誰でも楽曲や動画を創作することが容易になったと確認されている。それらを通じて、カバー曲を動画サイトに投稿して他者に聞いてもらうことが容易になっている。投稿されているものには、顔が出されているものと出されていないものが存在するが、歌声には他者の印象を決定づける情報としての関連性はあるのだろうか。外見の魅力評価の研究や歌声の印象評価の研究は多数存在するが、歌声と外見の関係性については明らかにされていない。そこで本研究では、歌声から連想される外見的情報と実際の外見的情報は一致しない場合もあると仮説を立てて、歌声から連想される外見的情報について明らかにすることを目的とする。

2.研究方法

【対象】

私立大学に通う女子大学生 17 名が調査に参加した。そのうち不備があったデータと実験刺激の人物を知っている参加者を除いた 14 名分のデータを分析の対象とした。

【手続き】

4 名の女性（8 種類）の歌声を 1 曲ずつ聞いてもらい、歌唱力評価・歌声の印象評価について 5 段階で評価を求めた。1 曲聞いてもらった後に、歌声から人物を連想してもらい、連想した人物について外見的魅力を 5 段階で求めた。歌声の評価をした後に、4 名の女性の写真を 1 枚ずつ提示し、それぞれの魅力について 5 段階で評価を求めた。その後、対象者ごとに人物の魅力度の平均値を算出し、歌声から連想した人物と写真の人物の違いを求めるため、統計解析を行った。

3.結果

統計解析には HAD を用い、対応のある t 検定を使用した。「健康的な」「顔色がいい」「おしゃれな」「若々しい」「かっこいい」の項目では、歌声から連想される人物が写真の人物よりも、魅力度の得点が有意に高かった ($p<0.05$)。しかし、他の質問項目には魅力度の有意な差は見られなかった。

4.考察

本研究では、歌声から連想される外見的情報と実際の外見的情報は一致しない場合もあると仮説を立てて実験を行った。その結果、歌声から連想される外見の魅力は実際の外見の魅力よりも高く見られることもあるが、類似関係もあることが明らかとなった。外見の魅力は様々な要因が関係しているため、魅力度が変化する場合があるとも考えられる。また、歌声から連想される人物の魅力は歌唱者の内面的な特性や感情、選曲によって左右される可能性があることも確認された。

氏 名	大沢七菜	学籍番号	J019005	ゼミ No.	3
テーマ	食品添加物が人間にもたらす影響				

本研究では、食品添加物が人間にもたらす影響について調べ、明らかにした。

第一章では、食品添加物の起源と加工食品の始まりについて調べた。食品添加物とは保存料、甘味料、着色料、香料など食品の製造過程または食品の加工・保存の目的で使用されるものである。身体に大きな負担や影響があると言われるが、添加物の使用目的は加工食品を作る上で重要な工程の一つであることが分かった。そして日本で使われている添加物は海外では使用制限がかかっている添加物もあり、すべての添加物が完全に安全とは言い切れない。また、現代社会の生活の中で添加物がなければ食品が製造出来ないうえ、保存や殺菌などの品質を保つ他、香りや色づけ、栄養強化など現代の人間にとって切っても切り離せない関係であることが明らかになった。

第二章では、食品表示における食品添加物の安全性の問題について、食パンの食品表示を例に実験から明らかにした。実験は、多くの添加物が表示されている Y 企業、添加物が少なく表示されている I 企業、全く添加物のない手作りの食パンを、密閉袋に入れ、腐敗の様子を観察し、安全性を確かめた。実験の結果、手作りの食パンは 5 日目、Y 企業のパンは 7 日目にカビが発生した。2 週間後、手作り食パンは大量のカビ、Y 企業食パンは表面に小さなカビが 1 か所、裏面に大量のカビが発生していた。一方、I 企業食パンは、2 週間全くカビは発生しなかった。このことから、I 企業食パンには保存料等の添加物が Y 企業より多く使用されていると考えられる。また、I 企業のように食品表示上は、添加物が少ないのに、保存効果が高い原因の考察から、食品添加物の一括表示の問題や、袋包装における添加物の使用の問題などが明らかになった。

第三章では、食品添加物が、私たちの身体に与える影響と食の安全性と信頼性の確保のための取り組みについて明らかにした。食品の安全性については、リスク評価・リスク管理・リスクコミュニケーションの仕組みがある。つまり、食の安全性と信頼性の確保のために、消費者、生産者、産業界、学会と食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省が意見交換をしていることをしているのである。

以上のことから、食品添加物は私たちの身体にとって悪い物ばかりではなく、身体に大切な栄養素を含んでいたり、香りづけに使われたりと様々な場面で必要不可欠であることが分かった。しかし添加物を入れるのには、長期保存をする必要があるため必要不可欠かもしれない。しかし身体のことを考えると何が入っているかより、何が入っていないかを考える必要がある。

ここでの研究で明らかになったことを踏まえながら、日々の生活をより豊かなものにしていきたい。また、自分だけに限らず周りの人たちにも研究結果をもとに伝えられるようさらなる研究を継続していきたい。

氏 名	佐野玲奈	学籍番号	J019015	ゼミ No.	3
テーマ	保育における飼育物の役割				
本研究では、保育現場における飼育動物の実態を調査し、教育的意義と動物飼育をする際の保育者の役割や援助における留意点について明らかにした。 第一章では、飼育の定義や飼育物の実態について調べた。飼育をすることで命あるものとかかわり生命の尊さに触れ、自分の予想とは異なる反応が返ってくる人間とは異なるものに触れる中で心を動かし、豊かな感性が育まれることが分かった。飼育動物には、哺乳類や鳥類などの動物よりも虫類が多くみられ、そのほかに両生類や魚類などが飼育されていることが分かった。その背景には、設備の不備、騒音、衛生管理、アレルギー疾患などの問題から動物の飼育が難しくなっており、虫類が多く飼育される傾向にあることが分かった。 第二章では、動物飼育の教育的意義として「生命尊重」に着目し、子どもたちの姿に生命を尊重する態度がどのようにあらわれるのか事例にもとづいて明らかにした。動物飼育という直接体験を通して心を動かされる中で、命の尊さに気づき、大切にすることが育まれることが明らかになった。子どもが生き物に親しみをもって接する中で命のない「もの」から命ある生き物として受け入れられるよう、子ども自らが考え理解できるように促すことが大切であると分かった。 第三章では、飼育をする際に保育者が与える影響と動物感染症やアレルギー疾患への配慮すべき点について明らかにした。保育者自身が自然に興味を持ち、親しみをもって保育を行うことが子どもの自然への興味を引き出す大きなきっかけになることが明らかになった。さらに、子どもたちが自然にじっくり関われる場と十分な時間が必要であり、その環境を整えるための計画性が必要であることも分かった。動物感染症の不安やアレルギー疾患の問題については動物飼育のデメリットどのように減らし、子どもにとってのメリットを増やしていけるか保育者が理解し、対応することが大切になると分かった。さらに、動物感染症やアレルギーによる発作を回避するためには、事前の対策、急変時の対応や問題点を保護者と医療を含めた関係者が共有することが大切であると分かった。 以上より、飼育を行うことで子どもたちが命の存在を知り、その大切さを実感できる。その教育的効果を得るためには保育者が自然に親しみ、子どもたちが安全に、しっかりと自然に関わることができるような配慮、計画性が大切であるとあきらかになった。 この研究で明らかになったことを踏まえながら、子どもたちが飼育物に親しみ、豊かな感性が育まれるような援助を実践していきたい。また、飼育に限らず子どもの豊かな心を育めるような援助を今後も研究していきたい。					

氏 名	塩崎いま里	学籍番号	J019016	ゼミNo.	3
テーマ	人見知りの意義				
本研究では人見知りの意義について、幼少期の人見知りのメカニズムを整理し、社会性の発達や自己形成との関連に注目し明らかにした。 第1章では、人見知りにおけるメカニズムについて明らかにした。人見知りにはアタッチメントが深く関係しており、人見知りの強い赤ちゃんは他者の目をよく見ていること、そして怖がりと接近の気質も強いことが分かった。 第2章では、人見知りにおける社会性の発達についてKちゃんの事例をもとに調査した。その結果、人見知りが始まる時期は見知らぬ人に対して顔がこわばったり、母親にしがみついたりなどと分離不安のような行動が見られたが、1歳になり保育所へ行きだし、社交的になった。保育所に通い出してからたくさんの保育士や子どもたちと関わり、人と関わることに慣れると同時に楽しさが分かってきて、社会性が育まれるにつれてKちゃんの人見知りは薄れていったのだと考えられる。つまり、人見知りは、人への関心や観察力が高い証拠であり、その後の社会性の発達において意義があると言える。 第3章では自己形成における人見知りの役割について、大人の人見知りに注目して明らかにした。大人の人見知りとは、あがり症や引っ込み思案のことを言い、その原因として自己評価の低さがあることが明らかにされた。この自己評価の低さは子どもの頃の親子関係が深く関わっていることが分かった。乳児の人見知りでは親や周りの大人と愛着関係ができたことの証とされているが、大人の人見知りでは、自己肯定感の低さが原因であがり症や引っ込み思案と言ったものになってしまう。このことから、子どもの人見知りをすること、すなわち両親から無条件の愛情をたっぷり受けて愛着関係を築くことは将来的な社会性へ関係すると言える。また、保育の現場では、人見知りをはじめとする恥じらいやはにかみという感情体験の重要性を理解し、子どもがそうした体験を重ねながら新しい世界を開いていけるように自然な配慮をすることが大切であると言える。 人見知りは、周りの大人から見れば「大変」というイメージが強い。しかし人見知りは、愛着関係がきちんと形成されている証であり、他者認識ができるようになり、人への関心や観察力が高くなるという点で社会性への発達にもつながる。また、乳児期に愛着関係がしっかりと形成されているということは、将来的な自己評価、自己肯定感につながると考えられ、大人の人見知りの原因をなくすことができるため、将来的な社会性にとって良いとも考えられる。周りの大人たちは人見知りにマイナスのイメージを持つだけではなく、むしろプラスのイメージを持って子どもたちを見守っていくことが必要なのではないだろうか。					

氏 名	樽茶実侑	学籍番号	J019020	ゼミNo.	3
テーマ	人形遊びの発達の意義 ～シルバニアファミリーを手がかりに～				
本研究では、シルバニアファミリーを手がかりに、保育現場における人形遊び、とりわけ幼児後期に見られるドールハウス遊びの発達の意義と保育者の援助について明らかにした。 第 1 章では、幼児の遊びの特徴と人形遊びについて調査した。ドールハウスを用いた人形遊びは、ままごと遊びのように、子ども自身が家族構成の一員に「なりきって遊ぶ」のではなく、ドールハウスを舞台に、人形を主人公として役割に沿って、人形を動かしながら行動させて楽しむ「人間関係を遊ぶ」ものである。また、シルバニアファミリーは、具体性の高い玩具であるため、4・5 歳児においては、家具の配置や家のレイアウトを楽しむ構成遊びに加えて、現実を模した直感的模倣としての象徴遊びも多く行われると言える。 第 2 章では、シルバニアファミリーの魅力について歴史と発展から明らかにした。シルバニアファミリーは、子ども達の遊びがデジタルゲームに移っていく 1985 年に「子どもたちの夢や希望を育めるようなあたたかみのある玩具」として誕生した。その後、多様性やジェンダーフリーを背景に国内外で高く評価される玩具に発展していった。一方、シルバニアファミリーで遊んだ経験に関する調査を基に、2011 年に子どもの感情を育み、心を豊かにする情操玩具として、その魅力を発信している。さらに、近年、「シル活」に代表されるように、幼児期の子どもを対象とするだけでなく、大人たちの間でもシルバニアファミリーに注目が集まっている。玩具に留まらず、体験型のイベントや書籍、アニメ、SNS を媒介に、全ての世代や世界中の他者と共有することで、世代や国境を越えて愛されるメディアとしてのシルバニアファミリーへと発展していっているのである。 第 3 章では、人形遊び、とりわけドールハウスでの遊びを高める大人の関わりについて、F 幼稚園での事例を手掛かりに調査した。保育室におけるドールハウスの周りの環境としては、遊びの連続性を大切にできるような片付けの方法を取り、落ち着いて遊びに取り組める空間があることが望ましいと考えられる。F 幼稚園に置かれていたドールハウスは単純な作りであり、家具も家の中に接着されていたため、部品が破損したり、紛失したりする心配はなかった。異年齢の子ども達が、保育室を行き来する可能性のある保育現場では、シルバニアファミリーのように細かい部品が多くあるものよりも、簡易的な造りのほうが破損や誤飲の可能性が低い。また、F 幼稚園のドールハウスは、家の中の構造が単純な分、子ども達同士がイメージを言葉で共有し、想像して遊んでいる様子も見られた。簡易的な造りのドールハウス、細かい造りのシルバニアファミリー、それぞれの良い点・留意すべき点をしっかり理解したうえで、子ども達の遊びの中に取り入れていく必要がある。 今後の課題として、今回は F 幼稚園の簡易的なドールハウスでの遊びの事例を中心として考察したが、実際にシルバニアファミリーを現場で用いた場合についても、年齢別に実践的に確かめたい。また、ドールハウスを用いた遊びにおける大人の関わり方についても、子ども達の年齢によって異なってくると考えられる。その点について、今後も調査し研究していきたい。					

氏 名	西岡奈海	学籍番号	J019027	ゼミ No.	3
テーマ	幼児期におけるごっこ遊びの発達 ～役割取得を手がかりに～				
本研究では、ごっこ遊びがどのように発達していくのかについて調査し、特に、役割取得について事例に基づいて明らかにした。そして、人的・物的環境がごっこ遊びに与える影響について考察した。 第一章では、ごっこ遊びの定義や基盤、イメージする力の発達について調べた。ごっこ遊びとは、普段の生活や環境を取り入れ他者とイメージを共有しながら、役割を演じる遊びである。その基盤は、ふり・見立て遊びから始まりイメージを豊かにしていることが分かった。また、事例を通して身近に経験した出来事や、日常の生活の中で興味のあるものなどを通してイメージを膨らませ、雰囲気やイメージの共有を楽しんでいることが分かった。 第二章では、ごっこ遊びの発達、ごっこ遊びにおける役割取得について調べた。大人になってからも必要な能力がごっこ遊びを通して育まれることから、ごっこ遊びは幼児にとって欠かすことの出来ない重要な遊びである。また、ミードのプレイ段階では、子どもは母親や父親、また先生やお巡りさんなどの役割を演じることによって、親や大人の態度や期待を自己に結びつけて知り、そのことを通じて自分のあり方を理解するようになることが分かった。 第三章では、感情体験の影響、物的・人的環境による保育者の役割について調べた。子ども達のごっこ遊びには、微笑ましく思う遊びが大半であるが、心に傷を負ったような経験を遊びにまで取り入れるということから、心を揺さぶられるような感情体験がごっこ遊びに影響していることが分かった。さらに、子ども達が自由にイメージし表現することが出来るように、見立てやすい素材、シンボルになる小物を用意し、保育者は、子どもの想像を広げられるよう発想などを受け止め、年齢に合わせた道具や素材を用意し、環境を作ることが大切であると言える。 以上のことから、ごっこ遊びと役割取得の関係は大きく、社会的スキルの基盤となっていることが分かった。また、保育者は子どもの興味や関心のある道具、素材を用意することが必要である。子ども達と一緒にごっこ遊びをする場合も、子どもの遊びを理解し、遊びの行為に寄り添うことが大切であることが分かった。 ここでの研究で明らかになったことを踏まえながら、子ども達が主体的にごっこ遊びを行い、発展させることが出来るよう環境づくりを行い、保育士になった際、現場で実践出来るよう研鑽していきたい。また、今後の課題として、事例に出した 2 歳児と 5 歳児以外の年齢で、どのようにごっこ遊びが発展していくのか実践的に確かめていきたい。					

氏 名	平岡まつり	学籍番号	J019029	ゼミ No.	3
テーマ	子どもの好き嫌いと食事援助				

本研究では、子どもの好き嫌いのメカニズムを調査するとともに、保育現場における嫌いな食べ物に対する食事援助や取り組みについて明らかにした。

第 1 章では子どもが嫌いな食べ物を野菜、肉、魚、その他の食品に分類し、嫌いになる原因として①食材の持つ性質の原因、②援助や調理する側の摂食機能の発達理解の問題、③現代の食生活の問題の 3 つが明らかになった。つまり好き嫌いは子どもたちがもともと嫌いなのではなく、嫌いになってしまっているのかもしれないと言える。

そこで、第 2 章では食事を援助する保育者として、摂食機能の発達を明らかにした。子どもの好き嫌いを決める前に「食べさせた食物の硬さなどが子どもの口の機能に合っていないのではないかと察して、硬さや大きさ、野菜や肉の繊維などを、子どもの奥歯の噛み合う程度や噛む力などの摂食機能に合わせる必要があることが分かった。

第 3 章では、保育現場における好き嫌いをなくすための援助、取り組みについて、食事前、食事中、食育活動の事例から明らかにした。食事前には歌を歌うなど食材に興味を持てるように促したり、楽しい食事の雰囲気作りを行うことが重要である。また、食事中は、現在コロナウイルス感染症の影響など子どもたちが友達同士で楽しく会話をしながら食べることが難しいからこそ、保育者の子どもたち同士を繋ぐ役割や、苦手な物を食べる時も遊びの要素を取り入れた声掛けの重要性が明らかになった。食育活動については、園で行っている栽培活動について着目した。自然環境を意識した食育活動は子どもの野菜に対する好き嫌いに有効であり、「自分が育てた野菜の特別感」から食べることができている子どもの姿も確認できた。

以上のことから、子どもたちが好き嫌いをする要因には保護者や保育者を含む周りの大人の援助に深く関係があり、子どもの摂食機能の発達を理解した食事援助や食事場面はもちろん食材に興味を持つことができるように園全体の環境を整え取り組むことが重要であると分かった。また、その時に嫌いな食べ物が一つもない、あったとしても必ず克服するということが重要なのではなく、楽しんで自らが食べることが重要であることも分かった。

氏 名	井出悠里	学籍番号	J019003	ゼミNo.	4
テーマ	保育学生とその保護者が親しみを持つ手遊びうた・子どものうたに関する研究				

乳幼児期に触れる音楽は、古くから歌い継がれてきた曲から子どもに親しまれる戦後の曲、遊びへと発展する手遊びうたなど様々であるが、保育や子育てをするにあたって、乳幼児期にはかなりの度合いで手遊びうたや子どものうたなどの音楽に触れている。この乳幼児期の貴重な経験がその後の成長の折りに触れ、何らかの良い影響を及ぼしているのではないだろうか。そこで、大人である保育学生とその保護者にとって馴染みのある手遊びうたや子どものうたを尋ねることによって、それらのもつ長所とは何かについて、検討したいと考えた。

手遊びうたや子どものうたが与える成長過程における影響を知るために、大人である保育学生とその保護者を対象とし、アンケート調査を行った。保育現場、養成校の保育者を対象とした子どものうたに関する調査研究（全国大学音楽教育学会, 2009）のデータから、保育現場、養成校の保育者が子どものうたに対し、是非必要、必要と答えた支持率 80% 以上の曲目 90 曲を取り上げ、「いつごろ」、「どこで」歌ったのか、「歌った頻度」への回答を求めた。また、90 曲の中から一番よく歌った曲を選び、その理由と成長過程において得られる要素への回答も求めた。

その結果、よく歌った時期、場所に注目し見てみると、保育学生と保護者の双方共に幼児期に園でよく歌ったと多くの人が回答しており、同率 1 位が「あわてんぼうのサンタクロース」であった。この曲は年代関係なく、誰もが毎年耳にしたり、歌ったりするものであり、多くの人に親しまれている曲であることが分かる。しかし、上位の曲目を比較してみると、保育学生の中では戦後の曲が多いのに比べ、保護者では戦前の曲が多いという違いが見られた。これは、保育学生と保護者での世代の違いによる結果の相異だと考えられる。

好きな理由として項目、「メロディーが好き」、「テンポがいい」、「楽しい雰囲気」の 3 つが保育学生と保護者の双方共に回答率が高かった。子どものうたや手遊びうたは、子ども自身が聞いて、安心したり、落ち着いたり、自然に音楽に合わせて身体が反応したり、楽しそうだから歌いたい等と思えるような明るい雰囲気の曲やテンポのいい曲、覚えやすいメロディーの曲が多いのではないかと考えられる。

保育学生と保護者によく歌われている曲目からは、リズム感、表現力、感性、想像力が得られるのではないかと考えられていることが分かる。幼児期の音楽に触れることは子どもが音楽に親しむようになる上で、重要な経験であると言われているが、これらの良い影響力があるため、幼児期の音楽に触れる経験が重要視されているのではないだろうか。

世代を問わず歌い継がれてきた歌は我々の成長過程において潤いを与えてくれる一つの側面であると言っても過言ではないだろう。

氏 名	片岡美羽	学籍番号	J019008	ゼミ No.	4
テーマ	行政のひとり親家庭への支援の現状 およびひとり親家庭の実態について				
ひとり親世帯数において、母子世帯数は約 76 万世帯、父子世帯数は約 9 万世帯であるとも報告されている。国民生活基礎調査（2014）によれば、児童のいる世帯に対するひとり親家庭の率は、約 13%にも上ることがわかる。そこで、現代の日本におけるひとり親世帯に対する国の政策および、地方行政の支援の現状について調べるとともに、実際のひとり親家庭の現状についても調べていきたいと考える。 松山市在住のひとり親家庭に暮らす男性 1 名、女性 1 名の 2 名の方を対象とし、松山市ひとり親家庭等自立促進計画の内容に基づいたインタビュー調査を行った。男性 Aさんは所得が高く、経済面における支援はほとんど受けられない現状であった。しかし、Aさんには「収入に関係なく支援が受けられるようにして欲しい。」という意識があった。これにより Aさんの本音はできるなら支援を受けたいと感じているのだろう。一方、女性 Bさんには「金銭面で、松山市は手厚いと感じる意識があった。これにより、Bさんは松山市の支援に対してある程度満足していることがわかる。 上記の結果より、松山市のひとり親家庭への支援に対しての課題は、父子家庭への経済面での配慮、高等学教育費の援助、ひとり親家庭の親の年金問題の配慮、この 3 つだと考える。まず、1 つ目は、父子家庭への経済面の配慮についてである。日本の男性の平均年収は 540 万円であるのもかかわらず、父子家庭の平均年収は 380 万円であった。このことから、日本男性で見ると父子家庭の平均年収は低いことがわかる。国や行政は母子家庭ばかりに支援を回そうと考えがちだが、父子家庭でも経済的な援助を望んでいる家庭は少なくはないと思われるため、支援が受けられる所得上限の見直しが必要になってくるのではないだろうか。2 つ目は、高等学校教育費の援助についてである。Bさんには、義務教育までの養育費の援助は手厚かったが、高校になるとほぼ自己負担となって大変な思いをしたという意識があった。ひとり親世帯の貧困率が問題になっている中、その問題を解決する一つの方法として高等学校の費用の援助が必要になってくるのではないだろうか。3 つ目は、ひとり親家庭の親の年金問題についてである。Bさんは今現在、国民年金は免除してもらっている現状であった。しかし、免除してもらっている分老後に入ってくる年金は月数千円しか貰うことができない。このことに不安だという意識が Bさんにはあった。加えて、月 2 万 3 万と年金に払う余裕もないとも述べていた。このことから、年金の制度にもひとり親世帯用のプランを考えるべきだと提案したい。そういったプランがあることで Bさんが抱えていた老後への不安も少しは軽減できる選択肢が増えるのではないかと考える。					

氏 名	塩崎優花	学籍番号	J019017	ゼミ No.	4
テーマ	しかけ絵本が読者に与える印象について				
乳児期から幼児期の子ども達が絵本に触れる機会はたくさんある。日々を過ごしていく中で、絵本はかなり身近に存在していることがわかる。では、平面絵本としかけ絵本ではどのような差異があるのだろうか。平面絵本は、絵と文のみで構成されているため、読み方の工夫が必要になってくる。しかけ絵本にも同じことは言えるが、しかけがあるために平面絵本よりは場面が想像しやすく、絵本の世界に入り込むことが出来るのではないかと考える。読者はしかけ絵本を想像力や期待感を持ちながら見ると考えられるが、絵本に対していったいどのような印象を持って見ているのかが気になるところである。そこで、しかけ絵本の創作的な工夫が読者にどのような印象をもたらすのかについて明らかにしたいと考えた。 しかけ絵本の中でも筆者が代表的だと考える絵本を 5 冊選書し、M 大学の保育者養成課程 4 年生 10 名を対象に質問紙調査を実施した。質問紙調査の結果から検討を加えた。 その結果、色使いについての印象がすべての絵本でみられることにより、絵本の色彩の豊かさや原色使いもまた読者の心を動かす要素となっていることがわかる。さらに、語りかけをするような読み方や読み手と聞き手の応答的な関わりを通して、読み手も聞き手も相互に楽しいという気持ちを味わうことができ、楽しさの共有・共感を行うことが出来ることがわかる。加えて、しかけ絵本は平面絵本に比べ、ポップアップやめくる、引っ張るなどの動きを伴うことにより、臨場感がある。臨場感があることにより、読者は次の展開を心待ちにしながら期待感を持って待つからこそ、絵本の場面をさらにイメージしやすくなるともいえよう。これらにより、絵本に対するインパクトはかなり大きなものとなる。このため、読み手には、平面絵本に比べて絵本の内容を演じる表現者としての役割が大きく求められるといえるのではないだろうか。 読み手と聞き手の応答的な関わりを通して、相互に感情の共有を行うことができることから、想像力豊かにすることができ、思考力を養うことができるのではないだろうか。しかけ絵本は動きを伴う絵本であることから、読み手は表現者として様々な読み方を行うことができる。嬉しさ等の感情に関わるしかけ絵本であれば、絵本の持ち方や声色、抑揚によって、どのような気持ちなのか等その場面を想像しやすくなることが考えられる。めくる絵本であれば、めくったところからなにが出てくるのか展開を期待して待つことから、場面をイメージしやすくなると言えるのではないだろうか。しかけ絵本の種類から、大勢に対しての読み聞かせに向いているしかけ絵本と子どもと保育者、子どもと保護者等一対一で共感し合いながら見る方が良い絵本もあることがわかった。					

氏 名	西山楓香	学籍番号	J019028	ゼミNo.	4
テーマ	保育現場における音楽活動のねらいに関する研究 一実習生が意図するねらいに着目して一				
保育実習や教育実習を経験する中で、乳幼児期に音楽を通して表現をする楽しさを味わうことは、想像力や創造力、言語獲得、コミュニケーション能力等を育むことに繋がり、音に触れることで子どもの心を豊かにしたり、落ち着かせたりすること等に繋がる。このように乳幼児期に音楽に触れることは、成長過程の中で大変重要であるのではないかと考えた。また、「音楽」や「保育実習」、「教育実習」の授業を終えている子ども専攻4年生は、様々な活動に対するねらいを推測するだけの能力を身につけているのではないかと考える。そこで、授業を通した保育の理論や、現場実習における子どもや職員、保育者の姿を多く観察し、指導実践してきた子ども専攻4年生に、これまでの実習を通した音楽活動のねらいに対する意識を探ることを通して、それぞれの音楽活動のねらいについて検証し、音楽活動の重要性を再確認したいと考えた。 M大学の子どもの専攻4年生を対象に、保育園や幼稚園で行われていると考えられる音楽活動について大きく5項目に分けて、それぞれの「ねらい」や「子どもの姿」について回答を求めた。実習生は「子どもの姿」からねらいを推測しているのではないかと考えたためである。アンケートの結果的に「子どもの姿」と「活動のねらい」が一致することで、M大学子ども専攻4年生がねらいを推測するだけの力を身に付けていることの証明となると共に、5項目それぞれの音楽活動のねらいについて検証することができるのではないかと考え、このようなアンケートを作成した。音楽活動は、『手遊び』、『歌』、『音楽を流す』、『リズム遊び』、『劇や合唱・合奏』、これら5つとした。その理由は、音楽活動でも内容によって、育まれるもの(活動のねらい)が違うのではないかと考えたためである。 その結果、項目別の「ねらい」と「子どもの姿」が、合致していることが分かった。子どもの姿「生き生きとした表情をしている」は、ねらい「音楽の楽しさ」と一致しており、子どもの姿「リズムにのっている」は、ねらい「表現力」や「指先の動き」、「リズム感」、「音感」と一致している。また、子どもの姿「集中している」は、ねらい「聞く力」、「集中力」と一致しており、子どもの姿「落ち着きをもっている」は、ねらい「感情調整」と一致している。この結果により、M大学4年の保育学生は保育における音楽活動のねらいを理解した上で回答しており、すべての項目において「活動のねらい」が「子どもの姿」に反映されていることが分かる。つまり、筆者らM大学の保育学生は、大学内の講義等の授業や複数回の実習での実践的かつ総合的な学びの両側面から、幼児の音楽活動を介した音楽表現指導観や保育観が定着した所以こそといえるのではないだろうか。					

氏 名	八木 いつき	学籍番号	J019036	ゼミNo.	4
テーマ	幼児における絵本の役割				

筆者が2年次に行った初めての実習園のI保育園で、2日間3歳児のクラスに入ったとき、実習一日目から、気になる子に出会い、どう関わればよいのか戸惑うこととなった。その幼児は落ち着いて活動に参加することが難しい様子であったり、他の幼児や教師に暴力行為・暴言を吐いたりする様子もあった。しかしそんな中で絵本を楽しむときだけは落ち着く様子や、他の幼児と読み聞かせを見ることができていた。そのため、絵本がなにかしらの効果をもたらせてくれたように思った。その効果とはどのようなものなのかを考えていきたい。また先行研究を概観すると、絵本を通じて学習の礎となることや、幼児のうちに育てたい能力を伸ばし、子どもへ発達の促進を促すのではないかとということがわかったため、自身の体験した気になる子とのかかわりからどのような点が子どもの内面に作用しているのか絵本の役割を検討していきたいと考えた。

そのため、幼児、愛着形成、絵本等に関する文献を2冊抽出し、これらの文献から同義的な意味合いを持つ箇所、また相違している箇所を挙げて分類した。得られたデータに基づき、子どもにとって絵本がどのように作用しているのかを検討する。さらに、実習園における幼児と絵本の関わりの事例を抽出し、気になる子に焦点を当てた事例から、文献から得られた結果に基づいて検討を加える。上記に基づき、絵本を介した幼児の育ちについて検討する。

その結果、「絵本は気になる子の内面に作用しており、読み聞かせの活動から安心感を得られているのではないか」ということや「絵本は資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい資質・能力のうちのすべてに関わっているもの」だといえる。文献検討からは、「子ども主体の関わり」「信頼感」が生まれていることや、物語絵本が「自己表現」を引き出してくれるということ、さらには、人間関係にも影響を与え子ども同士を繋ぐきっかけになるという「対人関係の広がり」があること等が伺える。筆者による事例の検討からは、気になる行動の多いYくんが絵本を通じて周りとの心を通わすことができている姿からYくんの心の中で絵本はとても魅力あるものであり、周りとのコミュニケーションを自然と円滑にしてくれる存在であることがみえた。これまでの調査から絵本による幼児の育ちにおいては知識や技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力や人間性等のすべての相互作用が生まれると考える。幼児における絵本の役割について考えることを通し、私たち大人が絵本を好きな気持ちを大切にして絵本を読み継いでいくことで幼児らも絵本が好きな気持ちが育つであろうし、絵本から学び得たものを次の学びに繋いでいくことがより可能になってくるのではないだろうかと考えたため、これからも絵本を愛していきたい。

氏 名	八塚明香	学籍番号	J019037	ゼミ No.	4
テーマ	幼児期の英語保育についてー英語保育の実際に着目してー				

幼児期の英語保育としてインターナショナルプリスクールが存在し、その数は近年増加傾向にある。この背景には、グローバル化やそれに伴って世界共通語となった英語、日本の英語教育の変化が関係していることがわかる。そこで、現代の保育における英語活用がどのようなものか実際に調査するため、全国にインターナショナルプリスクールを開設している英語保育所サービスでインタビューを行った。インタビューを通して実際の保育現場における英語活用の実際について調査するため、系列園にて Sports Festival、Halloween recital、M 園・I 園（未満児のみ在園）・N 園（以上児のみ在園）で日常保育に参加し、英語保育における実際について検討したところ、以下のような結論を見出すことができた。

まず、英語保育を行うにあたって、ゆくゆくは日本の小学校に進むことを見据えているため、日本語が全然話せないという状況が生じないように、子どもたちが日本語と英語のどちらも話せるように英語講師は **all English** で、日本人講師は日本語で会話を行い、子どもたちが相手の言葉を聞いて相手に合わせた言葉で会話ができるようなねらいがあることが明らかとなった。インタビューを通して、講師に向けての取り組みとして、英語が苦手な日本人講師がインターナショナルプリスクールに従事したとしても英語保育が成り立つように、英語講師を常勤させ、日本人講師の英語の勉強のために英語講師と日本人講師が会話をするときは基本的に **all English** で行うことを目標としている。子どもの英語力に見合ったレベルの講師を配属、日本人講師の英語力を伸ばすためにも英語保育所サービスが社内で無料の英会話レッスンを開講、幼保英検 3 級を取得していれば手当がつくなど、普段の保育や環境構成から講師の英語力を伸ばすサポートがされていることが分かる。

行事・日常保育への参加を通して、子どもに向けた取り組みとして、グローバル人材を育成していきたいという経営理念に基づいて講師に向けての取り組みと同様に英語講師の常勤、「Is ○○ちゃん(くん) here?」と名前を呼ばれ「I'm here」で返事をするなど日常保育で行っている英語活用を行事にも取り入れることで子どもたちが安心して行事に参加できるような環境構成がなされていることが分かる。また、モーニングサークルというどの園にも共通して決められている時間だけでなく、英検ジュニアの学習、ライティングの練習、プログラミング活動、行事を通して様々な観点から英語に触れる機会があることでインプットとアウトプットがしやすくなることがわかる。

よって、インターナショナルプリスクールでは、英語「教育」として英語を教え込むのではなく、保育の一環として英語を活用することにより子どもたちが英語と日本語の両方を使うことができるようになることが明らかだといえるだろう。

氏 名	久保田 りりか	学籍番号	J019010	ゼミ No.	5
テーマ	ファストファッションに関する大学生の意識について				

1. 研究の動機

私は、小学校の時からファッションに興味があった。アパレルショップに服を見に行くことや、ファッション雑誌を読むことが好きだった。大学生になり、自由に使えるお金も増え、自分で服を購入するようになってからは、安くてかわいい服が欲しいと思うようになった。それと同時に自分以外の人達はどのような服選びをしているのか、ファストファッションがどのようなものなのか知りたいと思った。

2. 研究方法

ネット記事や文献を活用して、ファストファッションの現状や、歴史、問題点とその解決方法や取り組みについて調べた。

また、本学学生を対象として、ファストファッションの利用率、ファッションにかかる金額やファストファッションでの購入品、購入時の注目点などに関するアンケート調査を実施した。そして調査結果を集計し、考察を加えた。

3. 結論

ファストファッションという誰もが手軽に買うことのできるファッションが生まれたことにより、人々の生活は格段に過ごしやすく便利になった。

最近では、コロナウィルス感染防止の影響などにより、ネット販売や洋服のサブスクリプションが進化し、ファッション EC が急激に普及してきた。しかし、便利である反面、廃棄量や環境問題、労働者問題など様々な問題点があることが分かった。その問題点は SDGs などの取り組みにより解決に繋がっている。

アンケート調査では、ファストファッションを利用している人が多くいることや、利用するアパレルブランド、ファッションにかかる金額や購入品などが分かった。学生のファッションへの関心や、ファストファッションに対する意見も知ることができた。

ファストファッションは利用率が高いことや、手軽さ、便利さからなくてはならないものだと思う。ファッションアイテムを買う時は様々な購入方法やブランドから自分に合った服選びをしていくことが重要であると考えている。

4. 参考文献

- ・【データは語る】若者がファストファッションを選ぶ「安いから」以上に重要な理由
<https://urbanlife.tokyo/post/47445/>、12月8日
- ・ファストファッションはなぜ環境問題を引き起こしているのか？
<https://www.fareastnetwork.co.jp/theme551/1-ks6838/>、12月10日

氏 名	千葉 怜奈	学籍番号	J019022	ゼミ No.	5
テーマ	幼児教育現場での食育について				

1.研究の動機

大学入学以来、保育園や幼稚園での実習を経験した。初めて行った保育園実習先で、子どもたちと一緒に「クッキング」や「野菜の水やり」など複数の食育活動を行なう機会があった。今まで何となく行っていた食育活動にねらいや学びがあることを知り、保育を学ぶ学生として非常に強い興味を抱いた。食育活動は何を目的に行っているのか、どのような内容なのか、他にどのような活動があるのか、について興味を持った

2.研究方法

ネットや文献を活用して食育について情報収集した。食育基本法について調べ、食育のメリットや問題点、好き嫌いの援助などについて理解した。また、実習先の幼稚園の先生方に食育活動の実態についてインタビュー調査を行った。本学学生に対して、学外実習先での食育活動の内容や目的、食育に対する意識や考えに関する調査を実施した。そして、調査結果を集計し、考察を加えた。

3.結論

現在日本では、不規則な食事、肥満・生活習慣病の増加など多くの食に関する問題がある中、子どもの食においても朝食欠食や孤食等の問題が増加している。これらの問題の対策として 2005 年に食育基本法が創設された。これにより、国として食育を推進し、健康な食生活を支援していく流れが強まった。

保育園でも保育所保育指針に述べられている「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とし、食育活動が積極的に行われている。

アンケートの結果から、保育所・幼稚園では食事のマナー、野菜の栽培・収穫、クッキングなど様々な食育活動に力を入れていることが分かった。また、学生の真面目で詳細な回答から本学学生の食育に対する高い意識や知識を感じた。

保育者による好き嫌いの援助や子どもの頃からの生活習慣、食習慣の定着が今後の人生に大きく関わっていく。今よりももっと食育に力を入れていくべきだと考える。

4.参考文献

- ・小川雄二、「五感イキイキ！心と体を育てる食育」、新日本出版社、2011。
- ・学校・保育所等での食育の推進：農林水産省、
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/r01_minna/html/part4.html、
2022/12/07。
- ・保育所保育指針における食育の役割について | 管理栄養士の知恵袋、
<https://kanrieiyou.com/>、2022/12/14。

氏 名	秋山 茉耶	学籍番号	J019001	ゼミNo.	6
テーマ	女性ファッション誌の流行から学ぶ着まわし術 —『ViVi』2019～2021年の3～5月号を中心に—				
1. 研究の動機と目的					
普段からファッション誌を読んでいく中で、女性ファッション誌は「流行」を取り上げているものが大半なのではないかと感じた。それと同時に着まわしについても興味を持ち、一つのアイテムではどれくらいのコーディネート数があるのか、どのような印象を与えるのか明らかにしたいと感じた。本研究で扱う雑誌は、『ViVi』2019～2021年の3～5月号とする。流行として多く使われていたアイテムは何なのか、そのアイテムにはどのような着まわしがあるのかを明らかにし、実際の誌面を使って一つ一つのコーデが生み出す雰囲気や印象などを考察していくこととする。					
2. 研究の方法					
①『ViVi』を使い、2019～2021年の春の流行をトップス、アウター、パンツ、スカート、その他、シューズ、小物、色、素材、デザインに分けて明らかにする。					
②①で明らかになった流行アイテムの登場回数をまとめ、上位5アイテムを紹介する。					
③②で紹介したアイテムの着まわしを実際の誌面を載せながら考察していく。					
3. 研究結果					
『ViVi』の誌面の着まわしの考察から以下の点が指摘できる。2019年の春の流行は、部分見せトップス、ショート丈のボトムス、ウエスタンブーツが流行アイテムであった。2020年の春は、ショート丈のトップス、アウター・ボトムスともにロング丈のアイテム、シアー素材のアイテムが流行していた。2021年の春は、全体的にショート丈のアイテム、カラフルで柄物のアイテムが流行していた。そして、アイテム別に分けた登場回数上位のアイテムは、部分見せトップス、でかジャケ、キュロットパンツ、ミニスカート、セットアップであった。					
着まわしでは、春らしい印象を与えるには、パールトーンアイテム、サテンアイテム、シアーアイテムを使用する。コーデにメリハリを出したいときには、肌見せをする、コントラストを楽しむ色遣いをする、ベルトを使用する。女性らしい印象を与えるには、フレアシルエットのアイテムを使用する。スタイルアップを目指したいときは、ハイウエストアイテムを使用する、縦ラインの入ったアイテムを使用する。具体的な合わせ方としてはミニ丈×ロングブーツ。カジュアルなコーデに仕上げたいときは、オールインワンやスニーカーを使用する。コーデにアクセントを加えたいときは、柄やカラーの小物やエナメル素材などの異素材アイテムをシンプルなアイテムと合わせるとよい。などが明らかとなった。					
参考文献：『ViVi』（講談社）2019～2021年それぞれの3～5月号					

氏 名	川本茉愛	学籍番号	J019009	ゼミ No.	6
テーマ	留学生の抱える問題とその改善方法				
1. 研究の動機と目的 近年、外国人を日常生活でよく見かける。また、私が通っている大学にも留学生が在籍していたことがあり、より外国人を身近に感じ、留学というものに興味を持った。そこで、日本への留学者数について調べてみたところ、新型感染症が流行する前の、2019 年までの文部科学省の調査によると、留学者数は年々増加していたことが分かった。特に中国、ベトナム、韓国をはじめとしたアジア人留学生が多い。日本に留学した理由、日本への留学前と留学後で変化したこと、日本に留学して不安だったことや困ったことなどを文献や調査を参考にし、アジア人留学生の抱える問題、実情について調べ、私たちが留学生にできることは何か、またその問題についての改善方法にはどのようなものがあるのか考えを深めたいと思い、この研究をすることにした 2. 研究の方法 本研究の方法として、先行研究、インターネット等の情報をもとに留学生についての情報収集を行い、留学生の現状や課題について理解する。そして、困っていることや問題点について考察する。私たちが留学生に何ができるのか研究した。 3. 研究結果 研究より、私たちは、外国人留学生が増えていることだけでなく、留学生が実際にどのような暮らしをしているのか、悩んでいることはないのか、また自分たちにできることはないのか考えていくことが必要であると考えた。留学生が困っていることとしては、日本語学習と情報収集、困難に感じていることとしては、日常生活の文化の違い、宿舎を借りることが挙げられた。また、学校内の生徒との交流の機会を作ってほしいという意見も多くあった。 これらの意見を尊重しつつ改善策を考えていく中で、私たちは留学生だけでなく外国人を理解していくことに繋がっていくと思う。そうすることで、お互いを尊重して、共に暮らしていく前向きな社会になっていくと思う。 これからも日本に多くの外国人が来ることが予想されている中、私たちも外国人も快適で、安心して暮らしていくことがとても重要になってくる。 私は、この研究で学んだことを生かし、留学生だけでなく日本にいる外国人についても考えていきたいと思った。また今回研究できなかった技能実習生などの身近な外国人についても問題や解決について考え、詳しく研究したいと思う。これからは、外国人と積極的に関わり、話をしてより実践的な改善方法について考えていきたい。 ・文部科学省 HP 「外国人留学生在籍状況調査」および「日本人の海外留学者数」 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm					

氏 名	五頭 朋佳	学籍番号	J019013	ゼミ No.	6
テーマ	野良猫・野良犬を減らすために				
【1】研究の動機と目的 私は、小さいころから猫を飼っていた。また、祖父母の家や近所の家でも犬を飼っていてペットと触れ合うことが多かった。ペットを飼うなら最後まで責任を持って飼うのが普通だと思っていた。しかし、近所には野良猫・野良犬が多くどうして野良猫・野良犬がいるのかが分からなかった。動物を捨てるならなぜ飼おうと思ったのか。そこで、卒業研究では、野良猫・野良犬が増える原因は本当に捨てられたからなのか、野良猫・野良犬を減らすために私に何ができるのか。それらを明らかにしたい。 【2】研究の方法 以下の内容について、インターネットを利用して調べ、野良猫・野良犬を減らすためにはどうしたらいいか考察した。 1 日本のペットの現状 1 - 1 ペットを飼っている人の割合 1 - 2 飼育しているペットの種類 1 - 3 ペットを飼おうと思った理由 2 野良猫・野良犬の減少対策について 2 - 1 野良猫・野良犬が増える原因 2 - 2 愛媛県の取り組み事例 ① 愛媛県としての取り組み事例 ② 松山市の取り組み事例 ③ 県内の他の市町村の取り組み事例 2 - 3 自分にできること 3 外国と日本のペット制度の違い 【3】研究結果 野良猫・野良犬が増える原因は、以下のことが考えられる。 ・人間が飼育できなくなった為に捨てること。(飼ってからアレルギーが発症したり、引っ越し先で飼えなくなったりする)・放し飼いをしていて外で繁殖して帰ってくること。・ブリーダーによる過度の繁殖。など 自分にできることとしては以下のことが挙げられる ・譲渡などの自治体の取り組みへの参加をすること。・新しくペットを迎え入れようとしている人に愛護センターの里親制度などを勧める。・避妊・不妊手術の呼びかけをすること。・遺棄や虐待の防止、無責任な餌やりの防止を呼び掛けること。など 【参考 URL】・世論調査 内閣府 (https://survey.gov-online.go.jp/h12/aigo/images/hyou03.csv) など					

氏 名	松田 夕菜	学籍番号	J019032	ゼミ No.	6
テーマ	自己肯定感の育て方について				
1. 研究の動機 私はよく自分の自己肯定感について考えたり、悩んだりすることがある。そこで自己肯定感を保ったり高くしたりするにはどのようなことをしたらいいのかが気になるようになった。そして、自己肯定感は子どもの頃からの影響はあるのか、子どもの自己肯定感を育むためにはどのような保育が必要なのかについても興味を持つようになった。 2. 研究の目的 子どもの自己肯定感を育む保育方法や、大人になってからでも自己肯定感を高められる方法はどのようなことがあるのかについて明らかにしたい。 3. 研究結果 子どもの自己肯定感を育む保育方法については以下のようなものがあつた。「クラスのできる子と一緒にいることで安心している」という事例の場合は、保育者がクラスの他の友達と交流できるような遊びの提案や、魚の世話を通して様々な友達と関わることができるような環境を作ることによって「どのような自分でも友達は認めてくれる」という安心感を持てるようになっていた。 また、「できない自分を友達に見られることに抵抗感を持っている」という事例の場合は、保育者は子どもの気持ちを汲み取り、保育者自身も関わりすぎないようにすることを大切にしていた。この事例では、子どもが一人でステージの上でコマの練習をしていた。その理由を保育者に「みんなに言ったらみんなが（ぼくに）ついて来るから」と言った。そこで保育者は「じゃあ先生だけに言ってね」と言うことで、子どもは遠くからでも見守られていると感じられるようになっていた。 次に、大人になってからの自己肯定感を高められる方法については以下のようなものがあつた。自尊感情が低い場合は、「ライフチャート」「タイムライン」「イメージトレーニング」、自己受容感が低い場合は、「if-then プランニング」「エクスプレッシブ・ライティング」、自己効力感が低い場合は、「スモールステップの原理」「リフレーミング」「ポジション・チェンジ」、自己信頼感が低い場合は、「課題の分離」「脱フュージョン」「瞑想」、自己決定感が低い場合は、「タイムライン」、「レファレント・パーソン」、自己有用感が低い場合は、興味のある分野で人とのつながりを作ったり、「ポジション・チェンジ」、「タイムライン」「レファレント・パーソン」を試したりすると良いことがわかった。 4. 参考文献 ・『仲間とともに自己肯定感が育つ保育 安心のなかで挑戦する子どもたち』浜谷直人（2013）SBクリエイティブ ・『何があっても「大丈夫」と思えるようになる自己肯定感の教科書』中島輝（2019）かもがわ出版					

氏 名	森 愛雅	学籍番号	j 019034	ゼミNo.	6
テーマ	若者とアルコールの付き合い方～楽しくお酒と向き合うために～				

1. 研究動機

大学に入学してから、部活での祝勝会や新歓、追いコンなどとお酒を飲む機会が増えた。部活だけでなく、友達やバイトの仲間たちなどとの飲み会などもある。その時に、アルコールを過剰に摂取したり、一気に飲みをしたりすることがある。それが、翌日の二日酔いに繋がったり、記憶がなくなったりする。私は、そこまでしてお酒を飲む意味や過剰摂取や一気に飲みの危険性を知りたいと思った。また、若者の知識不足や若者ならではのノリが、危険行為に繋がっているのではないかと考え、若者とアルコールの付き合い方を研究テーマにした。

2. 研究目的

飲み会の場は、交友関係の広がりやコミュニケーションの機会としても考えられる。そのようなことから、なぜお酒を飲むのか、アルコールについてどれくらい理解しているのかを調べ、アルコール依存、アルコールの危険性と人体に及ぼす影響を調べ、楽しくコミュニケーションをとれる飲み方を探りたい。

3. 研究結果

本研究は、インターネットを利用してアルコールの人体、特に女性への影響や飲酒トラブルの事例を集めた。また、20代の友人たちに若者の飲酒状況やアルコールについての理解を調べるアンケート調査をGoogle formで行い、実際に急性アルコール中毒になった友人にインタビューを行った。その結果、以下のことが分かった。

- ① お酒を飲む一番の理由は「飲み会が楽しい」という理由である。
- ② アルコール依存については、ある程度は理解している人が多かったが、急性アルコール中毒については、理解している人がほとんどいなかった。
- ③ 女性の体への影響は、男性に比べて肝硬変や肝障害になりやすく、乳がんのリスクが高まったりする等の影響がある。
- ④ 急性アルコール中毒に関しては、誰にでも起こりうる危険であり、アルコールの危険性、若者のノリが危険に繋がる恐れがある。
- ⑤ これらの研究を通して、楽しいお酒との向き合い方として、次の三つを提案したい。
 1. アルコールの危険性を知る。
 2. 無理に飲ませない、飲まない。
 3. もしもの事を考えてアルコールについての知識を身に付ける。

参考文献：「日本人の飲酒傾向」・「女性とアルコールについて」依存症対策全国センター（ncasa-japan.jp）
「大学生の飲酒死亡事故『また同じことが起きてしまう』遺族の危機感」毎日新聞（2022年10月24日付（mainichi.jp）朝日新聞（2019年11月6日付）近大生一気飲み急死、9人略式起訴 学生の飲酒では異例：朝日新聞デジタル（asahi.com）

氏 名	森高涼葉	学籍番号	J019035	ゼミNo.	6
テーマ	日本の性教育の現状と性教育の必要性				

1. 研究の動機

筆者は日本の性教育が遅れていると考える。現代の日本では未成年による望まない妊娠・人工妊娠中絶が後を絶たない。未成年による人工妊娠中絶数は年々減少しているものの、20 歳未満の人工妊娠中絶数が出生数を大きく上回っているのが現状だ。保育者になるものとして生まれてくる子どもは全員幸せになる権利があると考え。望まない妊娠や人工妊娠中絶を防ぐためにも正しい性教育が必要だと考える。

2. 研究の動機と方法

日本の性教育の歴史を踏まえ、海外で積極的に性教育を行っているオランダ・スウェーデン・イギリスと日本を比較し、どのような点で日本の性教育が遅れているかを明らかにする。また、10 代～20 代の性に対する意識調査を基に、日本の性教育の課題を述べる。以上の点を踏まえ、正しい性知識を持つためにはどのような方法が効果的かを考察する。

3. 結論

先行研究などから、日本では性教育が他国と比べて教えられる内容に限りがあることが分かった。今回比較したオランダ・スウェーデン・イギリスの性教育は性行為だけでなく、性の快楽等のポジティブな面や性感染症や性暴力のリスクとなる面等様々な角度から性教育を進めていることが明らかになった。また、この3 カ国は共通して性をタブー視せずに当たり前のこととして教えられていることも明らかとなった。一方で日本では性教育を扱う科目の保健体育や理科で「はだめ規定」を設けており、性行為などについて教える内容を制限している。また、過去には性教育を行った養護学校への批判や日本ではまだまだ性は恥ずかしい、教えるべきではないものという意識が根底にあることが分かった。10 代の性に関する意識調査では、学校の性教育について、「学校現場の性教育は抽象的である。」「異性の体や避妊方法などを具体的に知りたい。」という声があがり、学校での性教育に満足していないことが明らかになった。しかし、日本でも一部性教育拡充の動きがあり、東京都が性教育の手引きを改訂したり、企業が 10 代向けに性教育のサイトを公開したりしている。筆者も若者の性教育の関心と呼びかけるために、パンフレットを作成した。今後は、学校教育の場で正しい性知識を身につけるために、幼児期や小学生向けの性教育はどのように行えばよいのかについても考えていきたい。

4. 参考文献

・橋本紀子・池谷壽夫・田代美江子「教科書に見る世界の性教育」平成 30 年かもがわ出版

・日本財団第 6 回 18 歳意識調査「テーマ：セックスについて」2022 年 12 月 26 日閲覧
https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/new_pr_20181218_02.pdf

・日本財団第 39 回 18 歳意識調査「テーマ：性行為について」2022 年 12 月 26 日閲覧
https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/07/new_pr_20210728_2.pdf

氏 名	中野 葉月	学籍番号	J019502	ゼミ No.	6
テーマ	共働きで子育てをする母親の現状と課題				

1. 研究の動機・目的

私は、大学生になってから保育士を目指し実習や日々の学びから子どもについての理解を深めたり実際に子どもと触れあったりしてきた。そうした中で、子どもを育てるということの大変さにも気づいた。そんな中で、共働きの家族が年々増え続けているというニュースを目にし、現代の共働きをしている母親がどのように生活をしているのか不思議に思い深く研究したいと思った。また、県内で行われている子育て支援について調査し、どのような支援があればさらに子育てがしやすくなるのかを研究することとした。

2. 研究方法

子育て支援について以下の方法で調査した。

- ① 現代の子育てについての現状についてインターネットで情報収集を行い、理解を深める。
- ② 自分の住んでいる愛媛県で行われている子育て支援について調べ、どのような支援があるのかを知る。
- ③ 県内在住の働きながら子育てをしている女性にインタビューを行い、愛媛県内で行われている支援を実際に活用しているのか調査する。
- ④ インタビューからどのような支援があればさらに子育てが助かるのか、実際に子育てをしている人の声を元に考察する。

3. 結論

愛媛県の支援の取り組みについては、様々な子育てサポート情報を集めることができるサイト、おむつ製品を購入する際に利用できる応援券の配布など、様々なサポートを実施していることが分かった。インタビュー結果により支援をあまり活用できてない現状もみられた。そのため子育て支援についての情報を、SNSを活用して広めていく必要があると思った。

また、働く母親にとって、一人でのリフレッシュ時間の増加や市町村の子育て支援の統一性を求めている人が多いことや求める明らかになった。そのことから、託児所を充実させることや、都道府県ごとで制度を統一するとさらに改善されるはずだ。

今後は、この研究を活かして、同世代の女性に子育てについての情報を提供したり、相談を受けたりしながら、子育て中の母親をサポートしていきたい。

参考文献 1)内閣府 <https://www.cao.go.jp> 働き方と子育てに関する問題点：子ども・子育て本部・内閣府 (cao.go.jp)

2)令和 2 年版厚生労働省 共働き等世帯数の年次推移

図表 1-1-3 共働き等世帯数の年次推移 | 令和 3 年版厚生労働白書一令和時代の社会保障と働き方を考えるー | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)

氏 名	石井紗羅	学籍番号	J019002	ゼミ No.	7
テーマ	自己肯定感を高めるためのコラージュアルバム制作 ー記憶の再構築を通してー				

自己肯定感とは、自らの在り方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する。近年、この感覚が低い子どもが増えてきている。それはいじめや引きこもりの要因にもなるとされ、問題視されている。しかし、この自己肯定感が高めることが出来るといわれている。その方法の一つとして「振り返り」がある。私自身も、なにか失敗をしてしまったときには、自分を責めたりしてしまうが、過去の成功体験や友達からの言葉により励まされ、自己を肯定できることがある。

このように自分が経験した出来事や人間関係の記憶を振り返りとして再構築することで、自己を支える記憶を形成することができるのではないか。東京都内の公立中学校では「マイドキュメンタリー」というキャリア教育プログラムを活用し、子どもたちが振り返りを行っている。ここでは、「今『私』といえど」などの自分を振り返るための設問をエピソードと定義し、写真を活用した個人ワークやグループワーク等を通して子どもたちはより深く自分を振り返るといふ。

自己肯定感を高めるため、アルバムによる振り返りに良い効果があるのではないかと考え、コラージュ作品としてのアルバム制作をおこないたい。

研究方法として、まず先行研究より自己肯定感、コラージュ、アルバムについての調査を行う。そしてその結果をもとにコラージュを使ったアルバム制作に取り組む。初めに成功体験や趣味、ありのままの自分を感じる写真を集め、制作する項目を考える。そして、ページごとにコンセプトを決め、写真のみならずビーズや毛糸、樹脂などの異素材を組み合わせる自分表現できるように制作を行った。作品の中にはあえて文字は入れず、先入観を感じず観た人と会話が楽しめるように工夫を施した。アルバム制作を通して、写真で振り返ることは、忘れていた記憶の再構築に繋がり、自分を認めることができる 1 つの証拠となることがわかった。アルバム制作は困難なことであったが、完成した際に人間関係において忘れていたその時の感情など「見えないもの」を確認することができ、観てくれた友人とも時間の共有ができた。今回は制作に時間がかかり、アルバムを観た他者への影響や気持ちの共有などが不十分な点があった。今後は、子どもたちの成長過程が何年も記憶に残るように写真を使った活動や、自己を表現できるコラージュを用いた表現活動を行いながら、保育者として研究を続けていきたい。

引用参考文献

- ・高垣忠一郎 (2004)「生きることと自己肯定感」新日本出版社
- ・山中康裕 (2003)「心理療法プリマーズ 表現療法」ミネルヴァ書房
- ・内閣府, “日本の若者意識の現状～国際比較から見えてくるもの～”, https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01gaiyou/s0_1.html (最終閲覧 2022/5/20)
- ・道々楽者“マイドキュメンタリー“, https://orial.jp/my_documentary/ (最終閲覧 2022/5/20)

氏 名	井上双葉	学籍番号	J019004	ゼミNo	7
テーマ	仕掛け絵本を通して考える紙媒体の絵本の有用性について				

私は大人にも絵本を手にとってもらいたい。それは、大人から子どもへの絵本の循環が生まれると考えるからである。また、紙媒体の本によって違う紙の手触りや温かみを感じてほしいと考えている。養田（2020）は「紙の手触りや温度など、絵本そのものを味わうことは絵本というものと読者との体験を強く印象付けることにつながるように思う。」と述べている。つまり実際にモノとしての絵本に触れる直接体験により、読者の記憶にその絵本が残りやすくなるということだ。ただ絵本を制作するだけでなく、仕掛け絵本を制作することで、より紙媒体の持つ有用性が見えてくるのではないか。

本研究の目的は仕掛け絵本を制作し、紙媒体が持つ有用性を考えていくことである。研究方法として様々な仕掛け絵本を調べ試作品を制作し、それを活かせる物語を考え仕掛け絵本を制作する。また、学生に絵本に関するアンケートを実施する。そして、制作した仕掛け絵本を他者に見てもらい紙媒体による読者の体験を確認する。

仕掛け絵本を制作する工程では、まず、仕掛けの試作品を制作する。既存の絵本などを参考に、そこに使われている仕掛けがどのような仕組みになっているのか、どのような効果が得られるか考察する。次に、絵本の物語を考える。仕掛けが生かせるもので、読者が前向きになれるメッセージ性のある物語を考える。次に、下描きをする。後から仕掛けが付けやすいように仕掛けを付ける絵を大きく描くなど工夫する。次に着色をする。色鉛筆とクーピーを用いて、それぞれの良さを生かしながら着色する。次に仕掛けを付ける。ポップアップのような立体のものや触って楽しむことができるものを制作した。

アンケート調査では、本学の学生 60 人に対し紙媒体とデジタル媒体の良さとその理由、自分が絵本を読むときにどちらを読みたいか、子どもにどちらを読んでほしいか、普通の絵本と仕掛け絵本の良さとその理由について調査した。

仕掛け絵本の制作を通して、視覚だけでは分からない実際に触れることで伝わってくる作者の思いがあることに気付き、見た目で人を判断しないことや固定観念にとらわれ過ぎないことの大切さにもつながっていくと考えた。実際に触れることで感じた気づきから、紙媒体の有用性とは、本に触れることで、作者の思いを感じ、作者とつながりを作ることができるころだと考える。またアンケート調査から絵本に触れることと読者の記憶の結びつきを感じ、実態に触れることの効果はその良さに気付くことができ、その良さを他者に伝えることができること、これからも紙媒体の絵本に触れていきたいという継続的な感情が持てることであると思われる。

これからの課題として、本研究で十分に調査できなかった絵本に触れることでの読者の体験について、もう少し研究し、就職した先でも、子どもたちの絵本の体験について考えていきたい。

引用・参考文献

- ・養田もえ（2020）「絵本の基材と表現－駒形克己の絵本作品の例として－」日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科 第 26 号 pp171-178
- ・ロバート・サブダ（1965～）1987 年に最初の児童書シリーズである Bulky Board Books を描いた。1994 年に子ども向けポップアップブックのデザインを開始して初めて、広く認知された。(https://en.wikipedia.org/wiki/Robert_Sabuda 2022/7/12 閲覧、http://www.robertsabuda.com/ 2022/7/12 閲覧)
- ・https://www.ehonnavi.net 2022/07/12 閲覧
- ・牛渡淳（2010）「サブダの「しかけ絵本」をどう評価するかーロバート・サブダの「しかけ絵本」の特色と課題」仙台白百合女子大学紀要 pp29-41
- ・作・きむらゆういち、え・くさかみなこ、(2018)、「のびーるしかけえほん なんのたまごかな?」、東京書店株式会社
- ・「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」、(2020)、(株) 萌文書林
- ・くまだまり、(2011)、「セレクト BOOKS かわいいポップアップカード」、株式会社主婦の友社
- ・やまもとえみこ、(2019)、「増補改訂版かんたん楽しい手作りカード BOOK」、株式会社日本ヴォーグ社
- ・幼稚園教育要領解説、(2018)、株式会社フレーベル館、p 62

氏 名	岡崎 水葉	学籍番号	J019006	ゼミ No.	7
テーマ	五感で感じる「木のおもちゃ制作」				

動機と研究の目的

筆者が 3 年生の責任実習（保育所）で観察した 0, 1 歳クラスの子どもがプラスチック製のおもちゃを使って遊ぶ姿から、五感で感じることができる木のおもちゃを取り入れたいと感じた。木育の考えがこれからの時代に重要になるということをも木製の玩具が幼児の育ちに与える影響について実際に制作しながら考察したい。

研究の方法

参考文献を調べ、木育についての考え方や、木製の玩具が幼児の育ちに与える影響について考察する。実際に作品を制作し、制作過程から感じることや、完成品が他者に与える影響についてまとめる。そこから木育について深く考察する。

制作過程

クーゲルバーンの考えを用いた、おもちゃの制作を行った。クーゲルバーンとはドイツ語で「玉の道」という意味で、今回の制作では傾斜のついた釘のレールにビー玉を置き、転がり落ちていくのを楽しむおもちゃとして制作した。視覚、聴覚を刺激し楽しむことができるおもちゃができた。

木のトラック制作では、上記のおもちゃとは違い、木の独特なおいや手触りといった嗅覚と触覚を育てることができるおもちゃである。完成したトラックでは実際に曳いて遊べるようにロープを取り付けた。

結論

今回の制作で寺床（2018）が述べている、木育は「触れる→つくる→学ぶ」の 3 段階で発展的かつ往還的に取り組む性質だということが制作経験を通して確かめられた。また、五感が育つことだけではなく、木の独特なおいによる精神的な癒しをもたらし、釘を丁寧に打つことは手指の巧緻性、トラックのたくさんのパーツをのこぎりで切る体力、集中力、忍耐力、設計のイメージに基づいて制作をする先を見通す力などが今回の卒業制作で育まれた。さらに、木と人間の関係についても深く考察し、これからの時代に木育の考えが必要不可欠になるという木育の意図するねらいを理解できた。徐々に悪化している地球温暖化をもっと重要視し、地球上で暮らす大人、子ども関係なく温暖化の防止に努めていかなければならないということに気づいた。木育の考え方に基づく活動が、子どもたちや周囲の大人たちにとって地球温暖化などの環境問題について知り、理解するきっかけの 1 つになってほしいと私は願う。

引用・参考文献

- ・寺床勝也 『幼児教育における木育の環境構成』 日本森林学会大会発表データベース 2018
- ・成田奈緒子 “WAKOD 和光堂” なぜ五感の刺激が重要な？ー五感を刺激する育児アドバイス
<https://www.wakodo.co.jp> 最終閲覧日 2022 年 12 月 24 日
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』. 平成 30 年 3 月 p.28 2 環境を通して行う教育

氏 名	永井 萌菜美	学籍番号	J019023	ゼミ No.	7
テーマ	「文字から受ける第一印象とは」 —文字に表されるその人の性格や感情—				
動機と目的					
人との関わりの中で第一印象は重要である。人は出会った人の第一印象によって、相手をイメージする。そして私は文字にも第一印象が存在するのではないかと考える。 自分らしさのある文字は相手に対してより一層強い印象を与えるのではないかと考え、筆跡から受ける第一印象を調査する。本研究の目的は、それぞれの字を見てどんな印象を受けたかについて調べ、どのような特徴により印象が異なってくるのかを確かめていくことである。					
研究の方法					
文字の第一印象や、その人ならではの特徴について考察することは、『自分自身の文字』を追求することに通じると考える。研究の方法としては、まず、それぞれの字を見てどんな印象を受けたかについて調べ、どのような特徴により印象が異なってくるのかを確かめていくというアンケート調査を実施し、その結果について分析と考察をおこなう。					
制作の実際とアンケート分析					
揮毫作品制作では、時代や字体ごとの特徴を捉えていくために篆刻と楷書「顔勤礼碑」、草書「十七帖」の臨書を行う。もう一つ、色紙に『自分らしい文字』の観点から作品を一つ制作する。アンケート結果では、人の第一印象は文字でも見ることができると分かった。これは、少しの情報量からでも人が何かしらを感じ取っているためだ。成長の過程で文字にも癖ができるが、これは自分が生み出したともいえ、その人自身を表すものとも言えるのではないだろうか。そのため文字には第一印象があり、一人ひとりの尊重すべき個性であると考え。					
まとめと考察（自分らしい文字とは）					
揮毫制作からは、自分らしくお手本の特徴を掴んで書くということを意識して書いてみたことで私は『自分自身の文字』で相手に見られたいのだと分かった。第一印象を意識し、自分の意思を打ち出し行動しようとする気持ちを「自分らしい文字」によって他者に認識されるようにしたい。今後は幼児教育の現場で、子どもたちが習いたての文字を使ってどのように自由に自分を表現するのか見てみたい。					
引用・参考文献					
松野 隆則（2012）、『手書き文字の感性印象と筆跡から憶測されたおよび実際の書き手のパーソナリティ特性との関連について』の P37 より、 角井 博 他 9 名（2017）、『書道 II』、教育出版株式会社の p45 より					

氏 名	中村 綾花	学籍番 号	J019025	ゼミ No.	7
テーマ	自然物で作る楽器が子どもに与える影響				

自然と音楽は私たち人間の心の拠り所であり、恩恵を受けているものである。そして私たちが思っている以上に人間と共生している関係だと言える。

そこで、自然物で楽器を作り、自然物と音楽を融合させるとどのような音色になるのか、また、加工物で作られた楽器とどのような違いがあるのか考えるとともに、自然物で作られた楽器がどのような影響を与えるのかについて確かめたいと考え、今回の研究に至った。

今回制作した楽器は、オカリナとウッドブロックの二つである。研究の方法としては、制作手順をもとに楽器を制作し、制作過程から発見したことや、加工物で作られた楽器との違いをまとめ、考察を行う。

制作が終わったら、二つの楽器の制作過程の一つひとつが五感のうちの視覚、聴覚、嗅覚、触覚にどのように関係しているかをまとめた。結果から、自然物で楽器を作ることは五感を強く刺激することがわかった。幼児期からこのような経験を積み重ねることで、発想力や思考力を養うことができたり、外界の些細な変化にも気づけるようになるため、危機回避能力を養うことができたりすると考えられる。また、人は五感を通して感情を生み出すとともに、それを言葉にして伝えようとする。五感を刺激することで豊かな表現力と語彙力も育めるのではないかと。次に、自然物の楽器とプラスチックの楽器の音色や手触り、匂いを比べた。どちらもそれぞれの良さがあるが、五感を刺激するという点では、自然物で作られた楽器の方がより効果的であるといえる。

今回の研究から自然物で作られた楽器は、自然本来の温かさや人間に与える安心感を与えることがわかった。また、幼児期から自然物で楽器を作る経験を積み重ねることで、五感を刺激し、さまざまなことを得られると導くことができた。しかし、今回の研究では、実際に子どもたちの前で演奏することができなかった。自然物で作った楽器を子どもたちが見たり、音色を聴いたり、実際に演奏したりするとどのような反応を見せるのかを観察して、その姿から、五感にどのような刺激を与えているのか、五領域や10の姿にどのように関わっているのかなどを考察することを今後の課題としたい。

引用・参考文献

- ・厚生労働省. 2018. 『保育所保育指針』. フレーベル館. pp172
- ・梅津勝. 1991. 『オカリナ製作の手引き』. 帯広畜産大学. pp45-75
(<http://id.nii.ac.jp/1588/00002731/>) 最終閲覧日 2022.12.16
- ・神代充史. 1987. 『手づくり楽器で音楽会～誰でも作れる打楽器 30 種～』. 同時代社. pp24-29
- ・厚生労働省. 2018. 『保育所保育指針』. フレーベル館. pp131-287
- ・厚生労働省. 2018. 『保育所保育指針』. フレーベル館. pp73

氏 名	灘波ちこ	学籍番号	J019026	ゼミ No.	7
テーマ	絵本で育てる食育の重要性について				

はじめに(動機と研究の目的)

私は無理に口の中に押し込まれていたのが苦痛で、給食の時間が苦手であった。そのため現場実習で、「食べたくない子」の気持ちがよくわかった。食育では、食べ物を食べる喜びや楽しさを知ることが大事である。良い雰囲気味わい、感謝の気持ちを持つことは、周りの大人の関わり次第で可能になる。そこで、子どもが食事について興味を持てるような仕掛け絵本を制作し、食・命への感謝の心を持てるようにしたい。

研究の方法

食育をテーマにした絵本を調べ、参考にしてオリジナル食育絵本を制作する。

また、園に協力をお願いし作品の読み聞かせをさせていただく。食・命への感謝の心を持ち食事ができ、好き嫌いが減る子どもがいるかもしれない。一方、好き嫌いが全く減らないことも考えられる。また、保育者が普段子どもたちの好き嫌いの対応についてどのような声掛けを行っているのか直接インタビューを試みたい。

制作過程

主な画材はクレパスにし、偶然性により面白い効果があるモダンテクニックを使うことで興味関心を引き出す表現になるよう工夫した。子どもたちが思わず触りたくなる仕掛けも作り五感を使い楽しめるような絵本を制作した。

結論(まとめと考察)

読み聞かせ中、絵本に興味を持ち立ち上がり見に来る子や集中して見ている子がいた。その後お弁当の時、筆者の絵本に影響されて苦手なものを自発的に食べようとしている子どもの姿も見られた。このことから仕掛け絵本の読み聞かせは食育活動として効果的であると言える。また、保育者によると、苦手なものを少しでも口にしたら褒めることで、さらに食べようと思う気持ちが芽生えてくるそうだ。食べないからあきらめるのではなく、食べてもらえるよう長い時間をかけて、たくさんの方で援助を行うことが大切である。

人間にとって食べることは、この先も続いていく。幼少期の私のように食べることが苦痛だと思う子どもたちが増えないよう、大人である私たちが命・食への感謝、食の素晴らしさをたくさんの方で伝えていくことが重要である。

引用・参考文献

内田美智子、『いのちをいただく：みいちゃんがお肉になる日』講談社。2013。
中川ひろたか、『いのちのたべもの』おむすび舎。2017。
真珠まりこ、『もったいないばあさんのいただきます』。講談社。2009。
ジーン・マルゾーロ、『ミッケ！いつでもあそべるかくれんぼ絵本』。小学館。1992。
厚生労働省。保育所保育指針。2018。フレーベル館
文部科学省。幼稚園教育要領。2018。フレーベル館
内科府。幼保連携型認定こども園 教育・保育要領。2018。フレーベル館

氏 名	山岡美音	学籍番号	J019503	ゼミ No.	7
テーマ	理想の園の模型作りから、自分の将来の保育を考える				

私は、今までの実習経験やこれまでの学びの中で園環境について触れることが多くあった。それらの経験から、自分が考える理想の園環境を立体作品として制作してみたいと考えた。現段階で私が思い描く理想の園環境を立体に起こすことを通じて、空間的にも把握しやすいものとして提示してみたい。そこからさらに今後の課題を見出そうという試みになる。

研究の方法としては、初めに、これまでの実習経験を思い起こし、それらがどのような環境であったかを明らかにする。加えて、インターネットから用いた参考資料や法令からイメージを膨らませ、理想とする園環境を考える。次に、理想の園環境を分かりやすく提示するために立体の模型として制作し、制作を通して新しい発見や課題に対して考えを深め、自分自身の保育観を確立させることを目指す。

私が理想とする園環境は、「暖かい印象を与える木材を主に使っており、見た目は明るく広さも十分にありのびのびと過ごせるような場所」が理想的である。子どもたちや保育者が安心して登園できる環境であることはもちろん、「テーマパークに行くような心躍る気持ちも味わえる」というものである。それは私の、園に関わるすべての方々が気持ちのいい保育をしながら、園と共に成長し続けてほしいという考えが裏付けとなっている。

実際の制作材料には紙を主に使用することで、暖かい印象を与え、全体的に明るくて広さも十分にありのびのびと過ごせるような場所を作ることが出来た。また、子どもたちや保育者が安心して登園できるような環境設定の工夫、テーマパークに行くような心躍る気持ちも味わえるような遊び心も組み込み、現段階での理想に近い園模型を製作することが出来た。

理想の園の模型を制作したことで、実際には、誰かひとりが思い描く園環境ではなく、それぞれの園生活に合わせた園環境が必要であると感じた。園に関わるすべての方々がコミュニケーションを取り合い、良い関係を築いていくことで、園と共に成長し続けられると考える。

本研究を通して、園環境について考えを深め、私自身の現段階での保育観を明確にすることが出来た。初めて保育者として働く際に、しっかりと保育観を持って働くことができる為、これからの自分にとってとても役に立つ研究になったと思う。また、作品や研究結果を見てくださった皆様にも、保育環境について改めて考える機会になっていることを願う。

引用・参考文献一覧

厚生労働省（2018）、「保育所保育指針解説」フレーベル館
文部科学省（2018）、「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、フレーベル館

氏 名	粉明奈	学籍番号	P019023	ゼミNo.	8
テーマ	Belle and the Beast: Is it Love or is it Stockholm Syndrome?				
The purpose of this study is to better understand about inner beauty and to learn about Stockholm syndrome. I first introduce the story <i>Beauty and the Beast</i> and then discuss the two Disney versions, the 1991 anime version and the 2017 live-action film. I then look at the prince's attitude to inner beauty and outer beauty and compare it to Belle's attitude. Finally, I explain what Stockholm Syndrome is and why it is important to the story. The Beast, Prince Adam, was handsome, but he refused to help an ugly old woman. However, the woman was neither ugly nor old. She was an enchantress who puts a spell on the prince until he can find someone who loves him despite his looks. Because of his now ugly appearance, he avoids contact with people. When we first meet Belle, we see that she in an unusual person. She can see the good in everyone, but she does not want to marry Gaston. Although he is handsome on the outside, he is arrogant and greedy on the inside. Gaston tries to achieve his goal of marrying Belle, but he does not think about other people. When Belle and the Beast first meet, she is his prisoner and cannot escape. However, after spending time with her, the Beast becomes kind and compassionate. Belle is able to bring out the beauty in the Beast. According to Plato, Beauty is a form that always exists inside (along with Justice and Truth) It is not experienced in relation to a particular thing in the outside world. Instead, it is unique and self-contained. Beauty transcends everything that rises and dies and does not change in essence. I think <i>Beauty and the Beast</i> has a message about not judging people by their appearance. What people say and do are more important than how they look on the outside. Additionally, we should also be wary of trying to change a man. While prisoner, Belle notices the good things about the Beast and begins to sympathize with him. This is a classic case of Stockholm Syndrome, a psychological disorder, the essence of which is that the victim first feels a sense of fear and hatred, and after a while begins to sympathize with their captor. Children might think that Belle is in a wonderful place. However, realistically speaking, no one who is confined is in a good situation. Children watching this movie are sure to mistakenly think that an abusive man has good intentions, just as the Beast. The danger of this story is that it gives little girls the idea that they can change a man who behaves badly.					

氏 名	二宮彩香	学籍番号	P019035	ゼミ No.	8
テーマ	The Transformation of the Disney Princess From Heroine to Hero				
Disney princesses have been loved in many countries over the years. However, the early princesses are passive in their actions, and they are focused on the home. Ariel is the first Disney princess to want to go out into the world, and others soon follow in her footsteps. The purpose of this study is to understand the transformation of Disney heroines from their focus on the home to the outside world and how this change contributes to their transformation from heroine to hero. I first define a heroine and hero and explain how they are different. I also examine the similarities and differences between Disney princesses and explain how their focus has changed from the home to the outside world. According to the <i>Merriam Webster Dictionary</i>, a hero is “the principal character in a literary or dramatic work — used specifically of a principal male character especially when contrasted with a heroine.” However, the heroine would always be in some trouble, and the hero would come and save her. We see this passive behavior in <i>Snow White</i>, <i>Sleeping Beauty</i>, and <i>Cinderella</i>. It is not until modern times that the female character in fairy tales is on equal footing with the male and is able to save herself and/or her family, as in <i>Mulan</i>, and <i>Moana</i>. These characters are active heroes, not passive heroines. <i>The Herder Symbol Dictionary</i> explains, “According to psychoanalytic dream and fairy tale interpretation, the hero is often the embodiment of victorious ego powers” (p. 88). The first three princesses, Snow White, Sleeping Beauty, and Cinderella, do not have power to overcome dangers. They must wait for their Prince. Their only actions are singing and/or cleaning—or sleeping. Ariel is the first Disney princess to want to see the world. As new princesses are introduced, they show more interest in the outside world, and they show courage. Additionally, they do not just sit around waiting for a prince. Belle stands up to the Beast, Jasmine fights Jafar, and Mulan takes her father’s place and goes to war, but by the end of the films, they are all engaged—and focused on their prince, and once again on the home. Furthermore, in both <i>Beauty and the Beast</i> and in <i>Tangled</i>, the prince dies, but he is saved by Belle’s or Rapunzel’s tears. These actions make these women true heroes. Mulan and Moana need some help from others, but the male characters are not the hero. According to Bernardo Sim of <i>Screenrant</i>, “Disney princesses don’t just sing to animals, sometimes, they are the biggest heroes in the movie.”					

氏 名	祖母井夏未	学籍番号	P019007	ゼミ No.	9
テーマ	漫画の歴史とこれからの漫画				

1. 研究の動機

私は元々漫画が好きでよく読んでおり、その漫画がどのようにして日本の文化の一つと言われるほどのものになったのか、これからの漫画がどのようにして発展していくのかなどを調べたいと思い研究することにした。また、時代ごとの漫画の特色や流行などを研究していきこれから漫画がどのように進化をし、発展していくのかなども今までの漫画のことを文献などで分析し考察していく。

2. 研究方法

文献とインターネットで漫画の歴史について調べ、時代ごとの特色を分析・考察をした。

3. 結論

漫画が日本の文化の一つとなっていく過程を知ることができた。漫画は『鳥獣戯画』から始まり、海外の風刺画などを取り入れつつ発展していった。第二次世界大戦後では、長谷川町子の『サザエさん』や手塚治虫の『鉄腕アトム』が連載開始されるなど、現在も誰しもが知っているであろう作品たちが登場していく。さらに、週刊誌の登場により漫画がより身近に感じる存在となった。それと同時に、テレビアニメの定型でもある「毎週 1 回・1 話 30 分・連続放送」という画期的なシステムを手塚治虫の設立した『虫プロダクション』が始めたことにより、漫画がアニメーションへなる形が生まれた。この時代が漫画の土台を作ったことにより次の世代へと漫画の文化が繋がった。次の世代になると『ベルサイユのばら』などが宝塚歌劇団で舞台化されそれまでの漫画の域を超えていった。また、子供だけでなく大人も楽しめる作品も増えていき、幅広い世代に愛されるものになった。そして、日本の漫画は世界で人気を得るものにもなっていく。『AKIRA』はアニメが全米で公開されたことをきっかけに世界的に人気のある作品になった。また、『ドラゴンボール』や『キャプテン翼』なども世界で愛されている作品の一つである。さらに、ゲームの登場により漫画の可能性はさらに、広がっていった。2000 年代に入るとインターネットの普及により電子書籍が登場したことにより今までにない漫画のスタイルが生まれた。今の若者たちはスマホでいつでも漫画を読めることで手軽に漫画を楽しめるようになった。そして、電子書籍はコミック市場相場において紙書籍を上回ったが紙書籍が消えることはないだろう。今後、漫画は紙書籍と電子書籍ともにそれぞれの利点を生かした独自の発展を遂げ日本の一文化を超える世界の文化になっていくに違いない。

4. 参考文献

澤村修二著『日本のマンガ全史「鳥獣戯画」から「鬼滅の刃」まで』

氏 名	大城戸 琴子	学籍番号	P019009	ゼミ No.	9
テーマ	情緒的ネグレクトから生み出されるアダルトチルドレンに関する研究				

1.研究の動機

本学で児童福祉分野について学んでいた際、ネグレクトやアダルトチルドレンに関する講義が最も印象深く、さらに知識を深めたいと考えるようになった。それらに関する情報を収集する中で「情緒的ネグレクト」というネグレクトを知り、情緒的ネグレクトとアダルトチルドレンとの結びつきについて興味を湧いたため、この研究テーマを設定した。

2.研究方法

第1章は、厚生労働省が発表している「令和3年度 児童相談所での児童虐待相談対応件数（速報値）」に基づいて、我が国の児童虐待の現状について確認した。第2章は、情緒的ネグレクトの特徴やそれが及ぼす心理的影響、さらにそこから生み出されるアダルトチルドレンのタイプや症状等について述べた。第3章は、アダルトチルドレンの治療や今後の家族との在り方、回復過程の特徴等について見ていき、アダルトチルドレンから抜け出すための考察を行った。終章は、総合的考察と今後の課題として、情緒的ネグレクトが子どもに及ぼす影響力の大きさやアダルトチルドレンを生み出さないための防止策について考えている。

3.結論

本研究は、ネグレクトの中でも加害者・被害者共に自覚がなく、最も気が付きにくいと言われている「情緒的ネグレクト」から生み出される「アダルトチルドレン」に焦点を当てたものである。互いに無自覚であることの恐怖や情緒的ネグレクトが子どもに及ぼす悪影響等を痛感すると同時に、その子どもたちが大人へと成長し、生み出されたアダルトチルドレンについても想像を絶する生きづらさがあることを確認した。改めて世の中には我々が想像している以上にネグレクトからくる生きづらさを抱えたアダルトチルドレンが多数存在していることに、本研究を通して気付かされた。

また、アダルトチルドレンという一括りの概念で人物を捉えるのではなく、その人が歩んできた過程や生活環境を加味し、個々別々な人物として捉えることの重要性についても考えた。幼い頃に情緒面で傷を負い、自尊感情が欠落している彼・彼女らには、自分自身の存在意義へ目を向けさせるきっかけを与えることが大切である。そのためには、情緒的ネグレクトへの認知を広げ、未然に防ぐための体制を構築する必要がある。

氏 名	岡田 優希	学籍番号	P019010	ゼミNo.	9
テーマ	ことわざの変遷と現代の日本社会 ー現代の日本社会で生まれることわざー				

1. ことわざの定義と慣用句の相違

ことわざに関する研究やことわざの使い方を記した辞典も多くあるが、ことわざについて記された様々なテキストそれぞれで多様な定義づけがなされている。故事成語や格言、慣用句など句を表す言葉と混同してまとめられていることから、先行研究や辞典を用いて句を表す意味の言葉を分析し、ことわざの定義を試みた。先行研究では、作者・出典の明確なものを含んだことわざを広義のことわざとしていたため、本稿では「広義のことわざ定義において作者や出典の明確性を問わず、何時か、どこかで、誰かに創られ、特定社会集団（特定社会・文化）における大部分の構成員に、句の意味・内容が了解されることにより、共有され、伝承されてきた短めの成句である。その意味・内容は主に教訓的と言われるが、必ずしも教訓ばかりではない。」と定義した。ことわざと慣用句の相違は、ことわざは主に教訓的意味を含んだ短い成句である点が異なり、ことわざと慣用句ともに言葉どおりの意味とは別の事象を寓していることがある点が同一であるといえる。

2. ことわざの誤用と環境の変遷

ことわざの誤用として、「汚名挽回」は、「汚名返上」と「名誉挽回」の混交による句であり、「汚名挽回」は「汚名をとりかえすこと」を意味するため、意味の成立を鑑みてもこれは誤用とすることができるだろう。一方で、「出る杭は打たれる」に対して「出る釘は打たれる」を誤用としているが、杭も釘も打たれるものであり、意味は「優れて頭角をあらわす者は、とにかく憎まれる」ことを指しているため、杭と釘の置き換わっていても句自体に影響があるとは考えられず、一様に誤用とはいえないだろう。

3. 日本の現代社会で生じることわざ

現代社会において、インターネット、SNS での交流は大きな特徴といえる。口承文学として口伝えされてきたことわざは、現代日本では必ずしも口伝えを前提としたものではなくなっている。インターネット社会であることによって用いられなくなった、経験則から成ることわざや、インターネット社会であることで新たに生まれたことわざがあると考えた。

❖ 結論

ことわざは、現代の日本社会において、本来の口承文学としてのことわざの域を脱し、インターネット上で文字を用いてことわざが使われている。今回引用したことわざの選出には恣意性が高いことを留意した上で、本稿は一考察として踏まえたい。さらに新たに生まれるであろうことわざの可能性を今から考え、記録していくことは今後のことわざ研究の材料となるだろう。

氏 名	近藤 愛理	学籍番号	P019019	ゼミNo.	9
テーマ	宝塚歌劇団における男役とファン				
本稿では、宝塚歌劇団の男役とそのファンに着目し、宝塚ファンが男役に魅力を感じる背景について考察した。宝塚歌劇団は女性だけで構成されており、女性が男性を演じる「男役」が人気となっている。男役はどう成り立ち、どう存在しているのか。また、なぜ男役を好きになるファンが多いのだろうか。 第1章では、宝塚歌劇団の概要をまとめた。宝塚歌劇団は1914年に誕生し、当時人気を博していた少年聖歌隊に着想を得る形で少女のみが集められた。現在もタカラジェンヌは女性のみであり、ミュージカルやショーなどのパフォーマンスでファンを魅了し続けている。 第2章では、男役の成り立ちと構造について述べた。初期の宝塚歌劇団に男役・娘役のカテゴリーは存在しなかったが、時代の流れとともに男役と娘役の体制が確立されることとなった。東（2015）によると、タカラジェンヌには四層の構造を見出すことができる。舞台裏では、タカラジェンヌの年齢や恋愛事情などの個人的な情報は「すみれコード」によって非公開となっており、素顔が使い分けられている。舞台上では、男役や娘役を名乗ったうえで作品の中の登場人物を演じるという二重の演技が行われていると言える。男役の場合、私生活で男性に恋をしていても女性に恋をする役どころを演じる際に支障が出ないという点や、女性の役を演じることが「女装」だと見なされるという点が特徴的である。 第3章では宝塚ファンが男役のどこに魅力を感じているのかを調べ、第4章では調べた結果を踏まえて考察を行った。宝塚ファンは、主に男役の華やかさや女性であることに魅力を感じていることがわかった。また、宝塚歌劇団が夢の世界であることを重視するファンも多かった。タカラジェンヌの個人的な情報が非公開となっており、現実の世界とは異なる夢の世界が楽しめる仕組みになっていると考えられる。宝塚ファンは、実際の男性と男役に大きく異なる要素を求める傾向があり、女性が男性を演じるという点も夢の世界に繋がっているのではないかと考えられる。そのほか、私設ファンクラブにおけるタカラジェンヌとファンの距離の近さも魅力のひとつと捉えることができる。ただし、ファン同士の序列も存在するため、他のファンに対する競争心によって応援が高まるという側面も考えられる。 宝塚歌劇団のファンは女性が多いが、今後は男性ファンに特化した調査も進むことを望む。また、女性のみで構成されているという点や、すみれコードの存在が変化していく可能性もあるだろう。宝塚歌劇団が夢の世界であり続けるのかどうか、引き続き注目していきたい。					

氏 名	高木 優花	学籍番号	P019024	ゼミ No.	9
テーマ	広告がもたらす購買意欲				

・研究の動機

私たちは日頃から生活している中で、毎日のように広告を目にしている。テレビや新聞、Web サイト、看板広告など近年では多種多様になっており、広告では一定の消費者やユーザー層に対して興味や購買意欲を引き出している。その購買意欲は心理学的な研究と同時にマーケティング理論に紐付いているものだと考えたことから、私は心理学的な側面も踏まえつつ、購買意欲の行く末について考察し、これからの対策を考えた。

・研究方法

本論文では基本的に質的研究を行い、企業や先行研究などを参考に、日本の現状や世界的な動向を精査し、購買意欲の変化を研究した。

・結論

本論では、1-1 で日本の現状を述べ、更に 1-2 では具体的な事例を用いながら、プロダクト・ライフサイクルとの関係性を突き詰めた。そして、1-3 では世界的な動向も示しつつ、アパレル産業の購買意欲について研究した。1-4 ではこれからの世界の中心になるであろうメタバースとの関係性を調べた。

これらから分かったことは、業界ごとには違いながらも現在、そして過去にも注目を集めてきた商品、企業は時代に則った広告を展開し、購買意欲を増進してきている。アンカリング効果は特に効果的であり、実際に具体例に出した pop In Aladdin でわかる通り、「人気 No.1」や、「選ばれ続けて 20 年！」といった分かりやすい訴求で「良いサービス・商品」というものを印象付けている。また、アパレル業界でも価値ある高級ブランドの商品を購入することで、購買者の側も周囲から「すごい」と思われたいという自己顕示欲を満たすための消費行動をとる。社会的に広く価値が認められているものに限定されていればいるほど購買意欲は掻き立てられるのだ。私が提案したメタバース上では体験型オンライン店舗が流行となり、来場者はアバターを操作して気になる商品の動画を見たり、店舗スタッフと会話したりしながら、リアル店舗と同様に商品を購入することができる。操作は非常に簡単で、ゲームのような遊び感覚で気軽にショッピングを楽しめる新しいサービスである。これからの生活では消費者がニーズに合わせた選択が可能な世の中になりつつある。

・参考文献

アルビン・トフラー 「第三の波」 BUSINESS INSIDER 「「メタ」に改名したフェイスブック。今後 10 年収益を生まなくてもメタバースに年 1 兆円投資する本当の理由」
<https://www.businessinsider.jp/post-245039> STASEON 「ヴェブレン効果とは「有閑階級の理論」を分かりやすく解説！」 https://staseon.com/library/article_470/ EC のミカタ「メタバースが生み出すリアルで新しいショッピング体験」 https://ecnomikata.com/original_news/34337/

氏 名	藤井 美優	学籍番号	P019038	ゼミ No.	9
テーマ	早生まれの影響と対策				

1. 問題意識

早生まれは損をするということを耳にしたことがある。自分は早生まれに該当するため、実際に早生まれの子どもと遅生まれの子どもにはどのような違いがあるのか先行研究を基に調べ、その対策についても考察した。令和3年に厚生労働省が行った人口動態調査によると、早生まれの子どもは192,977人で、全体の約22.8%。そして彼らは満6歳になった4月には自分たちより何か月も先に生まれていた子どもたちと同じように学習し、スポーツ活動をしなければならない。そこに学力や体格・体力の差があることは明瞭であり、成績に差が生じる。生まれ月によって生じる差を埋めるべく、どのような取り組みを行うべきか考えた。

2. 課題

早生まれについて調べていく中で、認知能力と非認知能力について触れられている文献が多かった。そのため早生まれと遅生まれの幼少期の認知能力・非認知能力の差についての文献調査をもとに2つの観点から両者の比較を行った。そこから早生まれの子どもにどういった対応が求められるのか考察した。

3. 考察・結論

本論文では早生まれの子どもに着目し、認知能力と非認知能力の特徴についてそれぞれ明らかにした。その上で遅生まれの子どもとの間に生じる差を埋めるための学習方法や子育てについて考えた。

学習面に関して、早生まれと遅生まれの子どもの間に生じる差は小学校中学年までが最大で、それ以降の差は小さくなっていることが分かった。しかし最終学歴を見てみると、早生まれと遅生まれの大卒歴に差は残っている。その差が生まれる理由の1つに学習意欲の違いがある。成績が思うように伸びないことや、他者との比較・評価によって、子ども自身の自己肯定感が低下してしまうことからこの差が生まれる。意欲の低下はその後の学びにも影響を与え、最終学歴にも響くとされている。運動面に関して、身長や体重といった身体的特徴の差に加え、体力測定の結果でも早生まれと遅生まれの子どもの間には差が生じている。そして最も憂慮されているのが、早生まれの子どもは遅生まれの子どもより非認知能力が低いとされていることだ。非認知能力には、自尊心・自己肯定感・自立心・自制心・協調性・共感性・社交性などが含まれ、これらは社会生活を送るために重要とされ、人生の成功や豊かさに影響を与えることが明らかになっているからだ。

現在日本では、早生まれの子どもに対応した学びの場や指導ができる環境が整っていないのが現状である。今後、自己肯定感の向上を目的とした指導方法や子どもの個性を見落とさない教育が求められるのではないだろうか。

氏 名	藤原青空	学籍番号	P019040	ゼミNo.	9
テーマ	若者の投票率を上げるためには				
【背景】 現代社会では、若者の投票率の低さが問題になっており、日本の大きな課題の一つとされている。総務省によれば国政選挙の全体の投票率は、令和3年10月に行われた第49回衆議院議員総選挙では、55.93%、令和4年7月に行われた第26回参議院議員通常選挙では52.05%となっている。若者のみならず、全体の投票率は、減少傾向にある。その中でも特に、若者の投票率の低さについて懸念されている。これはなぜなのか。 【研究方法】 本研究の目的は、政治家が高齢者ばかりに目を向ける政治家をたくさん当選させる現代から、若い世代のための施策を作る政治家を増やしていくために少しでも投票率が上がる方法を考える。 次の4つの視点から考察した。日本の現状、世界の現状、日本の投票制度、若者の投票しない理由をさまざまな先行研究、インターネットを手がかりに考察した。 【考察】 選挙権がありかつ、投票に自由に行ける日本のこの環境に我々若者は、感謝すべきだが、自由さ故に投票率の低下の原因となっている。そこで私が提案したいのが、政治教育の見直しである。その成果が出ているスウェーデンを参考に、日本も学校教育、家庭教育ともに力を入れるべきである。さらに、投票方法も変えていく余地はあるだろう。若い世代の為に学校やショッピングモールなどに投票所を設けてみるのも効果があるかもしれない。さらに、インターネット投票や投票に行った人へのポイント付与などを可能とするデジタル化も進めて行くべきであろう。					

氏 名	丸山 友理乃	学籍番号	P019044	ゼミNo.	9
テーマ	多様化する「アンチ」について ～太宰治『如是我聞』及び事例から読み解くアンチ行為～				
1. 研究の目的					
私たちは SNS という情報伝達／交流ツールの発達により意見交換の機会に恵まれている一方で、その際、好悪の情による意見の対立や好意を持っている対象が否定される場面にもたびたび遭遇する。そしてこのような状況においては相手の意見が鮮烈であればあるほど、精神的負荷を多く感じるものである。私はこれに対して、相手の思考を分析する視点を獲得していれば、この精神的負荷を軽減することが可能なのではないかと考えた。そこで私は嫌いなものを好きと主張する相手と出会うことよりも好きなものを嫌いと主張する相手と出会う方がより強い苦痛を感じるという仮定のもと、アンチという存在について、二つの視点から分析／考察を行った。					
2. アンチの発生に関する考察					
私は本節において、太宰治によって執筆された『如是我聞』を一つ目のアンチの情動分析の資料として扱った。第一回から第四回までを比較することで、太宰治の志賀直哉への対立感情の高まる過程が浮き彫りになる。この感情の発露を私はアンチ行為であると捉えた。					
3. SNS(Twitter)上でアンチ行為を行う目的について					
二つ目のアンチの存在として、SNS での事例を取り上げた。SNS は発信も削除も容易に行えるため、万が一大きな騒動に発展しても「アカウントと投稿の削除」によって、これを終結させることが可能である。今回用いた事例ではアンチが嫌っている対象だけではなくその周辺にも大きな影響を及ぼすものであったため、この際のアンチ行為による被害は嫌われている対象以外にも広まった。SNS は不特定多数へ拡散するツールとして優秀なものであるため、かえって有害情報も拡散してしまう。					
4. アンチ行為の原動力について					
アンチが自分の意見を他者の目に入れることで自己顕示欲を満たす他、数多の可能性を想定することができる。ゆえに明確な分析と考察を行うためには「アンチである」と判断される複数名に協力を仰ぐ必要があるが、簡単に複数のアカウントを持つことが可能な Twitter という媒体においては現実的な方法とは言い難いといえる。					
5. 結論及び補足分析					
そもそもアンチという存在に言及され始めたのは「アンチ」というスラングが広く知れ渡ったためである。新たな区分／総称が示されたため爆発的に増加したように感ぜられるのだろう。一方その影響で「特定の対象に否定的なコメントをする者は全てアンチである」という認識も同時に広まり、批判や批評、否定や避難の境目が曖昧になっている。しかしだからといって安易に定義を言語化してしまえば穴を抜けて行為を正当化する者が現れる危険性を孕むため、慎重に対策を講じる必要があるだろう。					

氏 名	万野由莉嘉	学籍番号	P019504	ゼミ No.	9
テーマ	スポーツ時における水分補給に関する研究				
(研究目的) 私は短期大学の食物栄養科で「しのめベジガール」として活動していた際に、栄養の大切さを学び、その知識を活かして講演会などに参加し、クイズ形式などで簡単に栄養のことを知ってもらう活動をしてきた。栄養の大切さを知っていく中で、スポーツをしている私は水分量も人の体に影響するのではないかと考え、熱中症に興味を持った。その後四大に編入し、「しのめベジガール」の連携企業であった大塚製薬株式会社が「熱中症アドバイザー」という資格を授与していることを知り、取得した。近年コロナ禍においてコロナの初期症状である発熱、倦怠感などは熱中症の症状と似ていることより、熱中症を防ぐことで医療従事者の負担軽減にもつながると考えている。熱中症の原因として主に水分の摂取不足によるものとされていることから水分補給について研究することにした。 (結果と考察) 本論文では、熱中症の後遺症、スポーツ時の熱中症について研究を進めた。 熱中症は一過性のものではなく、近年後遺症が残るケースも報告されている。そしてひどい場合は死に至ることもある大変怖い病気だ。それなのに、多くの人は一過性のものだから大丈夫だと思っている。だから、これからは熱中症の後遺症の怖さについてもっと広く知らしめるべきだ。 屋外で行うスポーツ時の熱中症については日光を直接浴びながら行うので、気温が高くなっている日には特に注意が必要だ。また、熱中症は気温の高さにより発生すると考えがちだが、スポーツなど体(筋肉)が熱を発することも、熱中症の危険性を高めることを忘れてはいけない。体が暑さに慣れていない時期(夏の初めや梅雨など)に急に暑くなった日や、温度が高く風の弱い蒸し暑い日にスポーツをすると気温があまり高くななくても熱中症にかかる危険性があるので注意が必要だ。スポーツ活動で熱中症が発生しやすい大きな理由は何よりも運動をすることにより多大な熱産生が行われるためである。 今後熱中症についての知識をもっと広め、熱中症患者を減少させ、医療従事者の負担軽減に繋がっていきたいと考えている。					

氏 名	今田有香	学籍番号	P019004	ゼミ No.	10
テーマ	着物から見る身分の可視化について				
昔の着物は、現代の衣服と比べて形状や機能性などで異なるところが多々あるが、現代との大きな違いは、身分差がその身なりで分かるようになっていたことだ。なぜ、身なりで身分の上下が可視化されていたのだろうか。上流階級と庶民とで着物の生地や装飾にどのような違いがあったのだろうか。身分制度が衣服にどのような影響を与えたのだろうか。 本研究では日本の着物を題材とし、身分差の可視化について考察を行う。また、着物から洋服へと変化や現代の着物業界の現状なども調査をし、これから着物がどのようにして現代の人々に求められるかについても検討をする。 まず第 1 章では、絹・麻・木綿それぞれの着物生地の特徴を調べ、上流階級と庶民の着物生地の違いについて述べた。上流階級の着物生地としては主に絹が使用され、庶民の着物生地としては主に麻と木綿が使用されていたことがわかった。 第 2 章では、士農工商の身分制度について調べ、平和や秩序が保たれるようにそれぞれの身分の者が帰属意識を持って生活していたことを明らかにした。また、社会階層と衣服の関係について調査した結果、琉球王朝や奈良時代の衣服令から、支配する側の一方的な衣服の強制が見られた。 第 3 章では、庶民と上流階級の着物の違いや、美しい着物の着用を禁止された美服禁止令について調べた。ここで、庶民と上流階級との大きな違いは労働であることを明らかにした。庶民と上流階級が選ぶ着物の特徴の違いは、肉体労働の有無に関係のあることがわかった。 最後に第 4 章では、時代ごとの衣服の変容について調べた。現代では、着物が晴れ着や着物体験などで着られていることがわかり、非日常的なものとして新たな需要があることが明らかになった。 以上のとおり、身なりで身分が可視化されていた背景に、「身分制度」と「上流階級と庶民の生活の差」という 2 つの要因があることがわかった。庶民は、身分制度により衣服を自由に選ぶことができなかっただけでなく、肉体労働の必要性和経済的な面から衣服の選択肢が限られていた。そのため、身なりで身分の上下が可視化されていたと考えられる。 身分制度が廃止された現代は、身なりで身分を可視化する必要がなくなった。また、機能性が重視されるようになり、かつてのように着物が普段着として着られることはなくなった。さらに近年では、多様性が認められるようになり、人々がますます自由に衣服を選べるようになった。だからこそ、特別な日に着る現代の着物は、人々にとって思い出と共に忘れがたい衣服となるのではないだろうか。					

氏 名	越智 麻琴	学籍番号	P019012	ゼミ No.	10
テーマ	日本の食文化を未来へ繋げていくために —和食の観点から—				
日本の伝統的な食文化である和食は、2013 年 12 月にユネスコ無形文化遺産に登録された。和食が世界的に認められ和食ブームが広がる一方で、日本では日本人の和食離れが起きている。 本研究では、和食と食文化について調査し、その魅力と重要性について考察する。また、日本人の和食離れの問題について分析し、和食と食文化を次世代へと継承するための課題や解決策について考える。さらに、和食と食文化の魅力を子どもたちや海外の人々に発信する方法や活動についても検討する。 まず第 1 章では、和食とは何かについて和食の歴史や特徴などを元に研究を行った。和食の歴史は、縄文時代の終わりごろから始まるなど歴史が長いものであった。そして、和食は調理法には様々な調理法があり、味や見た目でも楽しむことが出来るものであった。また、その特徴は旬や年中行事などに通じており、私たちの生活と深く関係しているものであった。 第 2 章では、日本でもよく食べられている洋食について研究し、和食と洋食を健康面で比較した。そして、和食離れなど現在の状況を踏まえながら、和食を守るために和食の良さや魅力について研究し、考察した。 第 3 章では、和食を継承し保護していくために、国や企業がどのような取り組みを行っているのかを研究した。またそれだけでなく、海外へも和食を広げていくために私たちが出来る取り組みなどを考察した。 和食は、日本の食文化として重要なものである。和食について知ることによって、日本の食材や旬、地域性や行事など日本の特色を知ることが出来るからである。現在のように、和食離れが進んでいくと、和食だけでなく日本の特色も薄れていってしまうのではないかと考える。だからこそ、和食について多くの人に知ってもらい、未来へ繋いでいく必要があるのだ。だからこそ、和食だけを食べる、洋食だけを食べるのではなく、和食も洋食もバランスよく食べていく必要があると考える。そうすることによって、食を楽しむことが出来、日本についても知ることが出来るのではないか。このように、和食は、日本にとって重要なものであるため、これから先も継承していく必要があると結論づけた。					

氏 名	北野 水葵	学籍番号	P019016	ゼミ No.	10
テーマ	サンリオキャラクターのターゲット層の拡大と経営戦略				

序章

日本では、2009 年までハローキティの人气が高く、年齢問わず幅広く支持されていた。しかし、近年、シナモロールやポムポムプリン、マイメロディなどのキャラクターが人気ランキングで上位になっている。人気キャラクターの変遷には、キャラクターの販売会社であるサンリオの戦略やターゲット層の拡大が関係しているのではないかと考える。本研究を通して、サンリオキャラクターを時代背景とあわせて分析し、その人気の要因について明らかにする。

第 1 章 サンリオキャラクターとは

サンリオキャラクターとは、株式会社サンリオが著作権許諾を持っているもので、現在キャラクターの総数は 200 を超えている。近年のサンリオキャラクターはキャラ設定がはっきりしており、ファンの持つ「可愛い・癒し」という感情を生み出しやすく、それによって「推したい」という感情を生んでいるところが特徴だと考える。

第 2 章 サンリオキャラクターの比較

サンリオキャラクター大賞の結果を見てみると、2010 年以降、第 1 位が頻繁に変わるようになった。従来のキャラクターと比較すると、現在人気のキャラクターは固定のファンが確立していることが過去と異なる点だ。また、キャラクター自身が SNS をしており、キャラ設定をもとに自身の強みをいかして、SNS で発信している。その結果、様々な人の目に留まって新規ファンを獲得し、人気を上昇させている。

第 3 章 サンリオキャラクターの拡散

現在、新たなファン獲得のためにサンリオが力を入れているのが SNS だ。投稿内容を見て、ファンからは「癒し、支えになる」という声が上がっており、拡散力の強い SNS に力を入れることで新規ファン獲得に繋がっている。また、グッズ販売では従来から人気のあるものに加えて、エンジョイアイドルシリーズという、人気シリーズをプッシュして販売している。そして、テーマパークでも新たなターゲット層である F1 層を視野に入れた、可愛いキャラクターフードの充実を図っている。このように、拡散力の強い SNS、人気のグッズシリーズの強化、テーマパークのコンテンツの充実をすることによって、ターゲット層の拡大に力を注いでいる。

終章

ファンの人から需要のある、サンリオキャラクターがもたらす「癒し」や日々の「支え」を様々な形でサンリオから供給することで、ファンの人の需要とサンリオの供給のバランスを保っているところが、サンリオキャラクターの人気の要因だと考える。

サンリオキャラクターには、今や世界中にファンがいる。「みんななかよく」の輪を日本だけでなく世界へ広げ、今後の日本のキャラクター文化を牽引していこう。

氏 名	藤田 涼歌	学籍番号	P019039	ゼミ No.	10
テーマ	魅力的な福祉のまちづくり ～子どもの居場所を中心に～				

近年の急速な情報化社会の発展や都市化を受けて、子どもの取り巻く環境が大きく変化した。テレビゲームが普及し家庭内での遊びが増えただけでなく、駄菓子屋や商店街が衰退し、子ども達のコミュニティーの場が減少している。これらの変化が子どもの居場所にも影響を与えていると考えられる。子どもを取り巻くいじめや不登校などの社会問題は、子どもの「居場所」がないことが原因であると指摘される。本研究では、魅力的な福祉のまちづくりを目指すうえで、子どもの居場所の種類や変化について分析し、子どもの「居場所」について総合的に検討するとともに、「子ども達にとっての居場所とは何か」について考察した。

第1章では、「居場所」という語の持つ意味を考え、子どもにとって「居場所」とは何かについて検討した。居場所は子ども達が生きるうえで必要不可欠であることが分かり、具体的な例として児童館、学童保育、遊び場、子ども食堂の4つを挙げ、数、運営方法などの推移と現状を調べた。近年では多くの子ども達が公園などの地域の遊び場だけでなく、児童館や子ども食堂といった施設を利用していることが分かった。

第2章では「居場所」の現状について考えた。居場所に関心が寄せられるようになった理由の一つとして子ども自身が抱えている社会問題が多く関わっていると考え、子どもの社会問題の具体例として不登校、いじめ、ネグレクト、子どもの貧困に焦点を当て、現状についてまとめた。また、時代の変化と共に居場所も多様化していると考え、昔と今の居場所の変化、また変化によって生じた課題について考察した。

第3章では、国内と海外の放課後の取り組みについて比較した。国内での取り組みとして放課後児童クラブと放課後子供教室について調べ、全国的に増えつつあることが分かった。海外では、ショッピングセンターなどの既存施設の活用や、社会問題を解決するプログラムなど、国の特色を活かしたユニークな取り組みが見られた。

子どもにとっての「居場所」とは、「自分の気持ちを素直に表現できる場所」「ありのままでいられる場所」と考える。子ども達は様々な集団に属しており、様々な人とのつながりがある。しかし、取り巻く環境の変化や社会問題から「自分の居場所」を見出すことが難しくなり、孤独感やSOSの発しにくさの要因になっている。そのため、地域社会全体で、居場所づくりの取り組みを進めていかなければならないと考える。今後は、筆者自身も子ども食堂や子どもの居場所づくりに関わる活動に参加し、子どもも大人も幸せになれる魅力的な福祉のまちづくりに取り組んでいきたい。

氏 名	若宮華響	学籍番号	P019056	ゼミ No.	10
テーマ	ディズニーの人気とプリンセスについて				

現在、ディズニーリゾートは世界に 6 ヶ所存在している。日本だけでなく、様々な国で何故こんなにも多くの人に愛されているのか。ディズニーの愛され続ける魅力について、ディズニーを作ったウォルト・ディズニーを通してしらべる。また、ディズニープリンセスについて女性から好まれる理由、プリンセスの移り変わりについても明らかにする。

第 1 章では、ディズニーについて述べている。ウォルト・ディズニーは人々に愛され続けて何度も足を運んでもらうためには、常に新しい夢とアイディアでパークを改良し続ける必要があると気づいた。その為、ディズニーリゾートは何十年たった今でも多くの人に足を運んでもらうために、斬新なアイディアで成長しづけているのである。世界各地に存在するディズニーリゾートは、その国の特徴を活かして、大人から子供までが楽しめる夢の世界を提供している。

第 2 章では、東京ディズニーリゾートについて述べている。東京ディズニーリゾートでは、キャスト一人一人が自身で考えて行動する事によって、予想しないようなハプニングが起きた場合であっても、迅速に素敵な対応を行うことができる。4 つの行動基準が決められており、その基準をもとに考え行動している。その結果、東日本大震災では、世界中で反響を呼んだキャストの行動に繋がったのである。

第 3 章では、ディズニープリンセスについて述べている。ディズニープリンセスは全部で 15 人存在している。それぞれのプリンセスには物語が存在しており、国や年代が違っていてもその時代の女の子があこがれる物語となっている。初めの方のプリンセスは王子様と一緒にになり幸せになる物語であった。現代では、プリンセスの自立や姉妹の愛を描いている物語が多くなっている。時代によって物語の内容が変化しており、その時代の女の子が憧れる物語となっている。

ディズニーは常に進化し続けることによってゲストを飽きさせることなく、徹底した世界観作りを行い、多くの人を魅了し続けているのである。

氏 名	有馬 夕南子	学籍番号	P019001	ゼミ No.	11
テーマ	デジタルゲームが大学生に与える心理社会的影響について				

【背景】

本研究では、ゲームが利用者に与える心理社会的影響について、研究対象としては十分に議論されていない大学生を対象に、ゲームの活用の可能性について検討する。先行研究では、2019 年に WHO が「ゲーム障害」を新たな国際疾病分類として認定した。これをきっかけに、日本でも「ゲーム障害」や「ゲーム依存」に関して注目が集まった。ゲームの良い影響としては、藤原 (2018) が、ゲームが親子や子ども同士のコミュニケーションツールとして有効であることを示唆している。井口 (2015) も、大学生のゲームの有効性に関して、「ロールプレイング」や「アクション」のゲームジャンルと学習因子に正の相関があることを明らかにしている。しかし、大学生にとって効果的なゲームの利用方法、条件についてはまだ検討されていない。

【目的】

本研究の目的は、ゲームの効果について、ジャンルやプラットフォームごとに整理し、18 歳以下の子どもと大学生とで、ゲームが与える影響に違いがあるのかを整理する。また、ゲームが大学生にメリット、デメリットをもたらす利用時の要因を探索し、ゲームの効果的な利用方法、条件、環境などについて提案する。

【方法】

本研究では、文研研究とグループフォーカスインタビューを行い、大学生のゲーム利用による心理社会的影響について明らかにする。愛媛県内の大学生から協力者を無作為抽出し、調査依頼を書面にて行う。協力できる場合は、半構造化面接による調査を実施する。今回は 3 名の大学生に、オンライン上にて約 80 分のグループフォーカスインタビューを行った。

【結論】

本研究の結果、大学生のゲームの有効性について先行研究で得られた知見と同じものとしては、モチベーションの維持としてゲームを利用する。新たな知見としては、ゲームによって交友関係の広がりが期待できる。コロナ禍の人との接触、運動不足が気になる人は「リングフィット アドベンチャー」のような体を動かすゲームを利用するなどが示された。また、ゲームの負の影響としては、先行研究で得られた知見はみられなかったものの、ゲームによる寝不足が著しいと答えた調査対象者も確認された。本調査の結果を踏まえて、大学生にとって適切な利用条件として以下の 2 点を提案する。1 点目に、自分のゲーム利用状況を把握し、利用時間に上限を定める。2 点目に、ゲーム時間が長くないように、他の予定を入れてコントロールする。自分自身をふりかえり、ゲーム利用状況をコントロールすることによって、負の影響を最小にとどめ、ゲームの良い効果を得ることができる。しかし、これらの結果は一部の大学生に限定されたものであり、世代や国の違い、性差についても検討することを今後の課題とする。

氏 名	井上 光	学籍番号	P019003	ゼミ No.	11
テーマ	ソーシャルワークにおける地域での見守りの在り方について				

背景

本研究では、他領域(警察、看護、介護、子ども)での専門職が行う見守りについて、それぞれ内容を整理した後、ソーシャルワーク領域の専門職が行う見守りについて内容整理し課題点を提示する。前述内容を踏まえ、ソーシャルワーク領域における地域での見守りの在り方について検討する。1999 年～2022 年の見守りに関する先行研究では、見守りの行為者は専門職によるものと、非専門職（地域住民）があり、役割分担していることが明らかにされている。堀口（2019）は、高齢者と複合的な福祉課題を抱える者たちの増加から、ソーシャルワーク領域における見守りは重層的な支援が必要であると指摘している。しかし、これまで、ソーシャルワーク領域における専門職が、見守りの開始及び終結する時期や、見守りと監視の違いについて明確に定義されていない。

目的

本研究の目的は、ソーシャルワーク領域だけではなく、他領域と比較し整理することで、地域全般における見守り支援の在り方を明らかにする。また、ソーシャルワーク領域における地域での見守りの在り方について、具体的に課題点を明らかにすることで、今後の見守り支援の質の向上につなげる。

方法

本研究では、文献検討法を用いて行い、1999 年 12 月～2022 年 3 月に発表された国内文献を対象にした。キーワード「見守り and 地域」「見守り and ソーシャルワーク」「見守り and 看護／介護／警察／こども」のいずれかに該当する原著論文を検索し、21 文献を対象とした。

結論

先行研究では、見守りの行為者は、専門職と非専門職の両方が担っており、両者の見守りは危険性の有無によって役割が異なることが分かった。また、支援内容によって見守り対象者は、監視や不審な行為と捉える可能性があり、見守る行為者がジレンマを抱える課題点が見られた。

新しい知見として、地域での見守りは完全に終結しないことが分かった。専門職から非専門職が行う見守りに変化することで、持続的な支援を実施することが分かった。

本研究では、領域を警察/看護/介護/こども/ソーシャルワークに分類した。今後は、より広い領域を対象とした見守りの研究を行っていきたい。また、インタビュー調査を用いて専門職と非専門職が行う見守りの支援の違いについて、両者の研究結果を比較し、相違点、共通点を整理して、研究を進めていきたいと考える。

氏 名	河本 優奈	学籍番号	P 019015	ゼミ№	11
テーマ	自閉症スペクトラム症の当事者のコミュニケーションについての考え方 —無発語状態にあった当事者のインタビューを通して—				

【背景】

自閉症スペクトラム症により無発語状態（言語的コミュニケーションをとっていない）のクライアントの状態像および他者とのコミュニケーションの現状について、支援者側から見たクライアントの発語との関係からみた困りごと・不便さに関して以下の 3 点が示されている。①大人と子どもの困りごとには違いがある。②周囲のとらえ方・関わりの考え方の違いにより困りごとが発生する・しない時がある。③同じ言動でも子どものうちは注目されないが、成長してくると注目されるなど、外見的成長に合わせて、周りの視線が変化する。それに対して共感性が高い対象者ほど二次障がいが起こる可能性が推察された。しかし、いずれも、クライアント本人側の意見による分析ではなく、支援者や家族の解釈や推察によるものであるととれる。

【目的】

本研究を通して、先行研究で示されてきたクライアントの意志や思いをくみ取るコミュニケーション方法が必要であるとする支援者側の考え方とこれまで十分に検証されてきていないクライアント本人の考え方を比較する。その上で、改めてクライアントと他者が関わる際の言語的コミュニケーションの意味や支援方法の在り方について検討していきたい。

【方法】

自閉スペクトラム症のコミュニケーションに関する文献研究と自閉症スペクトラム症による無発語を児童期に経験した自閉症スペクトラム症と診断を受けた当事者にインタビューを行った。

【結論】

本研究では、自閉スペクトラム症による言語的コミュニケーションがとりづらいクライアントを対象に以下の 4 点について明らかにすることをめざした。

1 点目は、先行研究をもとに、自閉症スペクトラム症により無発語状態（言語的コミュニケーションをとっていない）のクライアントの困難性は、他者とのコミュニケーションをとることに支障がある、特に言語によるコミュニケーションが困難であると把握した。

2 点目は、支援者がいかに言葉にならないクライアントの伝えたい物事や状況の把握や支援の幅やクライアント自身の選択肢の幅を広げることを目的として、ノンバーバルコミュニケーション手段やツールの開発が進めているか現状を把握した。しかし、先行研究において、コミュニケーションに関する困難の現状と解決策の検証に際して、当事者の直接の意見を基にした論証は、十分とは言えない状況にあることもわかった。

3 点目は、無発語状態を児童期に経験した自閉症スペクトラム症と診断を受けた当事者へのインタビューを通して、①クライアント本人が他者とコミュニケーションを図る中で、どのような世界が見えているのか、②クライアント本人が他者である支援者や家族とのコミュニケーションについて、どのように考え、感じているのか、を明らかにしていく。その上で、クライアント本人からのインタビュー結果と先行研究の知見との共通点や相違点について考察した。その結果、支援者と当事者のコミュニケーションの必要性に関するギャップと言語・非言語のコミュニケーション手段に対するとらえ方のギャップについて 5 つの示唆を得た。

4 点目は、1 から 3 の考察結果をふまえ、自閉症スペクトラム症により言語コミュニケーションがしづらいクライアント本人が望んでいるであろう他者とのノンバーバルコミュニケーションやクライアントへの他者の寄り添いの今後の在り方について、当事者と支援者の世界観のギャップの認識、その上での想像と探索の必要性、当事者が他者を有機物としてとらえて初めてコミュニケーションの対象になりうること、言語コミュニケーションに固執しない姿勢、能力の限界の個別性への理解という知見を得た。

氏 名	竹田朱里	学籍番号	P019027	ゼミ No.	11
テーマ	医療ソーシャルワーカーの思考過程に関する分析と考察 ～医療機関での実践経験の差がもたらす思考に焦点をあてて～				

【背景】

本研究では、ソーシャルワーク実践の根拠を明示するとともに、ソーシャルワークの専門性を言語化する研究を行う。さらに、新人ソーシャルワーカーの思考過程に焦点を当てて研究を行う。日本において、日和（2016）は、「ソーシャルワーカーの認知は広まりつつあるが、世間一般に、ソーシャルワークは曖昧でわかりにくい」と指摘している。また、山辺（2007）によると、日本のソーシャルワーカーは、「ソーシャルワーカーは専門職である」と認識している。しかし、自分自身が「専門職としての専門性を保持している」との意識はあまり高くはないと、指摘している。このようなソーシャルワーカーの実践についての思考過程の先行研究は、質的にも量的にも十分とは言いがたい。また、これまでの研究では、ソーシャルワーカーの思考過程は、ベテランの思考過程に注目したものが多かった。そのため、キャリアによる思考過程の差についての考察についても不十分である。

【目的】

本研究の目的は、医療ソーシャルワーカーの実践における思考過程の中でも、新人ソーシャルワーカーに注目し、ソーシャルワーカーの思考過程（＝問題解決、方略、推理、理解、表象《心像、観念、概念など》）知識、何らかの思想を立ち上げる心の過程や操作）を言語化し、影響を与える要素について検討し、その専門性を明らかにすることを目的とする。

【方法】、

本研究では、ベテランソーシャルワーカーと新人ソーシャルワーカーの思考過程の比較を文献検討で行う。また、MSW として1年間従事した20代の女性1名に、これまでに経験した困ったケースや悩んだケースのなかで特に印象に残っているエピソードについてインタビュー調査を行う。

【結論】

本研究の結果、ベテランソーシャルワーカーは、実践において、過去、現在、未来を連続するものとして捉えていることがわかった。一方、新人ソーシャルワーカーは、入職当初は経験と知識を活用できる「レパートリーの乏しさ」や「見通しのなさ」が見られ、十分な実践効果を生まないことや、失敗や不全感をもつ葛藤が生じていることが明らかになった。また、インタビュー調査から、新人ソーシャルワーカーの思考過程に、ソーシャルワークの価値のうち「人間の尊厳」「多職種連携コンピテンシー」が影響している可能性が示唆された。今後も、ソーシャルワーク実践の根拠を明示するとともに、ソーシャルワークの専門性を言語化する研究を行っていきたい。

氏 名	玉井愛美	学籍番号	P019028	ゼミ No.	11
テーマ	テレビ・アニメ番組にあらわれた小学生のイメージと子ども観について				

【背景】

本研究では、テレビアニメの内容は時代ごとの社会の思想が反映されて描かれており、また、子ども向けアニメ番組に登場するキャラクターは、大人の思想を反映した子どもとしての理想像や、模範となる子ども像を描いているのではないかという仮説について検討する。先行研究では藤田(1996)がテレビ・アニメ番組に現れる女性像は「かわいい」外見的特徴を持つ女の子が力で男性を打ち負かす場面がみられたことや、わずかではあるが職業を持つ女性の増加がみられたことなど時代によって変化していることが明らかとなった。しかし、テレビアニメの番組が時代によって変化していることは明らかとなっているが、子どもを対象としたテレビアニメの番組にも変化があらわれているかどうかの研究はまだ行われていない。

【目的】

本研究の目的は、テレビアニメの番組にあらわれた小学生のイメージを分析することにより、社会における小学生の役割や理想像、そしてその変化について考察する。テレビアニメ番組で描かれる小学生のイメージを分析するにあたって、小学生の生物学的発達上の特徴や子どもの権利条約などと比較しながら検証していく。

【方法】

本研究では、1991 年 4 月～2019 年 3 月に発表された国内文献を対象に Cinii を用いて、アニメの子どもへの影響に関する記述がある原著論文 12 件を文献検討法を用いた。また、小学生を主役に描いたアニメ作品の中で 1990 年代から 2010 年代まで視聴率上位 3 位以内に入っていた「ちびまる子ちゃん」を分析対象した。

【結論】

本研究の結果、分析対象とした作品では、テレビやアニメ番組が描く小学生の役割や理想像と社会的背景との関係性について、社会経済活動や制度等の社会情勢との観点から考察することができた。また作品の中で小学生は、エリクソンの発達段階で小学生の発達特徴とされる、友だちから学び、友だちに教える経験を通して勤勉さを育む、他者と比較して優劣を確認できる様子が描かれている。しかし、1990 年代の作品公開当初に描かれていた父親の喫煙シーンや母親の暴言、子どもたちの中での暴力シーンが 1994 年に日本が子どもの権利条約に批准し、2000 年の児童虐待防止法の成立前後で変化していることが確認された。特に、喫煙や暴力シーンの出現率はいずれも放送開始の 1990 年には見られたが、2000 年以降から徐々に減っていき、2010 年以降ではほとんど見られなくなっていた。今後は、社会の子どもを描き出すアニメ番組が地上波のテレビからネット配信に変化しているため、多様な媒体のアニメ番組が子どもたちに与える可能性があるため、その変化についても研究していきたい。

氏 名	徳本 治美	学籍番号	P019029	ゼミ No.	11
テーマ	ソーシャルワークにおける「寄り添い」に関する研究				

【背景】

本研究では、ソーシャルワークにおける「寄り添い」の概念を整理し、他分野と比較を行いソーシャルワークの寄り添いの特徴について検討する。先行研究では、前田ら（2013）は、1990 年代前半から医療・福祉・教育場面を中心に「寄り添い」の使用頻度の急激な上昇が認められると指摘した。他にも前田ら（2014）は、「寄り添いは 2000 年以降になると医療福祉分野で使用され、2000 年前後、2011 年に急激に増加している」と「寄り添い」という言葉が新聞記事で使用された頻度を調査した研究から指摘した。寄り添いの対象について、1990 年代と 2000 年以降では、家族の中の関係性で使われる寄り添いの概念であったものが、対人援助職と福祉だけではなく、クライアントとの関係性を表す概念として寄り添いが使われていることを明らかにした。看護学分野の研究では、石川・堀川・河口（2019）が Rodgers の概念分析を用いて「寄り添い」を体系的に整理している。しかし、ソーシャルワークにおける寄り添いを整理する研究は行われていない。

【目的】

本研究の目的はソーシャルワーク分野において用いられる「寄り添い」の概念を先行研究から整理し、その特徴を明らかにする。ソーシャルワーク以外の分野において用いられる「寄り添い」概念に関する研究の結果と、ソーシャルワーク分野を比較することでソーシャルワーク分野における寄り添いの特徴を明らかにする。

【方法】

本研究では、2002 年 3 月～2022 年 3 月に発表された国内文献を対象に、サイニーを用い 2022 年 5 月に検索を行った。キーワードの絞り込み条件を「寄り添い 社会福祉」「寄り添い ソーシャルワーク」と設定し、論文形式であるものを対象とした。分析対象は、32 件である。

【結論】

本研究の結果、時代の流れに沿って寄り添いの使用頻度が増えたことが認められた。寄り添いは家族や夫婦間で行っていたものが、2000 年以降は専門職が担っていることが明らかになった。また、寄り添いとはソーシャルワークと他分野の共通点は基本的なものとしてクライアントとの信頼関係構築、クライアントの気持ちを受容する、共感する、理解することであると確認できた。ケアワークは、身体的接触を行っているが、ソーシャルワーカーは特に精神的支援・プロフェッショナル意識・安心コミュニケーション・受容・共感する姿勢を発揮する結果を得られた。今後は、ソーシャルワークにおける寄り添いを用いてクライアントとどう関わっているのか実際にソーシャルワーカーにインタビューをして研究を行っていきたい。

氏 名	西山 紗弥	学籍番号	P019034	ゼミ No.	11
テーマ	女性像の変遷～女性アイドル歌手の歌詞分析を通して～				

【背景】

本研究では、女性アイドル歌手の歌詞の中に描かれる女性像について歌詞分析を用いて検討する。歌詞に関する先行研究では、流行歌のジャンルにおける歌詞のもつ影響力について、様々な観点で歌詞のもつ効果や影響力について研究が行われているということが明らかになった。女性像に関する先行研究では、女性像はテレビや小説、映画など様々な媒体を通して、表現されている女性像について分析が進んでいるということがわかった。

【目的】

本研究の目的は女性アイドル歌手の歌詞の中に描かれる女性像について考察する。アイドル歌手の歌詞と女性像のそれぞれに関する研究はある。しかし、両方を合わせた研究はまだ行われていない。そこで本研究では、その2つを合わせて研究を行いアイドル歌手の歌詞と歌詞に描かれる女性像の関連を明らかにしていく。

【方法】

本研究では、歌詞分析に対する文献検討では検出文献のうち歌詞に関する原著文献歌詞分析では平成時代のアイドル歌手の歌詞を対象に、歌詞として表現されたフレーズの特徴から歌詞を通して発信されている女性像の特徴を考察する。

【結論】

本研究の結果、女性像に関する先行研究ではステレオタイプの女性像から2020 年以降の研究ではジェンダーフリーな女性像へと変化している傾向がうかがえた。歌詞を伝える媒介者がアイドルであることの意義については、特にその時代の若者の表象であるなどの影響力があることを仮説にする研究も確認できた。女性の価値観や生き方からの考察では、子どもから手が離れてからの期間が次第に伸びたことから、自分の生き方や社会における自分の役割を考える余裕へと繋がった。また、国内外で女性の社会参加や男女平等に関する制度ができたため、女性が自分の考えによって自分自身の人生や生き方が選択できる時代になってきたといえる。モーニング娘。と ZOC を対象にした歌詞分析からは、各楽曲の発売された時代の社会背景を確認すると、その楽曲が発売される 1 年前から 5 年前に社会や女性の生き方に関する制度が施行されていることが確認できた。多様性が認められる社会になったことで、一概に歌詞に描かれる女性の姿を「女性像」と位置づけることが難しくなった。それぞれが個の女性像を持つことができる社会のなかでこれからどのような女性像が出てくるのか、女性がどのように生きていくのか、今後も注視していきたい。

氏 名	山口 遥	学籍番号	P019052	ゼミ No.	11
テーマ	フリースクールを活用することの心理的影響に着目して ～不登校経験者の自己肯定感に関する研究～				

【背景】

本研究では、フリースクールを活用することによる心理的影響に着目し、不登校経験者の自己肯定感に関する影響について検討する。先行研究では、文部科学省が2021年に行った「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、2021年の不登校の割合は、小学生約 81,498 人、中学生約 163,442 人となっている。不登校経験者には、学校と家庭以外の第三の場所として、フリースクールを選択している人がいる。現在の研究においては、フリースクールの居場所としての有効性について書かれた先行研究はいくつもあるが、フリースクールを利用することによる個人の心理的影響について着目した研究は見当たらない。

【目的】

本研究の目的は、不登校経験者がフリースクールを活用することによる心理的影響のうち、自己肯定感に注目して、フリースクールのもつ促進要因と阻害要因を明らかにする。また、フリースクールの居場所としての心理的機能のうち、自己肯定感との関連性についてその効果と課題について検討する。

【方法】

本研究では、まずフリースクールの活用について文献研究を行う。その後、現在フリースクール A に通う、不登校経験がある高校生 2 人と社会人 2 人を対象にインタビュー調査を行う。実際に当事者にインタビューを行うことで、フリースクールを利用することによる個人の心理的変化を明らかにする。

【結論】

本研究の結果、不登校を経験することにより学校へ行けないということが自己肯定感を下げてしまうことが先行研究で明らかにされていた。しかし、学校へ行けないということが自己肯定感を下げる事となっても、フリースクールに通う事で、「フリースクールの人間関係の中では、素が出せるという安心感」、「家族以外の人との関わりが増える」、「フリースクールでの学習体験により、コミュニケーションスキルを獲得している」という点が、当事者のフリースクール利用によるものとの肯定的な認識につながっていることが確認できる。しかし、現在のフリースクールの環境では、このように安心感を得る事ができても、社会とスクールとの差が大きく出やすいとされている。そのため、フリースクールに通う事で一度は自己肯定感が向上しても、社会に出たり、進学をしたりした際に、その社会との差の大きさにしんどい思いをする人もいることが明らかになった。そのため、残された課題として、フリースクール卒業後の生活において、フリースクールとの環境のギャップを感じることもあるため、必要に応じて、青年期のアフターケアを整備していくことなどが課題として挙げられる。

氏 名	和田 直子	学籍番号	p 019057	ゼミ No.	11
テーマ	義務教育課程の児童生徒に対する学校外教育の必要性について				

【背景】

日本の学校外教育の現状は、人気が高く、公立に通う小学生の約7割が教育費として学校外教育に支出している。また、学習塾や習い事をする子どもの低年齢化が進んでいる。学校外教育には学習系や習い事系など多様な種類があるが、いずれの学校外教育も児童生徒は、学校内の授業とは異なる多くの刺激、情報や経験を得ていると推測する。極端に言えば、この刺激、情報や経験を得る・得ないの差は、教育機会の不平等にもつながる可能性があるのではないかと考えるようになった。しかし、これまでの学校外教育の研究は、必要とされながらも、日本の子どもと教育と社会との交互作用の視点からは十分に明らかにされていない。

【目的】

本研究では、教育社会学的な視点から、子ども、社会、教育に学校外教育がどのような影響を与えるのか、また、その影響は子ども、社会、教育にとってどのような有効性があるのかを明らかにすることと目的とする。

【方法】

本研究では、インターネットソース及び、先行研究等による文献調査にて行う。

【結論】

本研究の結果、学校外教育の活用状況は、学校教育の補完として、学習活動系と習い事系は、その活用の割合の高さから学校外教育はすでに標準化しつつある現状を確認した。また、学校外教育を必要と理由は、学校教育の+ではなく、子どもたちの6割は学習塾・家庭教師・通信添削を学校教育についていくために利用しており、標準化しつつある傾向がみられる。一方で、この結果は、授業についていけない子どもが、学校外教育を受けない場合の格差を生み出す可能性も示唆することになる。保護者の経済状況・学歴・学校外教育の経験と関係性を明らかにし、学校外教育を受けるか否かは、家庭環境に左右されるもの大きいことがわかった。学校外教育を受けることで、多くの子どもが学習意欲を向上させ、友人との交流関係の時間を得ており、進路に対して前向きな考えが出現していることが確認できた。一方で、学校外教育の活用状況による負の影響も確認された。

一連の考察をとおして、今後、教育格差の改善策としての学校外教育の提供の仕組みや取り組みについて、地域の学習支援活動や教育バウチャーなど地域住民がインフォーマルな形で行う地域教育や学習塾等の民間企業の営利活動との協働に注目した対応策を明示した。今後は、進学や就職との関係性を明らかにすることにより、教育の機会の差が生み出す義務教育の時期の児童生徒への心理的影響やキャリア形成への影響についてさらに研究を行っていきたい。

氏 名	坂本 舞	学籍番号	P019502	ゼミNo.	11
テーマ	ひとり親家庭で育つ子どもに見られる対人関係の影響 ー母子家庭で育つ青年の心理社会的発達に注目してー				
【背景】					
厚生労働省は、ひとり親家庭の親が仕事と子育てを両立しながら経済的に自立することを支援するとともに、ひとり親家庭の子どもが心身ともに健やかに成長できるような環境を整備しようとしている。しかし、既存の施策は経済的支援や心理社会的支援も子育てや養育費の相談など親を対象としたものの比重が高い。野口、櫻井（2009）は、親の離婚が子どもに過酷な体験にもなることを指摘した上で、子どもに何らかの支持的環境や内面を強化する心理社会的支援の必要性を述べ、心理社会的支援により離婚のストレスを自ら跳ね返せる弾力性と回復力が活性化することを提案している。既に、ひとり親家庭の子どもの心理社会的な影響を論究したものや民間団体では当事者同士でグリーフケアやグループワークなどを実施しているが、ひとり親家庭で育った子どもや青年への心理社会的な影響と支援内容や支援方法を考察した研究は十分とはいえない。					
【目的】					
本研究の目的は、ひとり親家庭の中でも母子家庭で育った青年に対する心理社会的支援のニーズと支援課題に焦点を当て、支援の仕組みづくりに必要な要素を検証する。その結果を踏まえ、母子家庭で育った青年に必要とされる今後の心理社会的支援の在り方について提案する。					
【方法】					
本研究では、文献研究を実施する。1990年9月～2019年7月に発表された国内文献（以下、文献）を対象に、CiNiiを用いて2022年5月に検索した。ひとり親家庭は、母子家庭・シングルマザーの類似に用いる用語があるため、キーワードの絞り込み条件を「ひとり親家庭／母子家庭／シングルマザーand 影響」として検索を行った結果22件が抽出された。そのうち、原著論文14件を分析対象とした。					
【結論】					
本研究の結果、離別を経験した母子家庭で育つ子どもや青年に、自尊感情の低下、母子家庭の子どもに男性の関わりの不足による非行行動の問題など心理社会的な影響が出現することが確認された。また、親の離婚の経験者同士が心理的支援を行うことの有効性も示唆され、離別を経験した子どもに同一経験者が行うグリーフケアの実践例も確認できた。特に青年に対しては、あなたは存在していても良いというアイデンティティの獲得を助長するメッセージや傾聴・受容などの支援法が重要である。しかし、公的機関では実施されていない。背景要因に、公的機関の離婚に対するイメージが影響していることも示唆された。今後は、母子家庭で育つ青年への心理社会的支援を公的制度化することが重要であると提案した。					

氏 名	清家平梨	学籍番号	P019503	ゼミ No.	11
テーマ	少年期の自殺予防教育としてのゲートキーパー教育の現状と課題				

【背景】

日本の自殺者数は、1998 年から全体の上昇傾向にあったが、2021 年までの間に減少傾向を辿っている。しかし、10 歳～19 歳の自殺率は減少傾向に無い。少年期の自殺予防対策について、これまでに自殺を思いとどまるための教育と少年同士で支え合う教育について、藤田ら（2020）により 2009 年に足立区プログラムと立命館大学プログラム、2018 年に北海道教育大学プログラム、2020 年に阪中順子氏のプログラム、和歌山プログラムの 5 つが紹介されている。これらの少年向けの自殺予防教育プログラムの効果について、小野（2015）が自殺を考えた時のストレス攻略法と自殺の相談を受けた際の話の聞き方に関する自殺予防教育を行い、プログラム内容の理解に関する評価を得ている。また浦田（2018）が自分自身の心の状態に気づき、心配をしてくれる人のことを思い出して相談するなどの自殺予防教育の有用性を示している。しかし、これらの少年期のプログラムは、成人期の自殺予防教育として自治体において実施率 9 割を超えるゲートキーパー研修ほど標準化（どの地域でも実施される）には至っていない。

【目的】

本研究の目的は、少年期・成人期それぞれの自殺の現状と自殺の要因、支援の成果と課題を検討し、少年同士の支え合いの仕組みとしての少年期のゲートキーパー研修の標準化の可能性を検討する。

【方法】

本研究では、2010 年 4 月～5 月に発見された国内文献（以下、文献）を対象に Cinii を用い、絞り込み条件を「自殺 and 予防/対策/支援」で検索を行った。「中高生 and 自殺予防」の文献研究が 106 件あり、うち原著論文 13 件を文献対象とした。

【結論】

本研究の結果、少年同士の自殺予防対策の取組みとしての少年期ゲートキーパー教育の有用性と標準化の可能性を確認した。日本の少年期における自殺者数が減少傾向に無いことから少年期の自殺予防教育や自殺予防の公私の対策が行われている。しかし、専門職や家族以外の人への相談に抵抗感を感じる子どもの多さ、学校の友人同士で相談する機会がありながら、適切な対応を身に付けることができていない現状があるということが確認された。また、既存の自殺予防教育の中に、ゲートキーパーのような周囲に働きかけるプログラムも展開している。本研究において、少年同士のゲートキーパー教育が有用であるかどうかについての検証は行えていないが、成人期のゲートキーパー教育の普及率の高さと展開力の実績は確認できた。今後は、少年期ゲートキーパー教育における役割と効果についてさらに研究を行っていきたい。

氏 名	小田陽	学籍番号	P019011	ゼミ No.	12
テーマ	犬の存在が人物の印象に与える影響について				

【目的】犬が人物に与える印象について、これまでにいくつかの研究が報告されている。例えば中島ら(2013)は、犬の存在が人物に対してポジティブな印象を与える事を示唆している。一方で中島ら(2013)では、人は楽しい気分の時には他者を良く評価しがちであり、快感情と他者が結びつくことで、結果に影響を及ぼす可能性があるため、犬の存在によって高まった人物評価がその場限りの一時的なものである可能性に言及しており、犬なしの条件を加えた基礎的研究の成果は今後の課題である。そこで本研究では、これらの統制を行った上で、犬の存在が人物に与える影響について検討することを目的とする。

【方法】松山東雲女子大学、短期大学の学生 12 名が調査に参加した参加者の平均年齢は 20.92 歳、SD=2.31 だった。

実験刺激は正面を向いて立ったモデルの全身写真をパソコンの画面に提示して用いた。写真はモデルの横に犬が座っている犬あり条件と、モデルのみの犬無し条件、モデル無しの犬のみ条件の 3 条件を設定し、写真の人物に対する印象を調べるため、林(1989)の作成した因子を元にした 23 項目の形容詞対について 5 件法で評定を求めた。

【結果】3(犬のみ、人のみ、犬と人)×3(個人的親しみやすさ、社会的望ましさ、活動性)の分散分析の結果、写真の種類と因子のどちらも主効果が有意だった($F(2, 22)=6.687, p<0.05$; $F(2, 22)=9.891, p<0.05$). 写真の種類と因子の交互作用が有意であった($F(2, 22)=5.18, p<0.05$). 単純主効果検定を行ったところ、写真の種類において、社会的親しみやすさと、活動性が有意であり($F(2, 2)=16.04, P<0.05$; $F(2, 2)=7.44, P<0.05$), 因子において犬のみ条件と犬あり条件が有意($F(2, 2)=4.11, P<0.05$; $F(2, 2)=12.76, P<0.05$)であることがわかった。Ryan 法による多重比較の結果、社会的望ましさにおいて犬あり条件だけが高く($P<0.05$)犬無し条件、犬のみ条件間において差は見られなかった($P=0.98$). 活動性においても犬あり条件だけが高く($P<0.05$)犬無し条件、犬のみ条件間で差は見られなかった($P=1.31$). 犬のみ条件において社会的望ましさが高く、個人的親しみやすさと活動性には差が見られなかった($P=0.20$). 犬あり条件においても社会的望ましさが高く、個人的親しみやすさと活動性には差が見られなかった($P=0.53$).

【考察】本研究の結果、犬の存在によって、人物の活動性ならびに社会的望ましさの印象増加する結果となった。社会的望ましさの増大は中島ら(2013)の結果を支持するものであり、本結果は一時的な気分効果ではないということが指摘できよう。今回は犬の写真は座った状態であり、人物は直立静止の状態であった。犬のみ、人のみ条件で活動性が低かったのはこの刺激の影響を受けたかもしれない。静止状態であっても犬と人物が同時に提示されることによって、散歩をする(またはしている)状況を想像した結果、犬あり条件において活動性が増加した可能性が考えられよう。

氏 名	川原 夕衣香	学籍番号	P019014	ゼミ No.	12
テーマ	大学生における友人との付き合い方の分類とソーシャルスキルの特徴				
【目的】本研究では，大学生の友人との付き合い方の特徴によるソーシャルスキルの差異について分析・考察することを目的とする。 【方法】調査対象者は，松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の在学学生 87 名（平均年齢：20.25 歳，SD =1.09）であった。ウェブアンケートで調査を実施し、友人関係尺度として、落合・佐藤（1996）の「友達とのつきあい方に関する 35 項目」と、ソーシャルスキル尺度として相川・藤田（2005）の「成人用ソーシャルスキル自己評定尺度」を使用した。 【結果】因子分析の結果，友人関係尺度は 3 因子、ソーシャルスキル尺度は 4 因子が見いだされた。友人関係尺度のクラスター分析の結果，4 クラスターに分類された。また，友人関係尺度により分けられた 4 クラスターとソーシャルスキル下位 4 因子（「関係開始」，「主張性」，「感情統制」，「解説」）の 2 要因（4×4）混合計画の分散分析を行った結果，有意な交互作用が認められた（F（9, 249）= 2. 532, p <. 01）。Ryan 法による多重比較の結果，「関係開始」の平均得点において，「クラスター1」と「クラスター4」（p <. 005），「クラスター2」と「クラスター4」（p <. 005）の間に有意差が見られた。また，「主張性」の平均得点において，「クラスター1」と「クラスター3」（p <. 01），「クラスター2」と「クラスター3」（p <. 01）の間に有意差が見られた。 【考察】本研究の結果，「クラスター1」，「クラスター2」に比べ，「クラスター3」，「クラスター4」のソーシャルスキルが高いことが分かった。分散分析の結果，特に「関係開始」と「主張性」の下位スキルが高いことがわかった。「クラスター3」と「クラスター4」は「防衛的」の得点が低く，友人との付き合いを回避しない傾向が示唆される。「クラスター3」は，「被愛願望」，「防衛的」，「全方向的」の 3 因子の得点が低いクラスターであり，「クラスター4」は，「防衛的」の得点が非常に低く，「被愛願望」と「全方向的」の得点が高いクラスターであった。本研究の「クラスター4」は永井（2018）の「スキル成熟親密関係群」や橋本（2000）の「積極群」，岡田（2011）の「内面関係群」などに近い特徴を有している。積極群はソーシャルスキルが高く（橋本，2000）、本研究でも同様の結果となった。このような特徴を持つクラスターは，いずれの研究においても適応的であると示されており，本研究の「クラスター4」においても先行研究のような適応的な特徴を有していることが考えられる。					

氏 名	上田瑞樹	学籍番号	P019006	ゼミ No.	13
テーマ	チャイナドレスー中国の伝統服の歴史とそのイメージー				

中国には様々な伝統文化が存在し、伝統的な生活、服装があるが、中国の伝統的な服装と言えばチャイナドレスを想像する人が多い。近年、日本でも中国の文化が流行しており、イベントや中華街でチャイナドレスを身につける人を多く見かける。一方、「中国伝統衣装」とネットで検索すれば、チャイナドレスではない伝統的な衣装も多くヒットする。中国にはひとつの民族だけではなく様々な民族があり、衣装も多くあるはずだが、チャイナドレスが中国の伝統衣装とされるのは何故なのか。チャイナドレスが中国文化の中でどのように作られ、変容し、今に至っているのか。

本研究では、チャイナドレスを中心に、中国服の歴史的変遷について論じた。また、日本でチャイナドレスが中国伝統服としてイメージされていた理由について、歴史的背景を踏まえ考察した。

第一章では、中国服の歴史について述べた。第一節では、清朝までの中国服の変化について述べた。中国服は、上着と裳、上下の繋がったものが基本的な形であり、これらがそれぞれの王朝ごとに変化している。主に袖口はゆったりとした形で、時代によっては、胴の部分が体に沿うなどの変化がみられた。第二節では、清朝時代に満州族の着用していた旗^{チーパオ}袍が中華民国期にどのように変化したかを述べた。旗袍のデザインは次第に体のラインを出すようになり海派旗袍へと呼ばれるようになった。その後、海派旗袍は香港にわたり、西洋の立体裁断が取り入れられ、さらに体の凹凸を強調するデザインになった。

第二章では、日本におけるチャイナドレスのイメージについて論じた。日本でイメージされるチャイナドレスの形は、旗袍に西洋的裁断が取り入れられたものである。日本ではパーティードレスやコスプレ衣装など「萌え」のイメージがもたれている。香港映画やアニメ、ゲームの影響で日本国内にチャイナドレスが広まり、歴史的な意味が無視された服としてイメージされるようになった。また、体の凹凸を強調するデザインそのものが「萌え」のイメージを形成している。

第三章の第一節では、中国国内で起きている国服論争について論じた。中国国内では旗袍、漢服、唐装のどれが国服にふさわしいかの論争が起きている。漢服や唐装が注目されるようになった背景について述べた。第二節では国服、伝統服として求められる要素について論じた。国服論争では中国の歴史をどのようにとらえるのかが問題になっている。中国の国服問題は決着していない。それぞれの主張を尊重しながら歴史をより深く考えていくことが、今後の国服論争に重要なことであるといえる。

氏 名	西岡侑香	学籍番号	P019033	ゼミNo.	13
テーマ	安楽死について～日本における現状と課題～				

現在の日本において安楽死は合法化されてはいない。安楽死は本当に安楽なのか、患者を殺す義務を課してしまうことになるのではないか、死を選ぶ権利もあるため 1 つの選択肢でもあるのではないか、などと多くの議論がある。本論文では、安楽死の現状と課題について論じた。

第 1 章では、安楽死の定義と種類について述べ、日本の現状と世界で初めて安楽死を合法化したオランダの現状について比較した。現代では、安楽死は助かる見込みのない病人を、本人の希望に従い、苦痛の少ない方法で人為的に死なせることを意味する。日本では法制度として、安楽死について定めた法律は存在せず、安楽死に携わった医師は、殺人罪または自殺関与及び同意殺人罪に問われることがわかった。また、海外では 2000 年代後半以降、安楽死に関する法律が制定される事案が続いているが、日本をはじめ、大半の国や地域では、いずれの形の安楽死も違法、または違法となる可能性があるのが現状である。

第 2 章では、実際に日本で起こった 2 つの安楽死の事件について述べ、当事者とその家族の語り、医師から見た視点を紹介した。山内事件と東海大学病院安楽死事件の 2 つの事件は、判決の中で安楽死の要件が示され、注目された。海外で実際に安楽死を遂げた事例では、当事者たちは、「安楽死が唯一の光」「死ぬ権利は生まれる権利と同じ」と語っていた。しかし、家族は「生きてほしい」と願い、当事者と家族との意見が合致せず、話し合う場面が見られた。医師の視点からは、「積極的安楽死」と「単なる延命医療の中止」との境界が、法的に曖昧になってきていることも、問題の解決を一層困難なものにしているということがわかった。

第 3 章では、安楽死を巡る今後の課題について考察した。合法化することで起こりうる問題や、安楽死を肯定することの危うさについて考察した。NHK の意識調査から、尊厳死は、安楽死よりも許容度が高いということが伺えた。尊厳死を法制化した場合に、「死ぬ権利」が「死ぬ義務」へと転換する可能性があるとも指摘されている。また、安楽死を肯定する意見には、多くの問題があることがわかった。当事者の「死にたい」という思いの部分だけをとって「安楽死」に結びつけ、安楽死が是か非か議論する前に、どのようにすれば本人が尊厳をもって生きていくことを皆で支えていけるのかをまず議論すべきである。

医療技術が進歩する中で多死社会を迎えている日本において、安楽死は極めて重要な問題である。安楽死は、患者にとって希望になるかもしれないが、それと同時に、患者を積極的に「死」へと向かわせる後押しになっているように見られた。終末期医療の在り方を考える上で、安楽死の問題は、絶えず慎重に議論され続けていく必要がある。

氏 名	宮内真奈	学籍番号	P019045	ゼミNo.	13
テーマ	関節リウマチ～発症要因および支援の現状と課題～				

現代社会において、若年層から高齢層までの幅広い年代の関節リウマチ発症が注目されている。リウマチは高齢者になる病気という認識が強く、テレビ番組等でも関節リウマチに関する内容を目にすることがある。その中でも特に若年層のリウマチ発症についてその認識があまりないことが問題視されていることを知った。

本研究では、関節リウマチの発症要因および支援の現状と課題について考察した。

第1章では、関節リウマチの歴史や病気に関する基本的な内容について調べた。関節リウマチの姿が明らかとなり、寛解に向けた薬や生物学的製剤の使用が認められたのは1990年代～2000年代と、最近である。また、リウマチが身体や日常生活に及ぼす影響について調べた。患者の割合については、女性に多いこと、若年層から高齢層まで幅広い層でリウマチが発症することが分かった。関節リウマチは高齢者がかかる病気という世の中の誤解がある。それは、目に見える症状が時間が経った後に現れることが原因であることが分かった。

第2章では、リウマチ患者の懸念についてデータを用いて述べ、患者への支援について社会福祉制度や日常生活における支援の内容を紹介した。治療における高額療養費制度や療養中の手当等、患者を支援するための制度が複数存在することが分かった。診察や薬代・生物学的製剤等を合わせるとリウマチの治療費は非常に高額となるため、経済的な不安を抱える患者がこれらの制度を適切に利用できることが重要であると考えた。

また、「日本リウマチ友の会」等の関節リウマチ患者のための支援団体等を調べ、インターネットや講習会を通じた交流等、様々な形での交流が存在することが分かった。

第3章では、支援における課題について記述した。様々な理由により、治療に不応の人や中断する人を減らすためには専門職からの十分な説明や病気に対する理解を深めることが重要である。経済的な不安や治療にかかわる悩みを解消するため、医師や看護師等のメディカルスタッフがリウマチの知識を持ち、患者に寄り添った支援をすることが症状の進行を防ぐために重要であると考えた。

今回の研究では、関節リウマチについて若年層から高齢層までの幅広い層の人に知ってもらうため、また、どのような支援があり、どのような課題があるのかを知ってもらうため、多面的に調べた。関節リウマチ患者の支援に関しては、それぞれのライフステージに応じた支援体制が十分に構築されていないことが問題として取り上げられていることが分かった。今後、リウマチの専門的な知識を持つメディカルスタッフの育成が進み、支援体制の構築が進んでいくことが望まれる。

氏 名	山口真結	学籍番号	p 019053	ゼミNo.	13
テーマ	日本における女性の貧困について				

日本では、少子高齢化や貧困が問題となっている。2022 年（令和 4 年）7 月現在で、日本の総人口は、1 億 2512 万人である。相対的貧困率は、2018 年（平成 30 年）の時点で、15.7%である。

テレビのニュースやインタビュー等、メディアで取り上げられるホームレスやひきこもりは、一般的に男性の方が多い。ホームレスや生活困窮者として生活している女性がいるのにもかかわらず女性がメディアに取り上げられることは少ない。

本研究では、女性の貧困の現状とその背景、課題について調べた。

第 1 章では、日本の人口推移と世帯数の推移、就業率、就業者数等をグラフで見た。夫婦のみ世帯の増加や母子世帯の増加、非正規で働く女性の増加などが分かった。また、男女における賃金格差があることも分かった。

第 2 章では、女性と男性の貧困のケースについて比較した。男性は外でも寝泊まりできるが、女性には危険が伴うことが分かった。女性と男性の共通点として、頼ることができないこと、自分から周りの人をシャットアウトしているということが挙げられる。女性がメディアに取り上げられない理由として、みすばらしい姿を見られるのが恥ずかしいと思う気持ちがあること、外での寝泊まりをしていないことが考えられる。また、近年では新型コロナウイルス感染症の影響による時短営業や臨時休業による減給、契約解除で貧困になるケースもある。

第 3 章では、女性と貧困に関する法律や施設について述べた。法律には男女平等に関する法律や母子家庭や父子家庭のための支援を目的とした法律、生活に困っている人のための法律がある。施設では女性のための施設や子供と一緒に利用できる施設、就職して働くことができるようになるための訓練ができる施設がある。女性と貧困に関する法律や施設がたくさんあっても使い方や場所を知らない人もいる。また、利用できることや行く場所が分かっているけど使わない人もいる。恥ずかしい、周りに知られたくないといった気持ちがあるからである。

貧困で苦しんでいる人は子供だけではないことが分かった。世界では大人になれずに亡くなる子どもがいるが、日本では大人になったが貧困になる人や自殺する人もいる。貧困は誰もがなり得ることで、虐待と同じように連鎖するといわれている。貧困になったときに、どのような法律があり、どのような施設が使えるのか知っておくことが必要だと思う。また、頼ることができる人を作ること、親、祖父母、友だち、先生等、信用でき、助けてくれそうな人を一人でも作ること、自分の周りにはそういう人たちがいることを忘れないことが大切だと思う。

氏 名	門田 晴楓	学籍番号	P019501	ゼミNo.	13
テーマ	日本のキャラクター文化 ～「ポケットモンスター」を中心に～				

キャラクターは日常生活でよく目にする機会がある。アニメや漫画のキャラクターだけに限らず、ご当地を賑やかにしている「ゆるキャラ」やニュースやCMに出てくるマスコットキャラクター、お店や企業のイメージマスコットといった様々な種類のキャラクターが世の中には存在している。本論文では、日本と海外のキャラクターの違いや「ゆるキャラ」といった日本のキャラクター文化を調べるとともに、日本でも人気のある「ポケットモンスター」に着目してキャラクター文化について考察した。

第一章では、日本におけるキャラクター文化やキャラクタービジネスについて論じた。日本で好まれるキャラクターは、表情に乏しいのが一般的であり、反対にアメリカなど海外で生まれたキャラクターは、表情が豊かで喜怒哀楽がはっきりしている。日本人に好まれるキャラクターの中でも、「ゆるキャラ」が二頭身や三頭身の未成熟な体をしているため愛される理由が分かった。また、かつては「キャラクター＝子供のもの」という考えがあったが、男女3歳から65歳の人を対象としたバンダイキャラクター研究所の2004年11月の調査では、好きなキャラクターがいるという人は、調査対象者の90.2%に達し、何らかのキャラクター商品を所有している人は、79%に及んでいた。国民の約10人に9人はキャラクターが好きで、8人は何らかのキャラクターものを所有していることが分かった。

第二章では、「ポケットモンスター」から見たキャラクター文化について論じた。1996年からゲームソフトなどで販売されている「ポケットモンスター」は、ビデオゲーム、カードゲーム、テレビアニメなどメディアミックスで成り立っており、世界中から愛されている。1999年までに巨大産業へと発展し、世界市場でもっとも売られている子供向け商品となっていた。時代によって、新たなタイプや進化系、地方によって見た目が変わるリージョンフォームなどを追加して、古参ファンにも好まれるデザインや男女ともに好まれるデザインへ変化していることが分かった。また、二頭身や三頭身であるといった特徴を活用して、「ポケットモンスター」でも「ゆるキャラ」と同じような取り組みが行われている。2018年から各地方の魅力を国内外に発信するために「ポケモンローカル Acts ～ちいきのちからってすげー！～」という取り組みが開始され、都道府県と関連した「ご当地ポケモン」が登場した。そのほか、「ポケットモンスター」のご当地活動としては、観光客の増進を目的とした「ポケふた」と呼ばれるポケモンのマンホールが各地方に置かれたり、グッズの販売も行われている。世界的に人気のある「ポケットモンスター」だが、ビデオゲームやカードゲーム、テレビアニメのビジネスだけに限らず、各都道府県のご当地活動を通して人気のあることが分かった。

氏 名	坂上琴音	学籍番号	P019020	ゼミ No.	14
テーマ	親への愛着と友人関係への依存の関連について				

目的青年期は性的成熟に伴う急速なからだの成長や認知能力の発達、周囲からの大人になることへの要求によって、内なる世界の再編成を迫られる時期である（久米、2001）。それまで受け入れてきたものに疑惑を抱くようになるとともに、自立の意識が高まるため親から心理的に離れていく。これを心理的離乳という。しかし、心理的離乳を達成するためには、子供でも大人でもない不安定な状態で、依存と自立という反する要求のもとで、自身の内的表象を安定させるために、悩みや考えを話し合える親密な友人関係を求めるようになるといわれている。青年期の友人関係は、遊び仲間から内的体験の共有や忠誠、親密性を中心とした関係へと変化していく。精神的にストレスの多い青年期にあたって、友人との会話や活動を行うことにより心理的安定を保たれ、最も近い他人として友人とのつきあいを通し、家族との関係では学ぶことのできない社会的スキルを学ぶことができる。さらに自分の知らなかった生き方や考え方で世界を広げてくれるモデルに友人はなってくれる。このように青年期の友人関係は、自身の個性の在り方を自覚するとともに、自身とは異なる生き方を理解し、評価することを学んでいく。

（河合、1983）愛着スタイルは、安定型と安定型、回避型と回避型、両極型と不安型と3つの愛着パターンと対応する。人間が成熟した存在であるためには依存性は必要不可欠なものであり、適応的に成熟するためには適応的に働く依存性が必要で、問題視されるような過度の依存、あるいは依存を全くしないことは不適応的であることが考えられる。本研究では、青年期の愛着スタイルと友人への依存性の関連を検討していく。

方法と結果親への愛着尺度（丹羽、2005）5件法、改訂版友人関係尺度（丹野、2008）5件法で行った。「愛着不安」と「愛着回避」（ $r = .38$ ）、「相談・自己開示」（ $r = -.30, p < .05$ ）、「関係継続展望」（ $r = -.27, p < .05$ ）に有意差がみられた。しかし、「安心・気楽さ」「学習・自己向上」「人生の重要な意味」には有意差がみられなかった。「愛着回避」は、「相談・自己開示」（ $r = -.11$ ）「関係継続展望」（ $r = -.08$ ）「安心・気楽さ」（ $r = .05$ ）「学習・自己向上」（ $r = -.12$ ）「人生の重要な意味」（ $r = -.15$ ）の全てにおいて有意差が認められなかった。親が自分を受け入れてくれているのかという不安は、友人に自分のことを話さなくなることがあると考えられる。友人への安心感、友人からの影響について親への不安からの影響は受けないと考えられる。親に頼らないことが友人関係への影響はないと考えられる。本研究では、親への愛着尺度と友人関係尺度の関連を検討したが、依存性への関連の検討を行う必要があった。

氏 名	坂本 梨帆	学籍番号	P019021	ゼミNo.	14
テーマ	ストレス場面を取り入れた俳句実作が及ぼす心理的影響 —— ストレスコーピングと俳句の関連 ——				

【目的】

近年は「俳句ブーム」とも言われ、人々の俳句への関心が高まっている。愛好家の中には作句を「生きる希望」とする人もおり（例えば、小林（2013））、人々の生活に心理的影響をもたらしているといえ、その中にはストレスコーピングの要素も含まれる可能性が考えられる。ストレスコーピングとはストレス対処行動のことで、我々がストレスに直面したときそれを解決するため、あるいは心理的な負担感を減らすためにとる行動を言う（坪井，2010）。俳句を詠み、文字に表す際に書くという行為があるものの、ストレスコーピングとしての作句を検討した研究は存在しない。本研究では、俳句作りがストレスコーピングとして機能しうるかを検討した。

【方法】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学に在籍する学生 9 名を対象に、尾関（1993）のコーピング尺度と、坂野ら（1994）の気分調査票、俳句実作場面を取り入れた質問紙調査を対面形式にて行った。尾関（1993）によるコーピング尺度（全 14 項目）、坂野ら（1994）による気分調査票（全 40 項目）、どちらも 4 件法での評定を求めた。

【結果と考察】

一部のデータが得られなかったため、8 人分のデータを分析対象とした（平均年齢=20.63 歳、 $SD = 1.41$ ）。コーピング尺度（尾関，1993）を用いた質問では、回避・逃避型が最も高かった（10.13 ポイント）。俳句実作の前後に用いた気分調査票（坂野ら，1994）について、対応のある t 検定を行ったところ、「緊張と興奮」および「爽快感」の 2 因子では有意差が見られなかったものの、「疲労感」（ $t(7)=2.05, p<.05$ ）、「抑うつ感」（ $t(7)=2.37, p<.05$ ）、「不安感」（ $t(7)=2.60, p<.05$ ）の 3 因子ではそれぞれに有意差が認められた。これら 3 因子のうち、最も効果が示されたのは「不安感」であった。このことから小山田（2012）の指摘にある、俳句の形式が情動的表現を抑制する側面と情緒的混乱に陥る危険性を回避する側面が効果的に働き、本研究においてもその影響が示唆されたと考えられる。同時に、石川・佐藤（2011）にある、ストレスに関連した刺激そのものや情動反応に対しての見方を筆記によって導く「認知的再体制化」の機能が効果的だったと見受けられる。

本研究の限界として、本稿ではストレスコーピングを「特定の負荷（ストレス）を対処するための行動で、常に変化する認知的行動努力」と定義した。しかしながら、俳句実作がストレスコーピングとして必ず機能するかについては、単発であった今回のデータからは断定できない。さらに、ここで得られたのは俳句を詠む前後のデータに限り、比較対象が他になく十分でないため、一概に言い切れない点も本論の懸念すべき点として挙げられる。

氏 名	永井 夕貴	学籍番号	P017025	ゼミ No.	14
テーマ	気圧変動が気分 に及ぼす影響 - Twitter 上のつぶやきを用いた検討 -				

近年、天気痛という言葉が広がっている。天気痛とは、慢性病に天気が絡んだ複雑な痛みのことを指し(佐藤, 2017)、片頭痛や脊椎症, 肩こりといった慢性痛が天気の変化によって痛みが増したり症状が変化したりする。佐藤 (2017) は、天気痛に大きく影響する天気の要素は「気温」「湿度」「気圧」とされ、この3つの要素の変化を感じることによって天気痛が引き起こされていると考えられている。その中でも佐藤 (2017) は、「気圧の変化」を大きな原因に挙げている。近年まで気温や湿度による痛みへの影響については盛んに研究が行われてきたが、気圧は気温や湿度に比べて変化を認識することが難しいためにこれまで見過ごされてきたと述べている。気圧の変化は特に天気痛として、我々の身体に影響することが明らかにされてきたが、気圧の変化が身体的な痛みだけでなく、気分のような精神的側面にも気付かぬうちに影響していることも予想される。本研究では、天気痛と共に発せられる Twitter のつぶやきを気圧変化と併せて分析することにより、気圧変化が我々の気分に影響している可能性と内容を明らかにすることを目的とした。2022 年 6 月 1 日～30 日の 1 か月間を分析対象とし、気象庁のサイトから 11 都市の気圧の変動データを収集し、全ての都市の値を各日で平均したものをを用いた。Twitter データの収集には、Python (Windows) で動作する Tweepy ライブラリ (ver.4.9.0) をを用いた。Twitter データの投稿内容は、KH Coder Ver. 3.0.0 (樋口, 2014) をを用い、計量テキスト分析を行った。まず、天気痛と気象病それぞれで収集したデータを結合し、形態素解析を行った。次に、抽出された語の出現頻度の分析を行い、出現頻度が高いが自由記述の内容とは直接関係のない語は以後の分析対象から除外することとした。さらに、出現頻度の高い語を対象とし、共起ネットワークを作成した。2022 年 6 月の気圧の変化と、天気痛気象病を含むツイート数の関係について検討を行った結果、2 つの単語を含むツイートの増減は、同じような傾向を示していた。またツイートは気圧が大きく低下した直後に大幅に増加していた。この時ほどではないものの、気圧が低下した直後にも増加傾向が認められることから、気圧の低下と天気痛気象病の自覚に関連があることが示唆された。共起ネットワークからは、「気象」「天気」「気圧」という用語と「頭痛」「体調」といった用語の共起が認められ、さらにこれらの語は「不調」「不調」「頭痛」といった、体調の悪化を示す語と関係が深いことが示された。共起ネットワークは語の最小出現数を 250 に設定して描いたが、抽出された語の中に、明確に気分や感情を示す単語は認められなかった。

氏 名	西岡 樹里	学籍番号	P019032	ゼミ No.	15
テーマ	女性ファンが女性アイドルを「推す」とは何か				

本研究は、女性アイドルの同性ファン（女性ファン）に着目して同性を推す理由や、ファン心理および社会的な影響を考察することで、同性ファンの現代的な特徴を明らかにすることを目的とした。とくに「女性が女性アイドルを『推す』ことは奇異なことか」、これを問題関心の中心に据えた。

かつての「アイドル」は異性を対象にした疑似恋愛でファンを集めて人気を獲得した。しかし、国民的アイドルになるためには同性からの支持、幅広い年齢層からの支持を獲得しなければならない。もはや異性ファンのみの支持だけでは成り立たない構造が出来上がっている。これを物語る例として、いわゆる「坂道」グループ（乃木坂 4 6、欅坂 4 6、櫻坂 4 6、日向坂 4 6 等）は同性ファンが多いことで有名である。メンバーの写真集はむしろ女性ファンに売れ、重版出来が相次ぐ。とくに当時乃木坂 4 6 メンバー「白石麻衣」のセカンド写真集「パスポート」は、30 重版、50 万部以上と驚異的な売り上げであり、女性ファンの支持がここまでの伸びをつくったといわれる。先発グループである AKB 4 8 と同じ秋元康がプロデュースしたアイドルグループであるのに、なぜ坂道グループは同性から支持されているのか。そこにはどのような心理構造および社会的広がりがあるのだろうか。いくつかの例を取り上げることですその特徴を考察した。

第 1 章では、アイドルとはそもそも何か、ファンはどのようにパターン分けできるのかを確認し、2 つの web 調査を基に、ファンの構造や「推し」の状況を検討した。第 2 章では、「推し」や「女オタク」について小説や漫画にてどのように描かれているのかを検討した。第 3 章では、女性アイドルがみえる新しい側面（強さ、近さ、ファッション性）に注目して考察した。第 1 ～ 3 章までの考察を通して「女性ファン→女性アイドル」の構造的な特徴を、以下のようにまとめることができた。

1) アイドルオタクそのものが、もはや奇異なものとして扱われなくなっている。
2) 同性を「推す」（ファンになる）ことも奇異なものではなくなっている。
3) 同性ファンは重要なマーケットとして位置づいている。

これらは、80 年代の「オタク」界限が見せた、ある種の「キモさ」とはかけ離れた像をつくっている。アイドルマーケットの広がり、LBGT への理解なども手伝って今日に至ると考えられる。

本研究を通して「女ファン→女アイドル」は奇異なものではなく、一般的なものとなっていることを明らかにすることができた。今後は、同性ファンを取り込んだ新しいアイドルが、マーケットの限界を超えてどのように活動していくのかに注目していきたい。

氏 名	巻幡 菜月	学籍番号	P019043	ゼミNo.	15
テーマ	ホームヘルパーの労働環境について				

近年、高齢化社会が進むにつれ、日本は総人口に占める 65 歳以上の人口の割合は約 29.1%（2021 年）となり、「3 人に 1 人は高齢者」の時代が近づいている。また、一人暮らしをしている高齢者やその家族で介護を必要とする人等、住宅で生活をサポートする上でサポートが必要になってくる人が増えてきている。しかし、現場で介護サービスを提供するホームヘルパーが高齢者の人数に追いついていない状況が続いている。こうした背景から人手不足やハラスメント等の問題が起きている。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大の長期化により、介護事業者の経営に深刻な影響が出ていることからヘルパーが相次いで退職し、事業が続けられなくなったことが話題となり、ホームヘルパーに対する労働環境への変化が大きく見られる。そこで本稿ではホームヘルパーに関する労働環境への変化について様々な問題を取り上げ、ホームヘルパーの労働環境に対する今後の在り方を考察することを目的とする。

第 1 章では、制度史とヘルパーの業務内容を検討した。その結果、早くから「家庭奉仕員」として活動していたが、高齢社会危機論を背景に 90 年代以降制度化が進み、現在の介護保険制度上のヘルパーとなったことが明らかになった。しかし、業務はマニュアル通りにいかないことが多く、改定を繰り返す中で複雑化していることが分かった。また、賃金・人手不足の原因やハラスメント問題などといった様々な問題も噴出していることを確認した。

第 2 章では、コロナ禍でヘルパーの支援内容にどのような影響が出ているのかを詳しくみた。人員、衛生資材の不足といった新たな課題に加え、コロナ禍以前からある課題も克服されておらず、経営問題に直結していることを確認した。

第 3 章では、前章までの全国的な課題を踏まえ、実際にホームヘルパーで働いている人に直接インタビューを行った。インタビューからは、前章までで確認した深刻な状況とは違い、ヘルパー労働自体にそこまでの悲痛な想いは確認できなかった。しかし、ヘルパー自身の高齢化から、身体の負担が増し、体力がある若い世代の人材が期待されていることも明らかとなった。地方部においてはこの傾向は強く出るものと思われる。

本研究を通して、高齢化社会が進展するにつれ、在宅介護においてはもはや家族だけでは対応できず、ヘルパーが欠かせないことが明らかになった（1 章、2 章）。しかし、実際にヘルパーにインタビューした結果からは全国的に叫ばれるほど悲痛な労働環境ではなかったが高齢化するヘルパーに押し掛かる負担は大きいものである。（3 章）。今後、ホームヘルパーがさらに深刻な状況が続くことがないように対策を考え、少しでも働きやすい環境が必要であると考え。

氏 名	三好 乃愛	学籍番号	P019049	ゼミ No.	/ 5
テーマ	観光業における SNS 活用の現状と課題				
近年、さまざまな SNS が発達し、そのユーザー数も増加し、市場規模は、拡大の一途をたどっている。ユーザー数が増加した背景のひとつとして、コロナ禍での影響が考えられる。コロナ禍は SNS に対して大きな影響を与えただけではなく、観光業にも大きな影響を与えた。 一方、コロナ禍で SNS 利用は加速した。これまでよりも更に多くのユーザーが、様々な観光地の情報を気軽に手に入れることができるようになり、観光業にとって SNS はひとつの広報手段となった。もはや SNS をうまく使うことは、観光業が生きながらえていくため重要な戦略に位置づく。 本研究では、このような背景から、アフターコロナに向けた地方創生を目標とした観光業において、SNS を活用することがどのように作用しているのかに着目し、SNS 活用が抱える課題を明らかにする。そしてこれまでにない工夫が求められているとすれば、どのようなことが求められているのかを指摘する。 第 1 章では、コロナ禍における観光と SNS の関係性について確認した。コロナ禍での行動制限を逆手に取り、SNS を上手く活用することで見事集客効果を得た観光業が存在したことがわかった。SNS を活用した観光戦略はもはや当然の戦略といえるようになり、コロナ禍にあっては、ますます重要視されていることが明らかになった。 第 2 章では、インフルエンサーを活用している観光業に着目し、また、それによって生まれてくる課題について確認した。有名なインフルエンサーを活用することで、観光業にとっては大きなメリットになる部分もある。しかしインフルエンサーの炎上のリスクも考えなければならない。不祥事を起こすようなインフルエンサーを起用した観光業にも批判が及んでしまう可能性があることがわかった。 本研究を通して、コロナ禍で SNS のユーザー数が著しく増加した現在、観光業にとって SNS は欠かせないものとなっていることが明らかになった（第 1 章）。しかし使い方によっては、批判を浴びてしまうようなリスクもあることがわかった（第 2 章）。今後、SNS と観光業のかかわりはもっと深いものとなっていくことが予想されるが、リスクマネジメントはしっかりと行っていく必要があると考える。					

氏 名	岩田あゆみ	学籍番号	P019005	ゼミ No.	16
テーマ	社会から見る日本の家のニーズの変容について				
時代と共に「家（＝住宅）」のニーズは変化している。国の政策や急激な経済成長によって日本では戦後から「持ち家社会」が形成されてきた。しかし、今日経済の長い停滞や世帯規模の縮小などにより、持ち家の取得が困難であったり、ライフスタイルに合わなかったりといった変化が近年起きている。本稿では、日本の家のニーズがどのように変化してきたのかを「社会」に着目し、その変容とともに家を持つことの意味がどう変化したのか考察した。 まず、第一章では、1970 年代前半頃から現在までの家のニーズの変化について、持ち家と賃貸に分けて考察した。総務省の統計によると、住宅数に占める持ち家率は 6 割程度で安定していた。そして、近年の人々の家のニーズは、意識調査によれば、持ち家を選ぶ人が日本では多く、持ち家志向が非常に強かったが、近年、賃貸を希望する人が増加傾向にあった。 次に、第二章では、戦後の持ち家政策とはどのようなものだったのかを考察した。戦後から政府は三本柱となる「住宅金融金庫法」、「公営住宅法」、「日本住宅公団法」を打ち出し、企業と手を組み、国民（家族）の持ち家の取得を促していた。しかし、1990 年代に入ると、それまでの住宅政策は解体された。不景気や経済の長い停滞を背景として、景気対策のために、住宅ローン減税という形で引き続き政府は住宅購入を促した。住宅は貯蓄で購入する資産ではなく、住宅ローンを用いて借金をして購入する商品に変化していった。 そして、第三章では、近年の家のニーズが変化している背景にはどのような社会的な変化があったのかを、「家を持つ」ということの意味という視点から考察した。この変化には、①天災、②家族、③消費、という三つの背景があると考え、三節に分けて分析した。まず、日本は世界と比べ非常に天災が多く、家を持つことにリスクが付きまとう。そのため、資産としての持ち家ではなく、リスクを減らすための賃貸という選択肢が増えているのではないかと考えた。二つ目の家族では、平均世帯人員が年々減少していることや核家族や単独世帯が増加していることから、そもそも持ち家や部屋数が以前よりも不必要になっていると述べた。三つ目の消費では、特にフリーマーケット文化とサブスクリプションについて触れ、商品の消費の仕方が多様化していることを述べた。 現代社会では、ライフスタイルや家族の形が非常に多様化しており、それぞれの生活に合った「家」の所有方法が選択されている。今後、少子高齢化がますます進行し、賃貸を選択する人が増加することで、地域との関係が希薄化し、孤独死等の問題につながるのではないかとと思われる。今後は賃貸住宅のコミュニティ作りのための取り組みについて考察したい。					

氏 名	大内美崎	学籍番号	P019008	ゼミNo.	16
テーマ	日本社会の性暴力に対する捉え方				

性行為に同意する能力があるとみなす年齢、いわゆる性交同意年齢は、日本では 13 歳とされている。近年、加害者が中学生の性知識の乏しさや判断能力の脆弱さに付け込み性被害につながるケースが多いとして、この年齢を引き上げるべきという方向で意見がまとまっている。しかし依然として、「真摯な恋愛」などを理由とした反対意見も存在する。本稿では、刑法での性暴力の定義、性被害の実態を元に日本社会での性暴力の捉えられ方を分析し、日本の性暴力被害の背景を整理した。そしてこれを踏まえ、性交同意年齢引き上げ反対意見が主張される背景にある、日本社会における性の問題について考察した。

まず第 1 章では、本稿での性暴力を「加害者からの一方的かつ強制的な行為」と捉えた上で、刑法ではどのように定義されているのか確認した。刑法は 1907（明治 40）年に制定され、性犯罪に関する規定は、2017（平成 29）年に大幅な改正が行われた。しかし依然として性交同意年齢は刑法制定当時から 13 歳のまま変化しておらず、近年この年齢を引き上げるべきであると問題視されていた。

次に第 2 章では、内閣府の調査をもとに、日本の性暴力被害の実態を確認した。2020（令和 2）年の調査では、男女合計で約 24 人に 1 人、女性のみだと約 14 人に 1 人は無理やり性交等をされた経験があるという、決して少ないとはいえない結果となっていた。また、被害者と加害者との関係は、ほとんど顔見知りという結果が示され、被害の相談をしていない人が多かった。世間の性暴力に対する認識と現状にはズレが生じており、この背景には、強姦に関して根拠はないが世の中で広く受け入れられている見解「強姦神話」（レイプ神話）の存在があるからではないかと考察した。

そして第 3 章では、強姦神話が否定されず、広く受け入れられている背景には、日本の性に関する人権の考え方に問題があるのではないかと考察した。世界の性的人権をめぐる世界の動きと比較すると、日本は長らく男性中心の性秩序により性的人権が認められてこなかった、と述べた。その影響が性教育にも及んでいるのではないだろうか。日本では、1990 年代には性教育に関しても学習指導要領が改訂されたが、それでも実際には文科省の性教育政策、学校現場における性教育の実態、性教育の受け手側（生徒側）の実態という三つの視点で様々な課題が生じており、ユネスコが 2009（平成 21）年に発表した「包括的性教育」から見ても遅れている。そしてこのことが、性的人権についての意識の遅れを生む。このような性的人権と性教育という性の問題が、性交同意年齢引き上げの反対意見への背景にあるのではないかと考えた。まずは日本の性教育の制度的基盤を整え、詳しい性知識・性的人権の考え方を学ぶことが、これらの問題の解決につながるのではないだろうか。

氏 名	長井 美優	学籍番号	P019030	ゼミ No.	16
テーマ	ペットと防災				
日本は多くの自然災害に見舞われる国である。気象庁によると南海トラフ巨大地震が 30 年以内に 70%から 80%の確率で発生するといわれ、大規模な災害で最大震度 7 が想定されている。現在ペットがいる家庭は増加しており、そうした災害時はペットを守る必要があるがペットを飼っていない家族や動物を苦手とする人にとって、同伴避難は理解しがたいとも考えられる。本稿では、ペットを飼うことの意味が大きくなっている現在、どんな立場の人へも理解をしてもらうことが出来るよう現状と課題、それに対する解決策を考察した。 第一章ではペットを飼っている人の割合が増加しているとともにペットとなる動物の種類も多様化してきている状況を述べた。多様化するとともにその動物に適した環境も異なってきている。そのため、それぞれの動物に適した環境を避難所で作るのには難しく、またアレルギー問題などが出てきていることなどが同行避難の課題である。一方、「動物愛護法」が 1973 年に制定され二度の改正が行われ、現在では懲役や罰金などの罰則も厳しくなるなど動物の権利についての意識も高まってきている。そのような中で、防災を考えていく上でもペットへの対応・配慮は外せない。 第二章では過去の三つの災害を取り上げて、動物の被害や避難の状況を考察した。2011(平成 23)年の東日本大震災ではペットとの同行避難に対してあまり考えられなかったことが大きな原因で多数のペットが犠牲になった。2016(平成 28)年の熊本地震でペットとの同行避難に対する避難所の対応の違いや誤った解釈がペットと飼い主に不安をもたらし、実際に避難が出来たのは約半数だった。2018(平成 30)年の西日本豪雨災害ではペットとの同行避難を推奨していたことから同行避難をしていた家族も少なくなく、支援物資も充実していた。しかし、「同行避難の難しさ」を目の当たりにした災害でもあった。一方でこれらの災害の経験を経て、ペットとの防災対策をしている人は徐々に増えている。 第三章では公的な取り組みと民間での取り組みを、環境省、愛媛県と松山市の取り組みなどをホームページやガイドライン、マップ等により考察した。どの資料からでも防災や同行避難を行う上で一番重要と位置づけられていたのは飼い主の「自助」であった。そしてその「自助」の助けとなる情報や実践的な避難訓練、さまざまなリスクに備えて対策を住民と行うことで今後、ペットとの同行避難は可能になると考察した。 自然災害から家族であるペットを守る為、私たちが今できること、考え方を改め直すことを常に意識していかなければならない。動物の存在の大切さと共生することを理解していかなければならない。災害はいつ起こるか分からないからこそ日ごろの情報収集やペットとの避難の理解、備えや訓練、意識の更なる向上が今後の大きな災害に大きな影響を与え、救われる動物の命が増えてくるのではないだろうか。					

氏 名	永山里桜	学籍番号	P019031	ゼミ No.	16
テーマ	映画『バットマン』シリーズから読み解くアメリカ社会				

映画作品において、描写や表現のされ方など様々な要素が時代とともに変化してきている。本稿では、1966 年から現在まで制作され続けている、実写映画『バットマン』シリーズの内、『バットマン オリジナル・ムービー』（1966）『バットマン』（1989）『ダークナイト』（2008）『ジョーカー』（2019）の四作品を取り上げ、映画としての変化とアメリカ社会の変化を比較し、それらの関係性について考察した。

第一章では、『バットマン』の主人公「バットマン」、その敵「ジョーカー」についての基本設定をまとめた。本作品の舞台は、ニューヨークをモデルとするゴッサム・シティである。主人公バットマンは、犯罪撲滅のために活動するヒーローだが、超能力は持っていない。敵のジョーカーは、ピエロのような見た目の不気味なキャラクターである。その決定的な生い立ちについては不明とされており、作品によって異なる。

第二章では、四つの作品を比較し、それぞれの違いや特徴について述べた。一作目では、街は平和な様子である。バットマンはヒーローとして十分に機能しており、市民からも信頼されていた。ジョーカーは、世界征服のためにいたずら程度の悪事を行っている。二作目では、街の治安の悪さが表れている。バットマンは、市民からは都市伝説程度にしか知られていない存在となっている。ジョーカーは、前作と比べて残虐な行為を行っている。三作目では、街の中で犯罪数が増加しており、汚職事件なども起きている。バットマンは自身の活動に疑問を抱くようになっており、ジョーカーも、人間の本性や善悪とは何かを問いかけてくるキャラクターとなっている。さらに四作目は、ジョーカーの生い立ちに焦点を当てたストーリーで、普通の青年が社会の中で抑圧され、犯罪者ジョーカーへとようになっていく過程が描かれている。

第三章では、善悪の対比に焦点を当てて『バットマン』シリーズの変化についてまとめ、アメリカ社会の変化と比較して考察を行った。初期の作品では、「バットマン」対「ジョーカー」が「善」対「悪」として明確に分けて描かれていたが、近年の作品では、「バットマン＝完璧な正義」ではなくなってきており、四作目では、ジョーカーの背景や心理、行動の理由などが描かれ、ジョーカー側に共感できる作品になっている。このような、映画としての善悪の変化には、アメリカ社会の変化が影響していると考察した。そのうちの 하나가、対立構造の複雑化である。「黒人」対「白人主義」として対立していた人種問題が、1966 年から 1989 年の間に、公民権運動の中での組織同士の分断や、同人種内での争いや格差により、より複雑な対立構造となっていった。また、2001 年の同時多発テロやその後の対テロ戦争、銃規制問題などにより、何が正しく何が悪いかという問題が複雑なものになった。アメリカにとっての悪や、世界にとっての悪などが変化していったのである。このように、アメリカ社会において問題意識や価値観は変化しており、善と悪は単純な構図ではなくなった。そして、それは『バットマン』シリーズにも反映されており、バットマン＝善、ジョーカー＝悪ではなくなっているのである。

氏 名	本田桜子	学籍番号	p019042	ゼミ No.	16
テーマ	戦後の小学校における道徳教育の変化とこれから				

私たちは、人に優しくしたり物を大切にしたりすることを当たり前のように良いことだと思っている。このような気持ちや判断の基準は、日常生活の中で徐々に身につについていく。さらに、小学校や中学校では「道徳」という時間が設けられており、子どもたちは先生や教材から「良い心」を教わることもある。本稿では、義務教育のはじまりである小学校での教科「道徳」を取り上げ、道徳を通して大人たちが子どもたちに何を伝えようとしてきたかを考察した。そして、平成 28 年度の学習指導要領によって「道徳の時間」から「特別の教科 道徳(道徳科)」へと変化した道徳教育のこれからを考えた。

第 1 章では、いまの道徳教育の変遷を記述した。第二次世界大戦以前の日本では、「修身」という科目で道徳教育が行われていたが、敗戦後は連合国総司令部によって廃止された。その後の道徳教育は、社会科をはじめ各教科その他教育活動全体を通じて行うこととされていたが、文部省は期待した効果を得られなかったため（文部科学省『学制百二十年史』）、昭和 33 年から学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充・深化・統合するための時間として、道徳が特別に時間を設けられることとなった。平成 29 年には、平成 25 年 2 月に第二次安倍内閣が設置した教育再生実行会議における「いじめ問題等への対応について（第一次提言）」をきっかけとし、「特別な教科 道徳」として道徳教育が行われることとなった。

第 2 章では、学習指導要領の変遷、道徳の教材とその内容における特徴をまとめた。道徳教育は改正ごとに重要性が強まり、学校教育の要とされたり道徳教育推進教師が置かれたりし、平成 28 年には教科化もした。指導内容では特に、平成元年から徐々に集団や社会とのかかわりに関する項目が増えていった。教材としては、道徳教育を補助する目的で平成 14 年に『心のノート』が作られたが、これを改定する形で平成 26 年に『私たちの道徳』が作成された。改定後の教材は、物語や情報モラル、先人の功績などが加えられ、「答えは一つじゃない」ことも明記された。

第 3 章では、学校側の意見や課題を参考にし、これからの道徳教育について考察した。文部科学省の調査から、学校側は指導の方法や道徳教育に係る時間の確保、評価の妥当性や信頼性を担保することなどの課題を抱えていることがわかった。しかし、教師の働き方改革・負担軽減との兼ね合いが難しかったり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によって体験活動に制限があったりして解決は困難である。そもそも道徳そのものあるいは「正しいこと」が、教材に「答えは一つじゃないよ」と記されているように曖昧で答えのないもの、もしくは人によって答えが異なるものであることから、正解の方法が示されていない。しかし、疑問を持って調査をし、改善し続けることによって道徳教育は道徳教育であり続けるのではないだろうか。

氏 名	三好真奈	学籍番号	P019050	ゼミ No.	16
テーマ	現在におけるファッションとアイデンティティの関係について				

ファッションは「流行」という意味だけではなく、服装や身にまとうスタイル全体の意味として多く用いられている。現在、流行にとらわれないファッションが目立つようになった。本稿では、ファッションが、アイデンティティの形成や自己意識に繋がると考え、その点に注目して、ファッションを通して自己意識を深め、どのようにアイデンティティ形成に繋がっているのかを考察した。また、ファッション雑誌を通して、日本の若者の昔と現在の自己表現の仕方や重視しているものの違いを比較して考察した。

まず、第一章では、ファッションや衣服役割やアイデンティティ、流行の意味についてそれぞれ述べた。人間が服を身にまとうことには保健衛生的機能と社会的機能があるが、この社会的機能のうちの自己表現に注目した。ファッションは、身分制の社会で自分の身分を表すものから、社会の重要な思想として「自由と平等」を重んじたことで、人々は自分を自由に表現するようになったと考える。また、「自分というもの」の不変性・一貫性・独自性がアイデンティティであり、自己は「知る自己」「知られる自己」に分けられる。「知られる自己」のうちの物質的自己には、自分の身体や衣服などがあたかも自分自身の延長であるかのように感じるものである。そして、自己過程には「自己の姿への注目」「自己の姿の把握」「自己の姿への評価」「自己の姿の表出」の四段階からなり、自己とアイデンティティは、内からだけではなく外からも影響していると考え、その一つにファッションがあるのではないかと考察した。

次に第二章では、流行を媒体とするメディアの一つであるファッション雑誌から 1970 年代 1980 年代と現在の比較を行った。ファッション雑誌の歴史を述べた後、実際に『non-no』『CanCam』の雑誌の記事やトピックから特徴的な言葉を取り出してリスト化し、それをさらにユーザーローカルテキストマイニングツールを用いて比較と分析をした。1970 年代 1980 年代は周りからの印象や好感度、評価を意識している内容のものが多く多いのに対し、現在の年代では、自分の気分や好みのテイストを意識した内容が多く見られた。

第三章では、近年の SNS やインターネットの普及により、ファッション雑誌の発行部数が年々減少していることを述べた。今日、流行が消えつつあるのはメディアの変容が大きく関わっていると考える。そのような中、ファッションによるアイデンティティづくりは、画一性への社会的要請と個性を求める内的欲望との葛藤のはざまにある。そして今日では、ファッションによるアイデンティティ形成の中で「一般化された他者」ではなく、あくまで「重要な他者」が自己表現やアイデンティティの確立に重要な役割なのである。

氏 名	安井喜歌	学籍番号	P019051	ゼミ No.	16
テーマ	1960 年代から 1970 年代におけるロックの変遷と社会との関係				

1960 年代から 1970 年代は「ロックの黄金時代」とも呼ばれており、とりわけアメリカやイギリスなどの欧米を中心に発展した文化と言える。1950 年代にアメリカで生まれたロックは、1960 年代から 1970 年代にかけて、音楽的にもさまざまなかたちに展開し、当時の社会情勢や社会運動などとも深くかかわっていた。そこで、本稿では 1960 年代から 1970 年代のロックの変遷を通して、文化としてのロックと社会との関係性について考察した。

まず、前時代の 50 年代に着目した。特に、50 年代は社会的に人種差別があった。それにもかかわらず、黒人音楽をルーツとしてできたロックは、白人文化と融合したことで、より大衆性を帯びて、若者たちから絶大な人気を集めた。

60 年代になると、アメリカを中心に、公民権運動やベトナム反戦運動などの社会運動の活発化があり、ロックシーンではそのような社会運動に直接かかわりながら社会に還元した者たちがいた。また、直接はかかわらずとも、楽曲を通して間接的に当時の社会における不安や恐怖を表現する者たちもいた。さらに、ヒッピー・ムーブメントとの結びつきにより、60 年代のロックと社会の関係性を象徴する、大規模な音楽イベントであるウッドストック・フェスティバルが開催されるまでに至った。ヒッピー・ムーブメントは、社会から敢えて距離を置くという立場を取っていた側面もあった。このように、社会との関わりという点で見ると、60 年代はロックシーンの中でも三通りの立場が存在したと言える。

70 年代には、ロックはジャンルとして確立し、その中で音楽性も価値観も異なるロックが現れて細分化していった。グラム・ロックは、中性的な性の表現をパフォーマンスに盛り込み、社会や他のロックコミュニティに対しても、新たな性の価値観を提示した。パンク・ロックは、当時の政治的な不況や社会的閉塞状況を背景として、政治や社会に対する怒りや不満を暴力的に表現し、対抗していった。また、当時の社会背景からロンドンでパンク・ムーブメントが起こるに至り、さらに、ロックシーンの中で、立場がクラシック化していたプログレッシブ・ロックなどにも対抗していった。

70 年代のロックは、60 年代に比べれば政治性は薄れていたかもしれないが、それぞれのロックコミュニティが社会に対して立場をとっていた。この時期のロックは、対抗性やそれぞれの立場の明確化、またロックという文化の中で、それぞれの何かを主張したり否定したりする意思をもつという意味であり、やはり政治性があったと言える。社会とのかかわり方はアーティストによって異なるが、ロック自体に互いの主張をさまざまなかたちで表現することで、対抗するという特徴があり、それこそが 60 年代から 70 年代のロックの本質だと考える。ロックは社会でアウトサイダー的な位置にいるが、だからこそ、音楽を通して人の心や社会を動かす衝撃を与えることもできたのではないだろうか。

氏 名	渡部史奈	学籍番号	P019058	ゼミ No.	16
テーマ	オリンピックから考える男女混合スポーツ				
2020 年東京オリンピックで掲げられた「多様性と調和」というコンセプトにおいて、大会組織委員会は、女性の参加率の増加に取り組み、さらに、男女混合種目の増加に取り組んだ。近年、スポーツにおける性的マイノリティーの選手への理解や環境の整備が進んでいる。本論ではその中でもオリンピックでの男女混合種目といった「男女混合スポーツ」について取り上げ、スポーツとジェンダー平等の視点から男女混合スポーツはジェンダー平等の観点からどのようにとらえられるのか、多様化する性別とスポーツの関係において、男女混合スポーツが今後どうあるべきかを考察した。 第一章では、男性が中心となって発展した近代スポーツの歴史を通じて、スポーツにおける平等について述べた。近代スポーツはイギリスで発祥し、上流階級の異性愛者の男性の教育手段として用いられていた。その後も女性と男性を区別することを当然とし、その上で、女性の参加種目・競技の拡大、女性選手の参加拡大に取り組んできた。ここでは、性別を女性と男性に完全に区別することで、身体的性差のある男女の実質的な平等を成り立たせている。 第二章では、オリンピックとパラリンピックを取り上げ、性別がどのようにそこに組み込まれてきたか、また、どのような施策がなされ、現在の課題は何かを述べた。20 世紀になるにつれて女性の地位向上がうたわれるようになり、近年のオリンピックやパラリンピックでは男性と比べて競技数や種目数、参加機会においてかなり平等に近づいている。一方で、男性が参加しづらいスポーツが増えるという問題もある。多様な性に対しては、男性から女性となったトランスジェンダー選手に対するガイドラインを設けるなどの対応が進められてきた。しかし、インターセックス状態の選手や性的指向・セクシュアリティについての差別は無くなっておらず、全てのマイノリティーな性に対する平等なスポーツ環境が整っているとはいえない。 第三章では、一、二章を基に男女混合スポーツがジェンダー平等につながるのかという問題について考察した。男女混合スポーツは、スポーツに根付いていた「女らしさ」や「男らしさ」という概念をなくす効果がある。男女混合スポーツはジェンダー平等の中でも男女の平等のための取り組みであると言えることができる。しかし、マイノリティーな性を含むすべてのジェンダーの平等とはいえない一面を持つ。 スポーツは男女別に行われることで発展し、それは男女の性差や参加機会という点では、実質的に平等であった。しかし近年は男女だけでなく、多様な性が受け入れられ始めている。男女混合スポーツは、心の性や性的指向など性的多様性のもとでの「ジェンダー平等」の取り組みとはいえない。男女混合スポーツは男女だけでなく様々な性が参加し、楽しむことができるスポーツとして進化していくことが望ましい。					